

4. 施設計画

4. 施設計画

4-1 基本理念

市は、超高齢社会が更に進展すると予測される中で、スポーツや運動を通じた市民の健康寿命の延伸を目指します。新南平体育館は、市南部地域の健康・スポーツの身近な活動場所として、市の北部に位置する市民の森ふれあいホールとともに二大スポーツ拠点としての役割を担います。また、大規模公共施設として、地域の様々な活動場所ともなるべく「交流」・「健康」・「防災」の3つの視点から施設計画を進めます。

1つ目の「交流」については、周辺地域の行事や発表会等、市民交流が生まれるような多目的な利用を可能とし、コミュニティ活動が盛んになることで賑わいを創出します。

2つ目の「健康」については、これまでの競技スペースや設備を拡大充実させるとともに、障害者スポーツの振興や身近な健康づくり、体力づくりを支えます。

3つ目の「防災」については、災害に対し安全な公共施設として整備することで、南部地域の防災の拠点として、また周辺地域の身近な避難場所としての役割を担います。

以上の3つの理念を計画の中心に位置付け施設計画を検討していきます。

①交流	地域活動・クラブ活動の場	スポーツだけに限らず、地域の人々が趣味や娯楽等さまざまなコミュニティ活動を行える多目的室や集会室を備えます。	
	市民地域交流の場	屋外に調理スペースや分電盤を設置することで、なおBON祭り等の地域の催事にも対応でき、市民の地域交流の場として活用できる施設とします。	
	地域行事・文化行事等の会場	観覧席を設置することで発表会や選挙等市民生活に必要な行事にも対応できる施設とします。	
②健康	健康相談室	地域住民の方々の健康づくりや体力づくりの相談に乗り、アドバイスを受けられる機能を備えます。	
	体力テスト	高齢者のための無理のない体力測定を行い、測定結果をもとに今後の健康維持についてアドバイスを受けられる機能を備えます。	

	トレーニングルーム、ランニングコースの開放	明るく広いトレーニングルームで誰でも気軽に体力づくりができます。また、ランニングコースをアリーナ2階に設置し、天候に左右されない体力づくりを可能とします。	
	体操教室	子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方の健康づくりをサポートするための各種体操教室が開催できる施設とします。	
	ウォーキングセンター	ウォーキングの拠点施設と位置づけ、ウォーキングをする人に対しての更衣室及びシャワーの開放等を検討します。	
③防災	防災備蓄倉庫の設置	災害時に備えた備蓄倉庫を設置し、非常用食料品・水・防災備品等の備蓄をします。さらに、倉庫には、仮設テントやマンホールトイレ、ユニバーサルトイレなどの保管も想定します。	
	避難所としての役割	緊急時の一時的な避難場所として施設を開放します。災害時を想定した武道用マットや卓球フェンスカバーなどの備品の常備、マンホールトイレ用のマンホールの整備、普段はベンチ、災害時には炊き出しを可能とするかまどベンチの設置の検討など地域住民の安心安全を守ります。また十分な耐震性とバリアフリー化により、だれにとっても容易で不自由のない環境整備を目指します。	
	災害時に使用可能な非常用電源設備の導入	環境への負荷を考慮すると同時に、停電時の電力確保を目的とし、太陽光発電及び蓄電システムの導入を検討します。	

【出典：日野市 HP】

4-2 必要諸室及び機能

利用者アンケートや関係者ヒアリングの結果、また、ふれあいホールとの役割分担等も踏まえ、必要諸室について以下に整理しました。各諸室の大きさについては、競技ごとの標準的な大きさ（資料編参照）を考慮した計画としました。

	室名	面積 (㎡)	備考	想定利用方法	防災・交流
1階	アリーナ	1517.00	・観覧席420席（引出し式ベンチ） ・2階ランニングコース ・冷暖房の設置 ・各競技に適した照明 ・倉庫	バスケットボール 1面 バレーボール 2面 バドミントン（ミニテニス） 8面 フットサルコート 1面 卓球 8面 (すべて公式サイズを想定)	・物資集積所 ・一時避難所 ・スポーツ競技大会 ・地域の夏祭り、納涼会等の催事 ・文化イベント（式典、講演会、展示会） ・近隣の小中高生の施設見学 ・清掃活動の拠点
	多目的ルーム1	459.00	・柔道、剣道、空手などの武道に対応 ・ミラーの設置（ダンス・エアロビ）	剣道 2面 柔道 2面 体操(競技用) 1面 ダンス・体操 約170名 ヨガ 約108名	・災害対策現地本部 ・一時避難所 (武道用マット等の備品の常備) ・地域交流（市民まつり）
	多目的ルーム2	126.00	・多目的な利用が可能 ・ダンス、軽体操等の教室利用 ・研修会や講習会などの文化活動 ・ミラー設置 音響装置の設置	ダンス・体操 約41名 ヨガ 約28名 会議（講義）：最大使用人数 約54名	・災害時の思いやりスペース ・地域懇談会や健康体操、ものづくり等の開催 ・地域老人会との交流 文化交流
	トレーニングルーム	186.00		市民の個人利用	・市民の健康増進を目的とした各種トレーニング機材の配置 ・スポーツボランティアによる見守り ・災害時の思いやりスペース
	控室1	42.00		選手控室	・災害時の思いやりスペース
	控室2	42.00		選手控室	・災害時の思いやりスペース
	器具庫1	102.00		各種スポーツの器具の保管	
	器具庫2	90.00		各種スポーツの器具の保管	
	倉庫	76.50		各種スポーツの器具の保管	
	受付事務室	51.00		施設全体の運営や入館者の管理	近隣の小中学生による職場体験
	休憩室	28.00	事務室と隣接、貸出用具室と兼用	管理者休憩室兼貸出用具保管室	・災害時の思いやりスペース
	放送室	20.00		館内放送	非常時の館内放送
	医務室	20.00		健康相談	
	男子更衣室・ロッカー室	74.25			
	女子更衣室・ロッカー室	74.25			
	車椅子用更衣室 シャワー室	6.00	障害者用シャワー室の設置 棚の設置		
	男子便所	25.25	おむつ交換用ベッド付き		
	女子便所	23.25	おむつ交換用ベッド付き		
	多目的便所	4.00	オストメイト対応		
	機械室	127.50			
	防災備蓄倉庫	76.50		災害時用の物資備蓄倉庫	・物資保管倉庫
2階	弓道場	492.00	・840㎡のうち屋内部分492㎡ (矢道部分屋外) ・観覧スペースの設置	弓道 5人立ち アーチェリー	災害時仮設テントの設置が可能
	集会室	90.00		会議(講義)：最大使用人数 約36名 2人掛けデスク 18台 オフィス用チェア 36脚	・講習会や研修会での利用 ・市民や利用団体の会議等での利用 ・グループワーク セミナー・講習会 ・災害ボランティア講習会
	ランニングコース	354.00		市民の個人利用	・近隣の小中高生の施設見学
	観覧スペース (卓球常設)	266.50	・引出し式ベンチ 420席 ⇒普段は卓球台を常設し卓球スペースとする	卓球台4台	一時避難所
	倉庫	20.00		卓球台保管スペース	
	男子便所	29.00	おむつ交換用ベッド付き		
	女子便所	27.00	おむつ交換用ベッド付き		
	多目的便所	4.00	オストメイト対応		
	車椅子用更衣室 シャワー室	6.00	障害者用シャワー室の設置 棚の設置		
	機械室	399.00			
	駐車場	45台			
	駐輪場	80台			

※オストメイト・・・病気などによって臓器に機能障害を負い、人工的に排泄するための孔を腹部に造設した人のこと。

4-3 交流機能

新南平体育館はスポーツに限った施設ではなく、地域住民の交流の場として賑わいを生む中心的な施設と位置づけ、交流機能を充実させた計画を前提とします。

施設全体	・子供から高齢者、障害者の方など、だれでも気軽に利用できる ・スポーツに限らず、市民の地域交流の場として多様に活用できる ・地域の人々が様々なコミュニティ活動を行える
エントランスホール	体育館利用者以外の地域住民の来館を想定し、だれでも気軽に立寄れる開放感のある計画とします。市民の交流の場として、日々の生活の延長にある身近な憩いの空間を提供します。 また、様々な展示が行えるスペースや設備の導入により、市民の活動やスポーツに関する情報の公開を検討します。
廊下	十分な幅員をとった廊下には、ベンチ等の効率的な設置により、気軽に腰がかけられ、自然と会話が弾むような工夫を施します。
アリーナ	地域行事や文化行事に対応できるよう、展示パネルや簡易ステージ、ロールマットといった備品の収納スペースの確保に努めます。また、行事の際に必要な物品の搬出入を想定します。
集会室 多目的室	スポーツ目的以外の人に対しても広く開放し、地域の人々の様々なコミュニティ活動や研修などで利用できるよう計画します。
飲食スペース	体育館利用者や来館者が、交流・休憩の場として利用できるスペースとし、テーブルや椅子を配置しくつろぎの空間をつくります。 また、市民の活動やスポーツに関する様々な展示が行えるよう、展示設備の導入を検討します。
ランニングコース	市民の日常的な健康づくりの場として開放します。



4-4 防災対応

平成 28 年 9 月の「関東・東北豪雨」による甚大な被害等を踏まえ、平成 28 年 5 月に国土交通省により多摩川・浅川の浸水被害想定区域の変更がなされました。その結果、新たに南平小学校が風水害時に指定避難所としての利用が不可能となることが判明し、隣接する南平体育館が大きな役割を担う必要性が生じました。また、周辺地区は浅川および多摩丘陵にはさまれた環境にあり、震災時に避難する指定避難所も限定されます。これらを踏まえ、南平体育館を浅川右岸地区の防災拠点として位置づけるとともに、併せて避難所としての活用を検討します。

■他施設における防災対応

以下に、類似他施設における防災対応の事例を示します。

施設名	施設概要									
	所在地	建設年月日	延床面積 (㎡)	避難区分	災害対応項目	仕様	設置数	能力 (kw)	燃料	整備内容・目的
三刀屋町文化体育館 アスバル	島根県雲南市	2000/04	10,074	一時避難場所	空調設備	空調専用常用ディーゼル発電機440V	1	500	ディーゼル	空調設備の維持管理費の低減及び災害時建物内電力利用
高石市立総合体育館	大阪府高石市	2015/04	4,317	避難所	非常用電源	-	1	150kva	軽油	災害時利用・950 L の軽油で最大40時間稼働が可能
浦安市運動公園総合体育館	千葉県浦安市	1999/06	14,537	避難所	建物使用電源・空調設備	ガスエンジンコージェネレーション	1	350	ガス	停電時にガスで発電し、電力を供給するとともに空調等を動かす
エスフォルタアリーナ八王子	東京都八王子市	2014/10	23,092	避難所	非常用電源	-	2	1,000	ガス	災害時用空調・照明利用
万代長嶺小学校体育館	新潟市中央区	2005/03	4,197	避難所	トイレ用洗浄水	体育館内男女トイレ	1	-	雨水	屋根雨水をろ過し、トイレの洗浄水として再利用
茅ヶ崎総合体育館	神奈川県茅ヶ崎市	1989	12,250	広域避難場所	備蓄倉庫	-	1	-	-	食糧 (112,300 食)、給食給水用具、救急用具、救護品等ほぼ全ての種類の備蓄品を備え災害時に活用

■本施設における防災対応

□防災拠点等としての位置づけに必要な機能

災害により浅川に架かる橋梁の破壊により市が南北で分断されることも想定し、以下の通り災害時の浅川右岸地区のコントロール機能及び避難者受け入れ機能等の整備が必要と考えます。各機能に要する資機材等については、設計段階で検討します。

①情報発信機能

災害により電話等の情報伝達手段が途絶えることが予測されるため、無線設備その他の整備を検討します。(防災行政無線、Wi-Fi、衛星電話、庁内 LAN 等)

②避難所機能

浅川右岸地区は人口に比べ避難所が少ないため整備が必要となります。災害時要配慮者等の避難を優先するなど避難者の受け入れ体制については今後検討します。
(浄水機、災害時優先電話、テレビ、テレビアンテナ、災害対応トイレ、ゴムボート等)

③物資集積機能

指定避難所となる小中学校を中心に防災備蓄倉庫を設置し、分散して公的備蓄を行っているが、防災拠点としての集中的な備蓄及び物資集積拠点として必要な資機材の整備を検討します。(フォークリフト、燃料タンク、台車、脚立、ヘリポート等)

□その他検討項目

以下に、本施設における防災対応にあたってのその他検討項目を示します。導入の可否等、詳細な検討については以降の設計業務にて検討を行うものとします。

○インフラバックアップ

- ・自家発電設備
- ・太陽光発電、蓄電池
- ・受水槽への取水口、緊急遮断弁の設置
- ・非常用飲料水の利用

○その他

- ・防災備蓄倉庫
- ・マンホールトイレ
- ・ユニバーサルトイレ
- ・屋外調理スペース
- ・分電盤
- ・武道用マット
- ・災害時対応卓球フェンスカバー
- ・かまどベンチ



■その他

□備蓄内容について

市内の同種施設である市民の森ふれあいホールにおいて、防災倉庫に備蓄されている内容は下記の通りであり、新南平体育館も同等の備蓄が想定されます。ただし、施設規模の違いにより、数量については差が出ることが予想されます。

＜市民の森ふれあいホール防災備蓄倉庫の備蓄一覧＞

食糧	アルファ米（15,000食）、保存水 500mL：1440本
資器材	パーテーション（100張）、更衣室（22張）、かまどセット（1セット）、マンホールトイレ（9セット）、応急給水セット（5セット）、ヘルプカード（50枚）、特設公衆電話用電話機（5台）、給水袋（5,000袋）、ボート（1艇）、ライフジャケット（10着）、毛布（150枚）

□ガスを熱源とした場合の検討

災害時には、停電などにより普段使用している照明や空調、給湯設備が利用できなくなる可能性が考えられます。防災拠点ともなる新南平体育館では、そういった可能性を極力回避するため、ガスを熱源とした場合の検討をします。

＜ガスを熱源とした場合のメリット＞

- ・災害などの非常時において、中圧ガスの利用による供給信頼性が高い。
- ・停電時あらかじめ選定した負荷での電気の使用が可能。

＜ガス熱源とした場合の配置案＞

用途		機器名	機器規模	台数
空調	アリーナ	ガスヒートポンプ（GHP）	30HP	4 台
	アリーナ以外	停電自立型 GHP	20HP	7 台
発電		停電自立型小型コージェネレーションシステム（CGS）	25kW	2 台
給湯		業務用小型給湯器	87.2kW	4 台

＜選定根拠＞

空調	・実際の体育館計画事例を参考に空調規模を想定。 ・空調面積：アリーナ 1500 m²、アリーナ以外：4000 m²として検討。 ・アリーナは標準機、アリーナ以外は停電対応型と、系統を分けることで災害時のリスクの分散を図る。
CGS の規模	・停電時の発電負荷をアリーナ用の空調電源とアリーナ用の照明を確保可能な発電容量とする。（リレー運転を想定） ・災害時の運転にあわせて規模を選定、通常時の廃熱利用先は給湯とする。
給湯器の規模	実際のスポーツクラブ事例を参考に給湯規模を選定。

既設の中圧ラインからの導管の敷設にかかる費用等を含め、今後も検討を進めます。

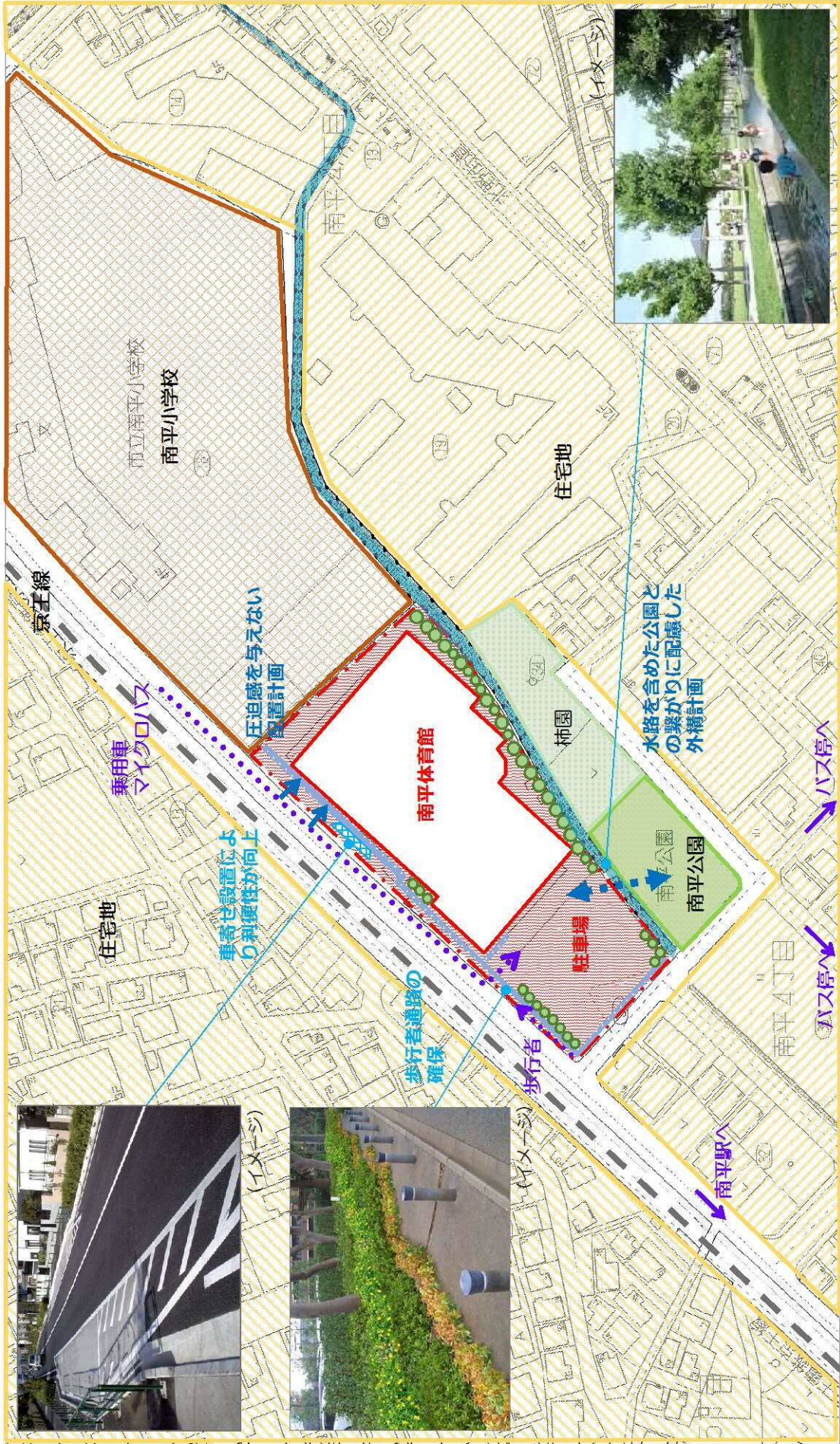
4-5 敷地利用計画

新南平体育館は、市の施策方針や市民ニーズ建物規模を大きくしていく必要があるが、本計画地は、都市計画法では住居系用途地域に指定されていることから、周辺の住環境への配慮が大きな前提となります。

土地利用にあたっては、周辺住環境と調和した一体利用を図りつつ以下の項目に配慮します。

- ・ 建築できる建築物の用途は、公共体育館及び公益上必要なものに限ります。
- ・ 建築物の敷地面積は6,000㎡以上とし、公共空地の確保に努めます。
- ・ 建築物の外壁又はこれに代わる柱の面から隣地境界線までの距離を1m以上設けます。
- ・ 建築物等の形態又は色彩その他の意匠については、外壁又はこれに代わる柱及び屋根並びに工作物の色彩は刺激的な色を避け、周辺環境と調和した落ち着きのある色調とします。ただし、周辺環境との調和を著しく損なわない範囲で、賑わいの感じられる明るい色調とします。
- ・ 歩行者の安全性を向上させるため、道路境界には歩行者通路を設けます。
- ・ 円滑な周辺道路交通を考慮し、バスなども寄り付ける車寄せを設けます。
- ・ 道路に面する垣又はさく（門柱を除く。）の構造は、生垣又は透視可能なフェンスとし、高さ0.6m以下のコンクリートブロック塀等は除くものとします。
- ・ 良好な景観と緑豊かな市街地を形成するため、南側公園、水路とのつながりに配慮し、敷地内、屋上、壁面、ベランダ等の緑化に努めます。
- ・ 地区の北西角のT字交差点については、見通しの良い公共空間を設けます。
- ・ 発生交通量を抑制するための公共交通の利用促進等の対応を検討していきます。

次頁に敷地利用計画を示します。



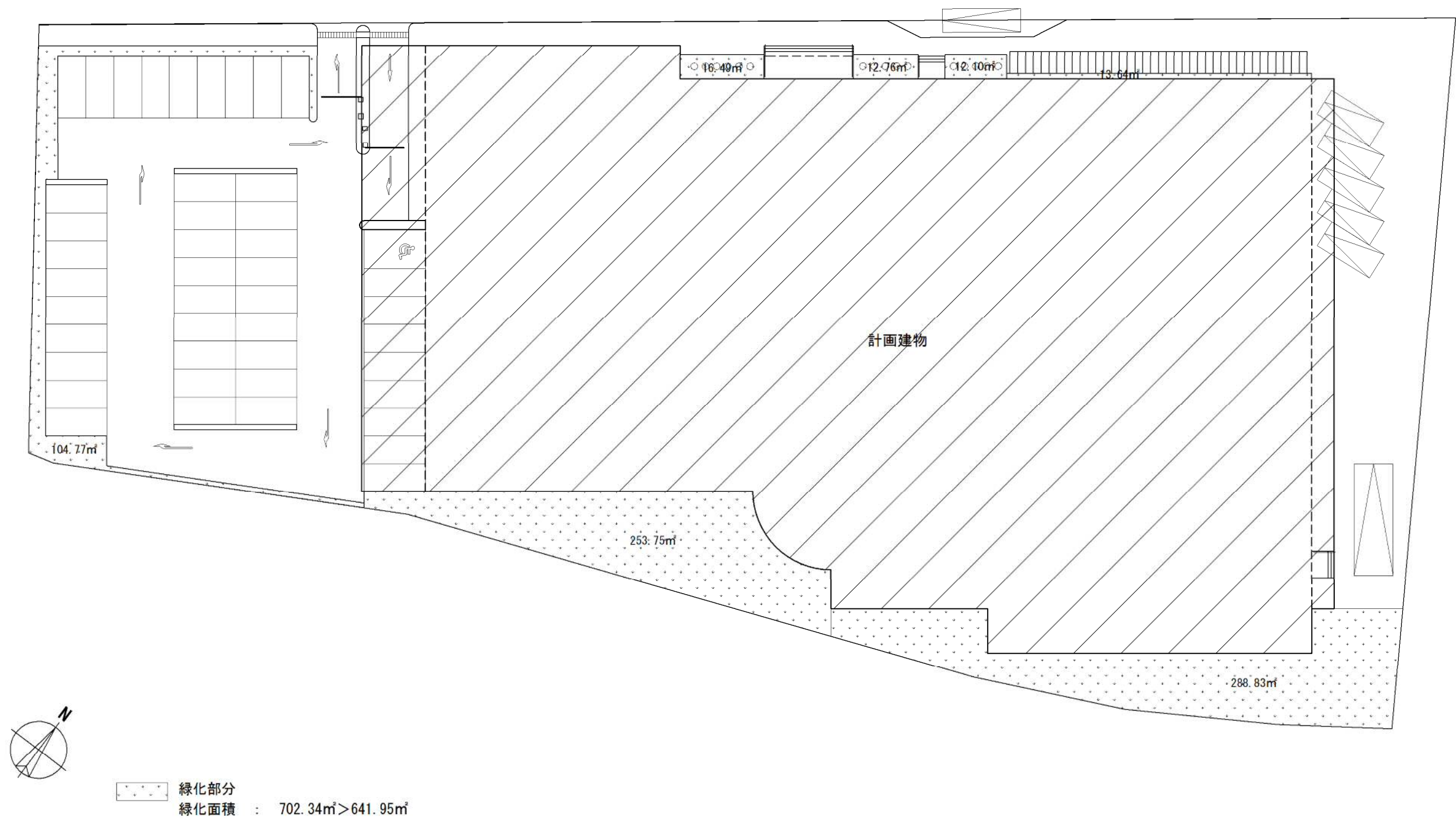
4-6 建物配置方針

敷地北側は道路に面するため、通行者に圧迫感を与えないようセットバックさせた配置計画とします。駐車スペースを西側に配置することで近隣住宅への日影の影響に配慮し、駐車場からエントランスまでの歩行者動線を確保します。敷地南側は川と公園に接するため、緑化のためのスペースを設け公園とのつながりに配慮します。

次頁に配置図を示します。

■計画建物概要

		計画	既存
敷地面積		6,507.28 m ²	6,673.70 m ²
建築面積		3,939.48 m ²	2,350.99 m ²
延床面積		5,469.80 m ²	2,555.41 m ²
	1 階	3,608.48 m ²	2121.49 m ²
	2 階	1,861.32 m ²	415.44 m ²
	R F	—	18.48 m ²
建ぺい率		60.05%	35.23%
容積率		84.06%	38.29%
構造		鉄筋コンクリート造一部鉄骨造	鉄筋コンクリート PC 造一部鉄骨造
階数		2 階建て	2 階建て



※申請図をベースに、西側の区画変更を反映。
(区画事業地番整理図に重ね合わせ修正。)

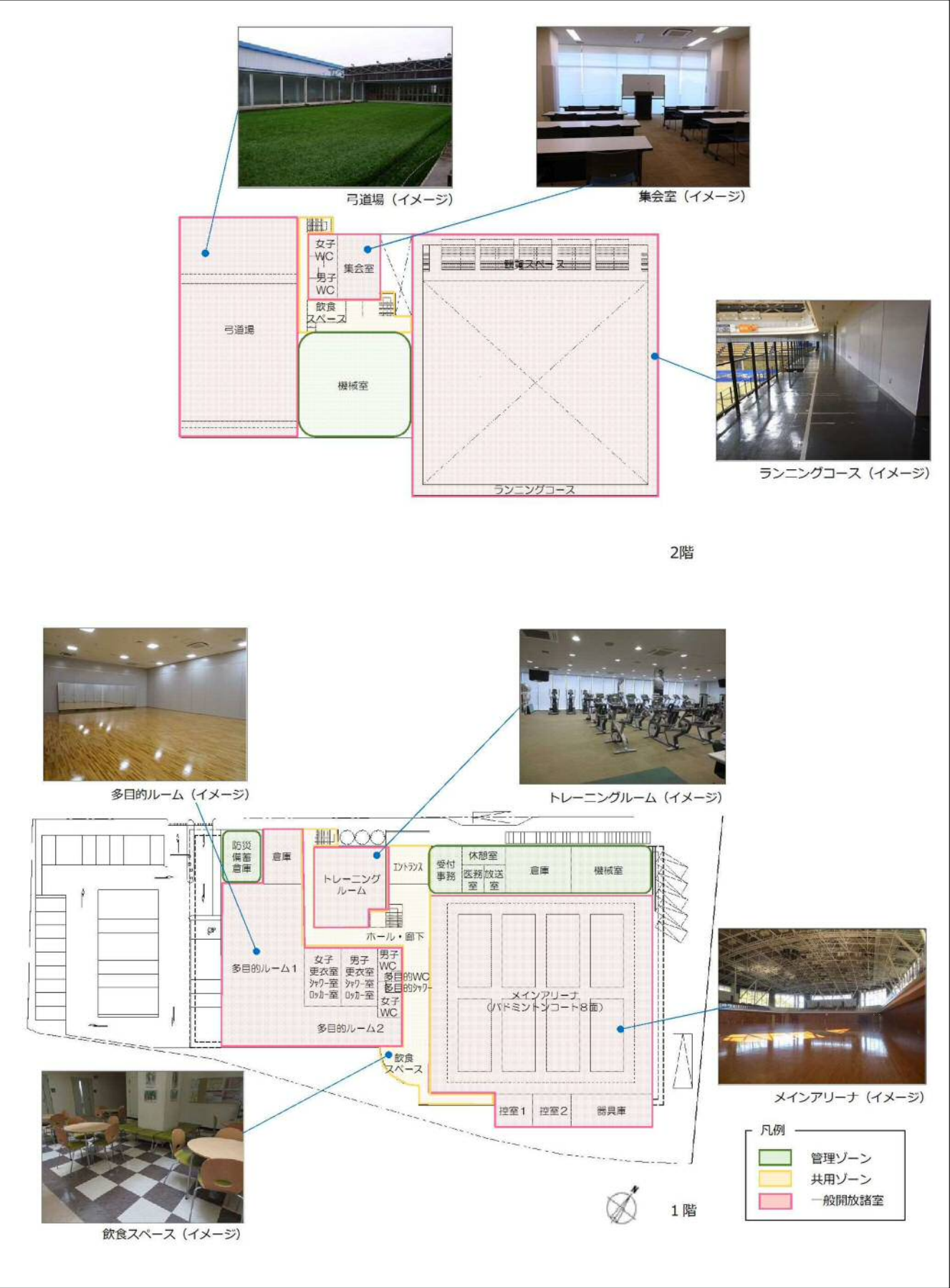
配置図 S=1:400

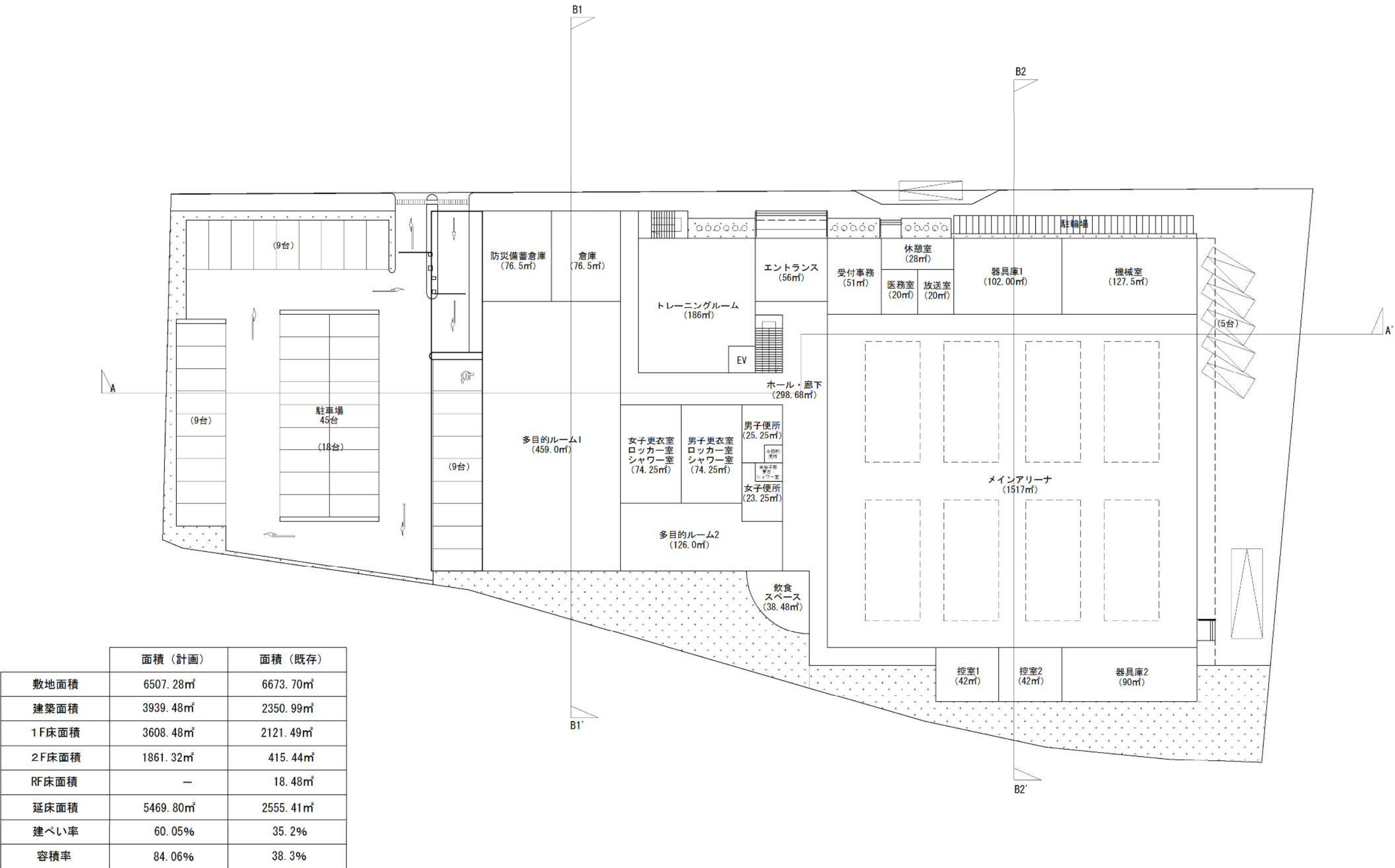
4-7 平面計画

東側に向かって広がる台形状の敷地のため、最も大きなメインアリーナを敷地の東側に寄せ、動線等を踏まえその他の必要諸室をそれぞれ配置します。施設導入部となるエントランスは、通りから認識しやすくアクセスしやすい北側に配置し、エントランスホールを中心にメインアリーナ、トレーニングルーム、多目的ルームへの動線を確保します。また、建物の北東側は管理ゾーンとし、施設管理者と施設利用者の動線がなるべく交わらないゾーニングとします。

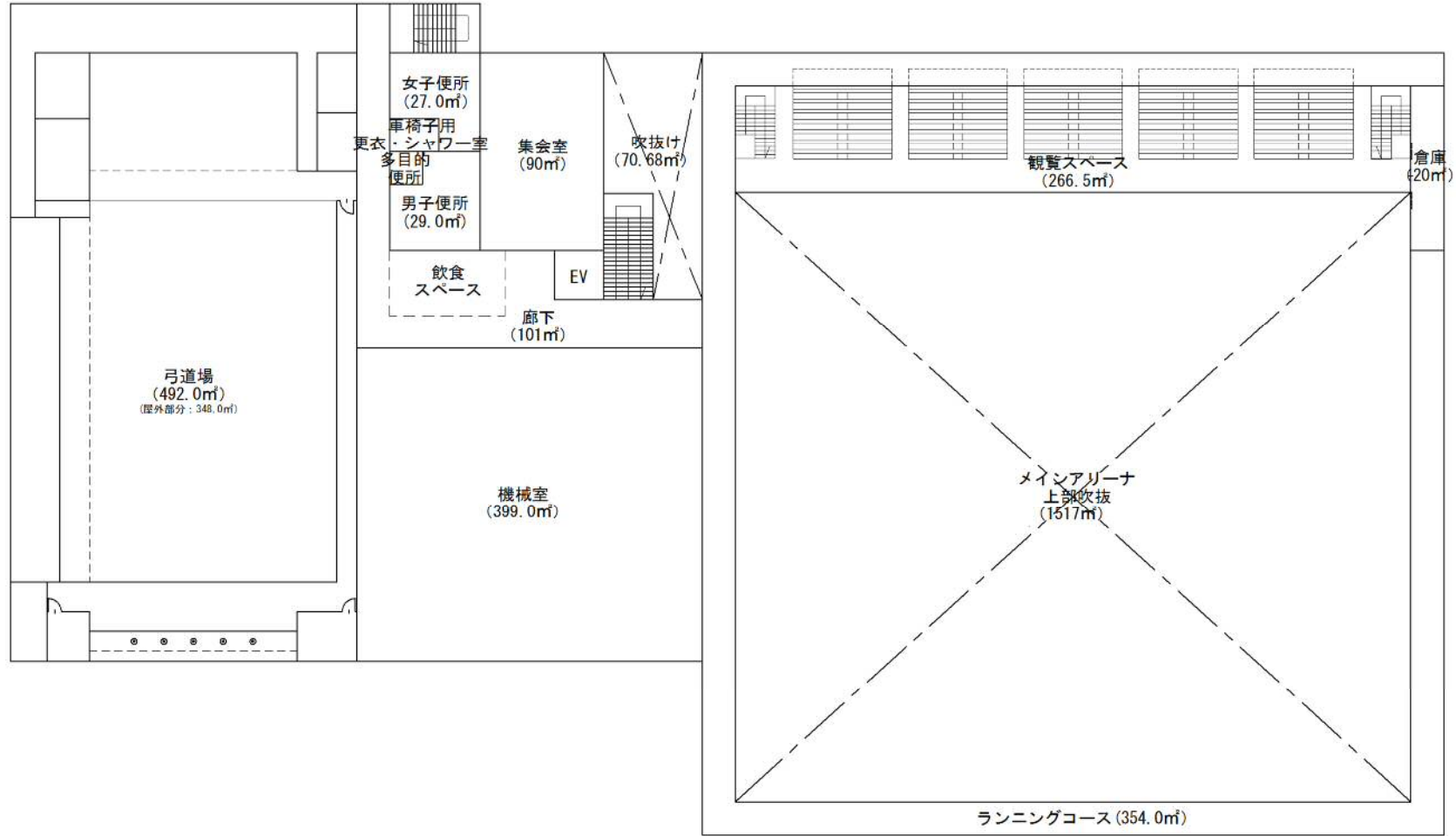
計画建物概要を下記に、次頁以降にゾーニング計画と平面図を示します。

◆ゾーニング計画





1 階平面図 S=1:400



2 階平面図 S=1:400

4-8 立面・断面計画

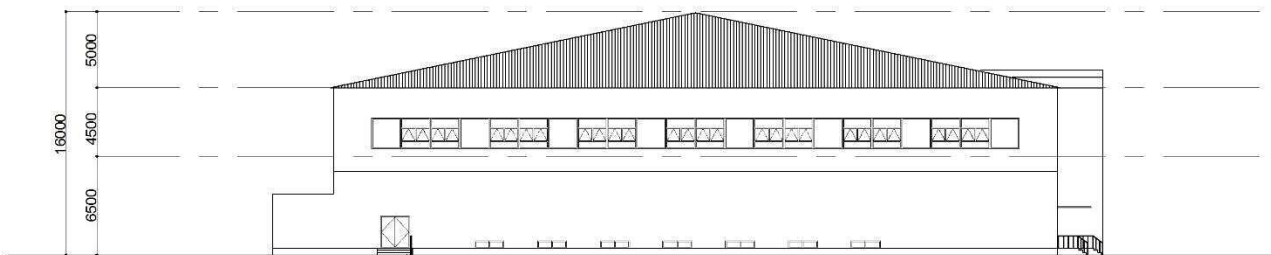
敷地の北側、西側には道路が走り住宅が広がるので、なるべく圧迫感を与えないような外観とし、南側には水路を介した公園からの視認性があるので、周囲と調和しながらも存在感のあるデザインとします。また、地域住民の憩いの場にふさわしい、落ち着きとともに明るく開放的な外装表現とします。

断面計画については、対象となる競技のうち最大高さを確保し、アリーナではバレーボールの必要高さとなる 12.5m 以上、多目的ルームではダンスや体操、武道の利用を考慮し、4m の天井高を確保します。そのほか、ホールや廊下を含め、開放感のある計画とします。

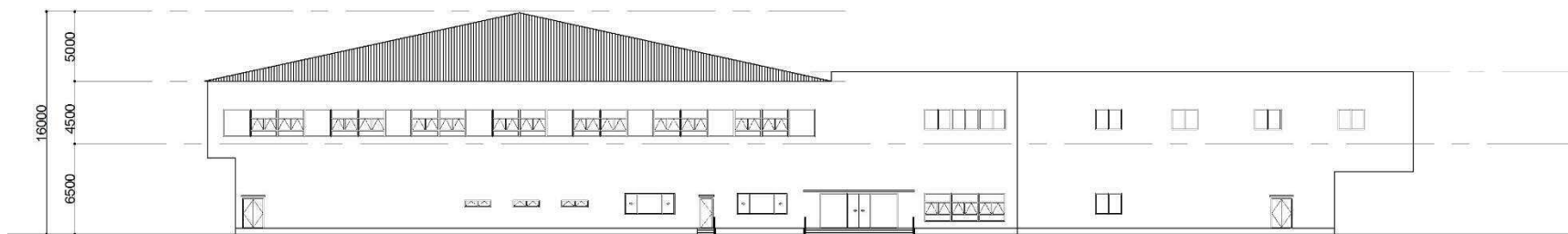
次頁以降に、立面図及び断面図を示します。



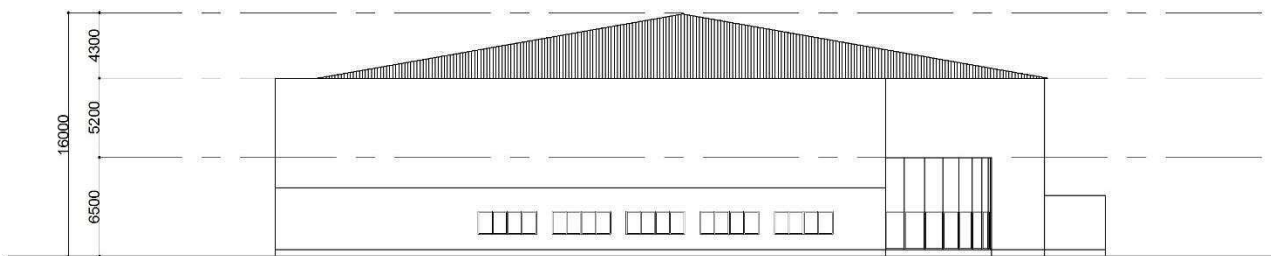
南側立面図



東側立面図

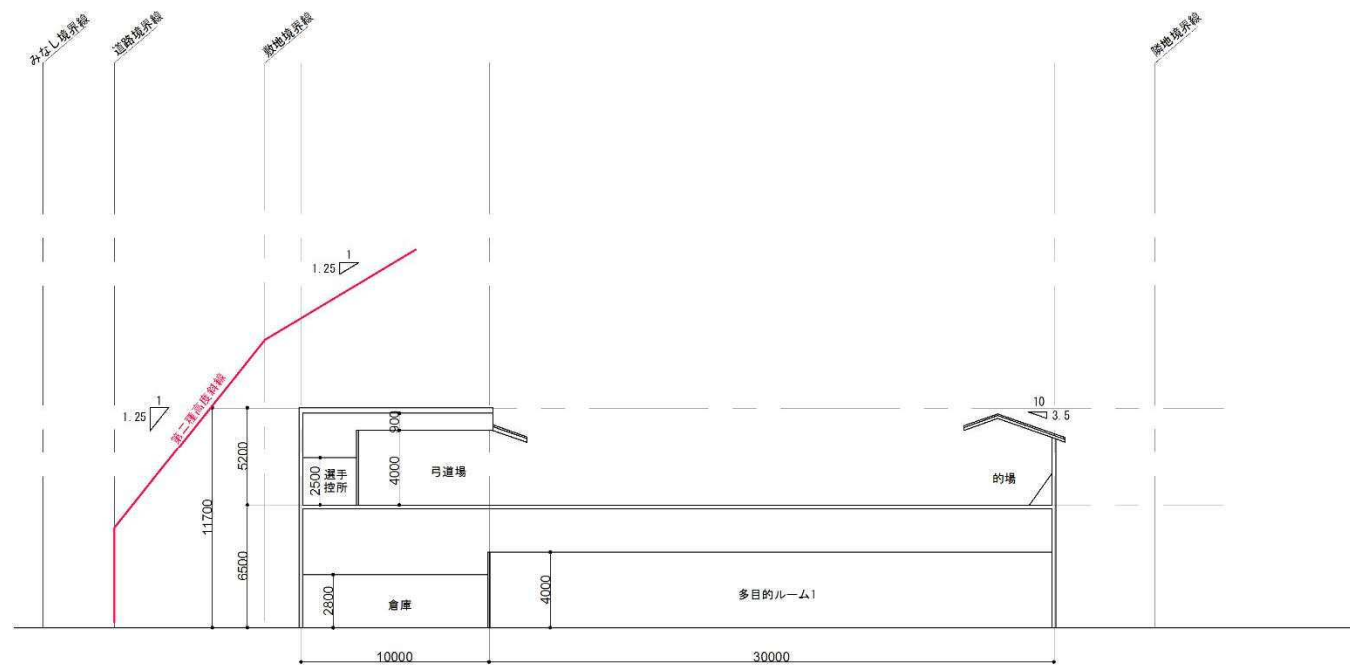


北側立面図

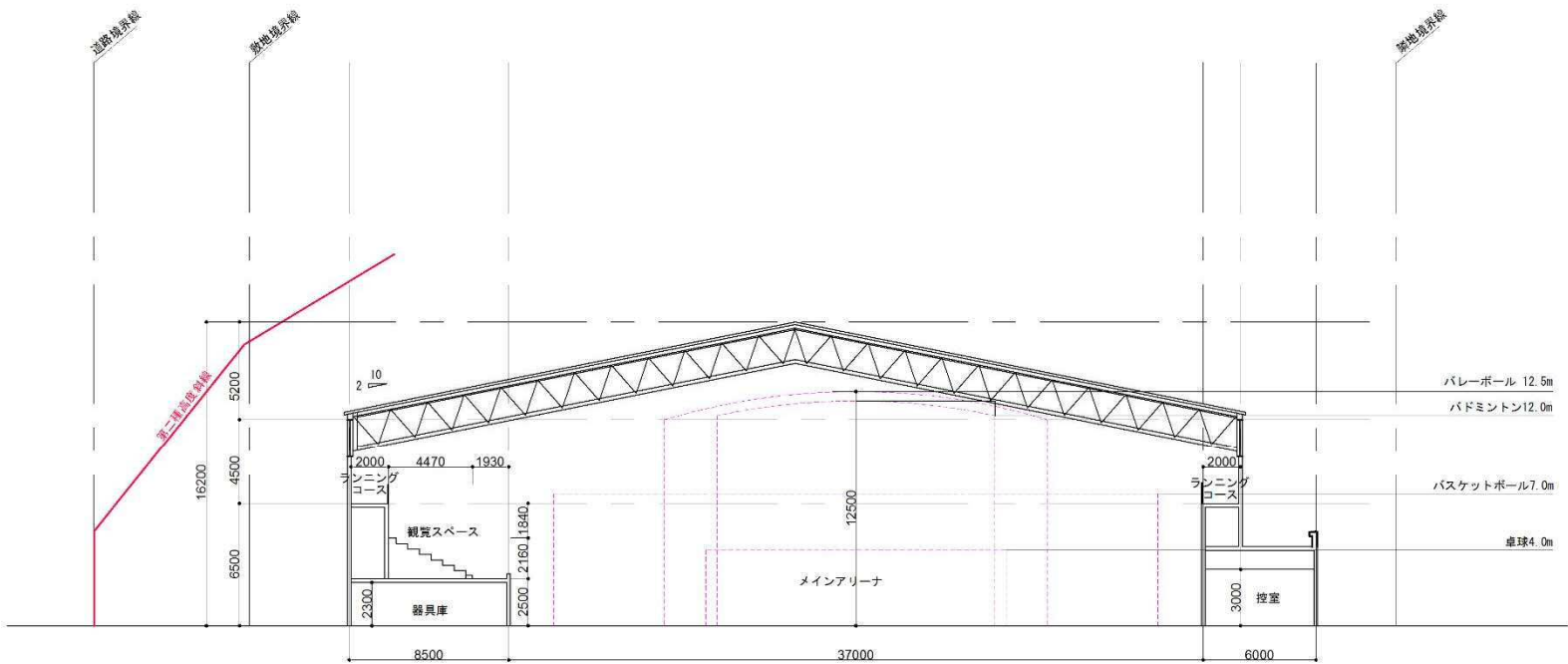


西側立面図

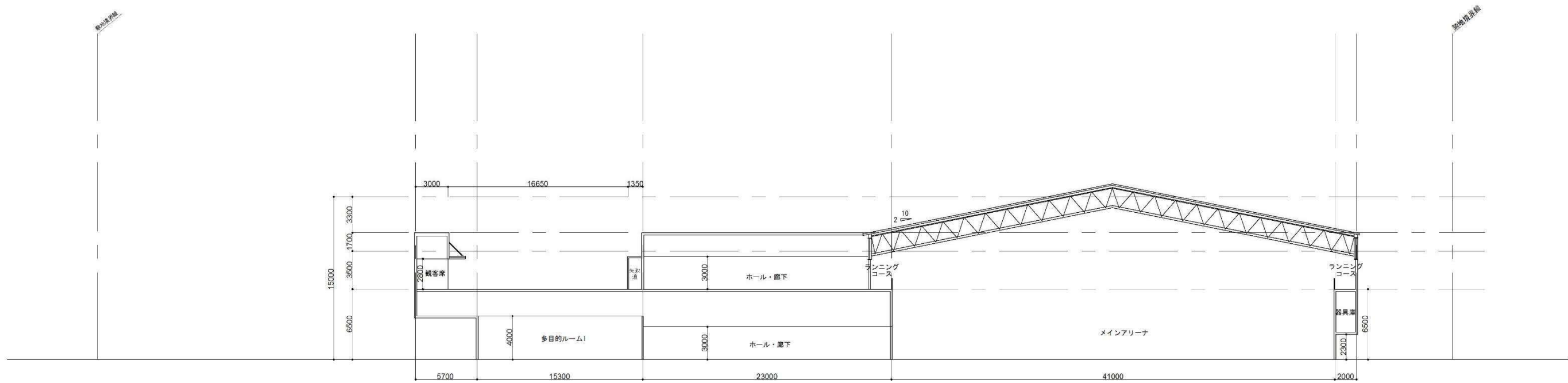
立面図 S=1:500



B1-B1'



B2-B2'



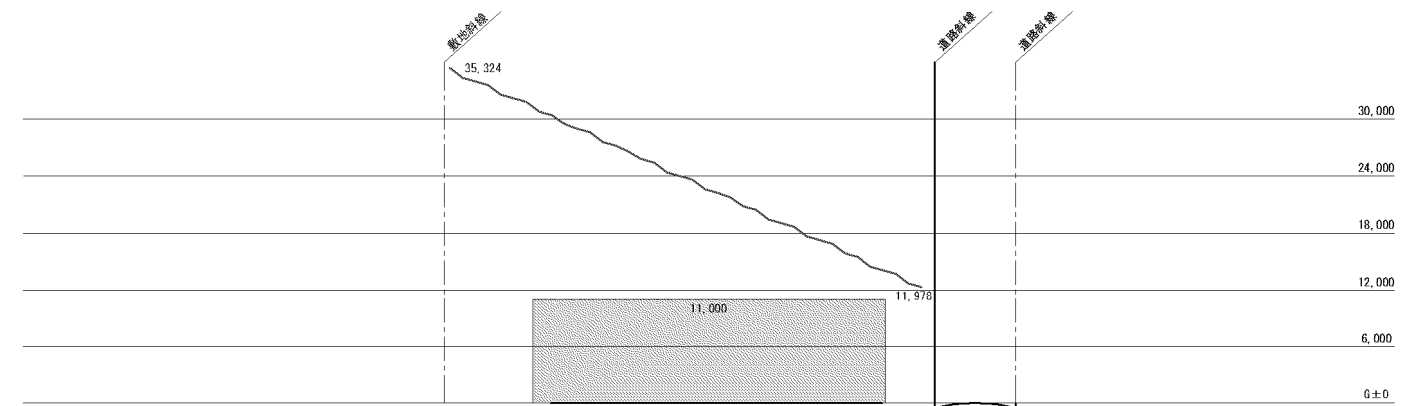
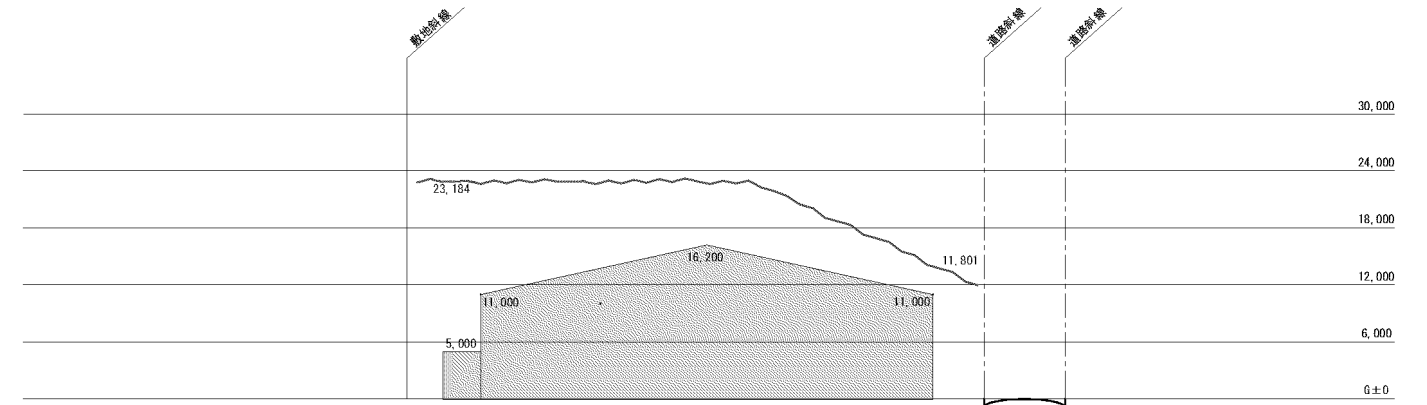
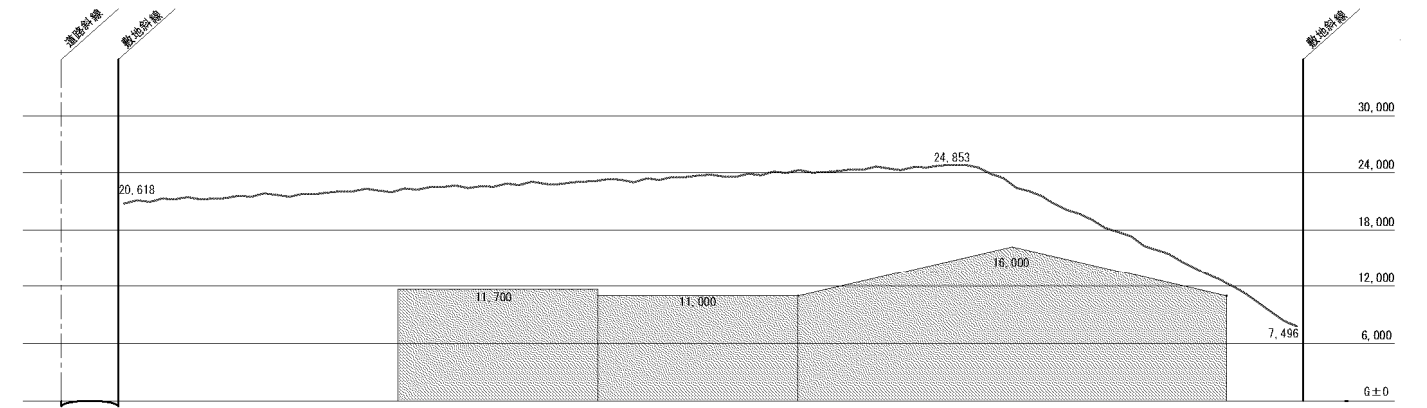
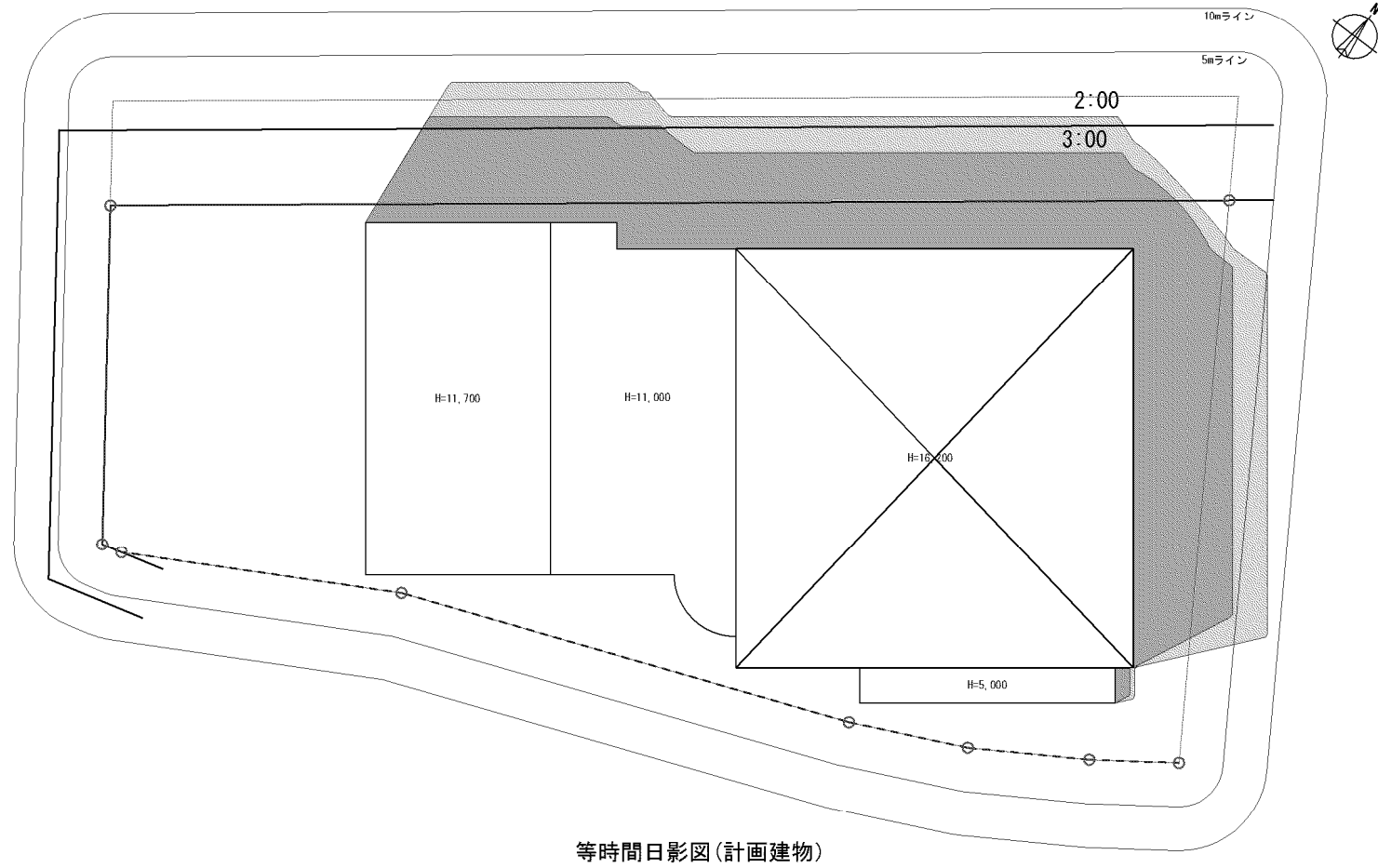
A-A'

※構造部材寸法は、今後設計段階で詳細な検討を行う。

断面図 S=1:400

4－9 日影図

次頁に測定面 4m の高さの日影図を示す。



日影図(測定高さ 4m) S=1:800

4-10 法規チェックリスト

本計画案における法規制の整理を下記チェックリストに示す。

項目	規制内容	計画内容	判定
1) 建築基準法			
用途制限	第二種中高層住居専用地域 ・ 体育館の建設：不可 ・ 客席の設置：不可	特別用途地区による用途緩和にて計画	協議による
建ぺい率	70% (60%+10%角地緩和)	60.05%	OK
容積率	200%	84.06%	OK
高さ制限	第二種高度地区	断面計画による	OK
日影規制	h=4m 2時間・3時間	日影図による	OK
2) 東京都安全条例			
前面道路の幅員	6m以上	8m	OK
道路に接する部分の長さ	10m以上	10m以上	OK
前面空地	興行場等の主要な出入口の前面には、0.1 m ² ×客席数以上の空地	確保する	OK
客席部の出入口	各階の客席部の出入口：3箇所	確保する	OK
3) 駐車場条例			
附置義務台数	23台	45台	OK
障害者用台数	1台	1台	OK
4) 東京都建築物バリアフリー条例、日野市ユニバーサルデザイン推進条例			申請届出
5) 東京都環境局緑化基準			
地上部緑化	641.95 m ² 以上	702.34 m ²	OK
屋上緑化（壁面含む）	198 m ² 以上	198 m ² 以上確保	OK
接道部緑化	約80m以上	80m以上確保	OK
6) エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）			申請届出

4-1-1 構造計画

① 地盤概要

次ページに示す近隣のボーリング柱状図を前提とした場合、本敷地周辺の地盤は、1.0m 弱の埋土が存在し、その下部にN値 30 近い締まった砂礫層が約 1.0～1.5m の範囲に存在します。しかしその下部には、0.7～0.8m 程軟らかい粘土層が存在するため、上記の砂礫層を支持層とするのは不適であります。その軟らかい粘土層の下部には、N値 20～25 程度の締まった玉石混じり砂礫層が約 3.5m 存在し、その下部にもN値 20～30 程度のシルト質細砂が約 2.0m 続いています。

上記より、本計画建物の支持地盤は、G.L-2.8m 以深の玉石混じり砂礫層とします。

長期許容支持力計算、国土交通省告示 1113 号より、

$$q_a = 1/3 (i_c \cdot \alpha \cdot c \cdot N_c + i_r \cdot \beta \cdot \gamma_1 \cdot B \cdot N_r + i_q \cdot \gamma_2 \cdot D_f \cdot N_q)$$

であり、支持地盤となる玉石混じり砂礫層の中で最も低いN値 19 を採用し、内部摩擦角 $=\sqrt{(20 \times 19) + 15} = 34^\circ$ となり、水位は低いものとし砂の比重を 17kN/m³、とします。砂層より第 1 項を 0 とし、根入れ効果の第 3 項も 0 として考慮します。

基礎形状を独立基礎 3.0m×3.0m で計算すると、

$$\begin{aligned} q_a &= 1/3 (0 + 1 \times 0.3 \times 17.0 \times 3.0 \times 33.2 + 0) \\ &= 1/3 (0 + 507.96 + 0) \\ &= 169.32 \text{ kN/m}^2 \end{aligned}$$

布基礎（基礎幅=2.0m）として考慮すると、

$$\begin{aligned} q_a &= 1/3 (0 + 1 \times 0.5 \times 17.0 \times 2.0 \times 33.2 + 0) \\ &= 1/3 (0 + 564.4 + 0) \\ &= 188.1 \text{ kN/m}^2 \end{aligned}$$

となり長期許容支持力は、約 150kN/m² (15t/m²) 以上期待できる地盤であります。ベタ基礎としてはもっと見込めますが、メインアリーナ等の大スパンには配慮が必要となります。

今回検討に用いたボーリング柱状図については、計画地より線路北側の場所であり、計画地とは異なる場合があるため、今後改めて地盤調査を行い、それに基づいた検討が必要となります。

② 構造計画概要

延べ面積：5469.80 m²

階数：地上 2 階、地下なし

構造種別：鉄筋コンクリート造（一部 P S 梁）＋鉄骨造（屋根）

架構方式：（壁付）ラーメン構造

基礎形式：直接基礎（長期許容支持力：Ra=約 150kN/m²）

基礎底の深さ G.L-2.8m

ボーリング柱状図

調査名 浅川処理区(4-1)地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo 000573

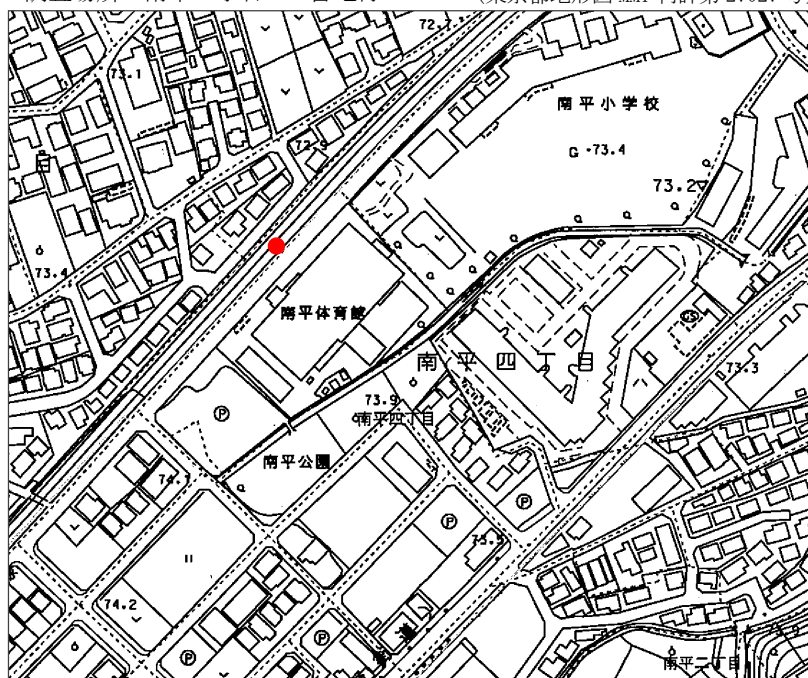
ボーリング名	061-02		調査位置		東京都日野市南平5丁目				北緯		35° 39' 36.31"			
発注機関	日野市役所下水道計画課				調査期間		平成4年6月12日～4年6月13日				東経		139° 23' 50.58"	
調査業者名	株式会社ダイエーコンサルタンツ 電話		主任技師		岡崎秀樹		現代人		黒金牧子		コ定者		ア	
ボーリング責任者	斉藤拓二													
孔口標高	72.980m		角		180° 上 90° 下 0°		方		北 270° 西 180° 東		地盤勾配		鉛直 90° 水平0°	
使用機種	試錐機													
エンジン	YBM-05													
ハンマー落下用具	コーンブーリー													
ポンプ	ヤンマーNS-80													
カノ	V-5P													
総掘進長	8.45m		度											

記 事								孔内水位(m) / 測定月日		標準貫入試験				原位置試験		試料採取		室内試験	
標尺	層厚	深度	柱状	土質	色相	相対	相対	深 度 (m)	深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数		打撃回教 / 貫入量 (cm)	N 値	深 度 (m)	試験 および結果	深 度 (m)	試料 番号	採取 方法	掘進 月日
(m)	(m)	(m)	図 分	調 度	密 度	調 度	0			10	20								
72.28	0.70	0.70		硬土	暗茶	締まった	上層深く砕石。確認しり粘性土。若干50mmの塊点状。	4/13 3.33	1.15	10	9	9	25						
70.93	1.35	2.05		砂礫	暗茶	締まった	2~30mm位までの重円礫で砂が多く、崩壊性あり。含水中位。	2.15	2	1	1	3	3						
70.18	0.75	2.80		微細り粘土	茶褐色	軟らかい	含水やや多く、歪角礫等10cm~20cmの厚さで粘土と砂礫が互層状である。	3.15	8	8	8	24	24						
			玉石混り砂礫	黄茶灰	締まった	礫径2~40mm位の歪門、歪角礫主体で、砂が少なく崩壊性あり。透水断続的に有り。4m付近特に透水。若干粘土分含有100mm程度の玉石点状。含水大。	4.15	7	7	5	19	19							
66.69	3.50	6.30	シルト質細砂	淡褐色・黄緑灰	締まった・密な	上部小塊点状。均質で砂子若干不均一。7m付近砂子若干粗くなる。シルト細かく所々に存在。表層混入含水やや有り。	5.15	8	7	7	22	22							
							6.15	12	8	6	25	25							
							7.15	6	7	9	23	22							
64.53	2.10	8.45					8.15	5	9	13	30	30							

【出典：日野市環境共生部下水道課資料】

調査場所：南平五丁目 21 番地付

(東京都地形図 MMT 利許第 27027 号)



4-12 電気設備計画

電気設備全般においては、信頼性、安全性、利便性、経済性（省エネ、省人化、ライフサイクルコストの低減）を考慮し、さらに、大規模空間を利用した各種イベント、近年の災害時における施設利用時も重要な視点として、これに対応できる拡張性も考慮し計画する必要があります。

①受変電設備

- ・単独高圧受電を基本とし、キュービクル式受変電設備を設置します。

②自家発電設備

【非常用電源設備】

- ・消防法 15 項として停電時に必要な保安電源を確保するために発電機（低騒音タイプ）を設置します。発電機容量は使用負荷を含め、今後設計段階で検討します。また、騒音仕様は騒音規制等を踏まえて検討を行います。
- ・観客席を設け消防法施行令別表第 1 で 1 項イに該当する場合は、屋内消火栓等の消防設備用非常電源として、非常用発電機が必要となります。

【常用電源設備】

- ・商用電源と系統連携して発電し、電力のピークカットやベースロード運転による契約電力やランニングコストの削減が期待でき、なおかつ震災時にも有効と見込まれる方式について、設計段階にてインシヤルコストなども踏まえた検討を行います。（例：ガスによるコージェネレーション設備等）

③蓄電池設備（法令上必要なもの）

- ・非常用照明、誘導灯は、蓄電池内蔵型を使用するため、蓄電池設備の設置はしません。

④太陽光発電設備

- ・屋上部分に太陽光パネルを設置する場合、受変電設備との系統連携を図り、非常時には太陽光発電設備の蓄電池より保安負荷に電源を供給します。発電容量、蓄電池容量は使用目的等を含め今後、設計段階で検討を行います。

⑤幹線動力設備

- ・受変電設備より各分電盤、動力制御盤への電源供給を行います。将来の増設に対応するため主要部分はケーブルラックによる配線敷設とする計画とします。

⑥電灯設備

- ・体育館における最も重要な電灯類は、アリーナの照明であり、高天井・大規模空間において行われる各スポーツ競技のプレー特性に的確に応じることが望まれます。また、日常の体育館運営と維持管理だけでなく、イベント時、災害時をも考慮した上で、照明器具、配置、照度、グレア、フリッカ、点灯パターン、昼光利用、点滅制御システム、保守管理など様々な視点から考慮し決定する必要があります。
- ・LEDを基本とし、他の方式も比較しつつ設計段階で決定します。
- ・建築基準法及び消防法に準拠し、非常照明器具設備（蓄電池内蔵型）、誘導灯（蓄電池内蔵型）を計画します。

⑦コンセント設備

- ・各諸室に適応した数量のコンセントを設置し、防災拠点となるエリアには発電機回路に接続されたコンセントを配置します。
- ・駐車場や公園と一体となったイベント用として、外部に屋外用コンセントの適宜設置を検討します。

⑧電話設備

- ・建物内にMDFを設置し、電話交換機から主要な諸室に設置する電話用モジュージャックまでの配管配線を敷設する計画とします。
- ・電話交換機及び電話機器の工事区分は設計段階で決定します。

⑨LAN用空配管設備

- ・主要な諸室にLAN用空配管設備を計画します。
- ・LAN用機器の工事区分は設計段階で決定します。

⑩拡声設備

- ・受付事務所に業務・非常放送兼用アンプを設置し、連絡、非常放送に対応可能とする計画とします。
- ・放送室の一般放送用アンプと連動し非常時には一般放送を遮断する機能を計画します。
- ・観客席を設ける消防法施行令別表第1で1項イに該当する場合は、非常放送設備が必要となります。

⑪トイレ呼出設備

- ・各階多目的トイレに非常呼出押しボタンを設置し、受付事務所に呼出表示機を設置して緊急時に早急な対応が可能な計画とします。

⑫テレビ共聴設備

- ・屋上に地上波デジタル、BS・CS110度アンテナを設置し、主要な諸室に設置する直列ユニットまで配線を敷設します。

⑬防犯カメラ設備

- ・一般的には、防犯上の進入監視や出入管理等について運営形態等を把握した上で、セキュリティシステム等と連動監視を行う必要があります。防犯カメラについては、敷地内及び建物内の主要エリアを死角がないようビジュアル的に中央監視ができ、かつ、長時間録画を可能とした設備計画とします。

⑭自動火災報知設備

- ・消防法 15 項とした場合には、受付事務所に自動火災報知受信機を設置し、火災の早期発見に対応し避難誘導支援を充実させます。

⑮Wi-Fi 設備

- ・災害時対応や、集会室等での教室対応、休憩スペース（飲食スペース）での利用者の利便性向上等に配慮して、適宜 Wi-Fi 設備の設置を検討します。

⑯その他

・競技表示設備

メインアリーナへの室内競技得点・時間表示設備（バスケットボール、バレーボール、フットサル等）について検討します。

・館内インフォメーション設備

エントランスに来場者向けインフォメーション表示板の設置を検討し、館内情報や行政情報、防災、災害情報などの各種情報提供を行えるよう検討します。

・施設管理、予約システム等

施設の管理、予約などに必要な情報端末機器、印刷機、管理者のみならず市民も利用できるインターネット環境を検討します。

・音響

高性能の音響設備の導入よりも、適度な響き具合を保つことやエコー障害の出にくい内装材料の考慮など、基本的な建築音響条件を十分に検討することに重点を置き、その上で、各部屋の利用想定を踏まえたスピーカーの配置やシステム構成について検討します。

4-1-3 給排水衛生設備計画

給排水衛生設備の計画においては、メインアリーナで多人数が短時間に利用する場合や、トレーニングジムなどで、昼間から夜間までまんべんなく一定の利用者がいる場合など、幅広い対応が必要となることを想定し、ピーク時来場者数の事前設定、衛生器具数、シャワー等の給湯器具数、給水負荷変動対策、雨水利用による節水対策など、飲料系統および雑用水系統において計画する必要があります。新南平体育館においては、地域の交流や防災時にも役立つ設備類の設置を検討していきます。

①給水設備

給水方式としては増圧ポンプによる増圧給水方式、受水槽+加圧給水ポンプによる加圧給水方式などが考えられるが今後設計段階で検討を行います。

②排水設備

建物内は汚水・雑排水分流方式とし屋外にて合流後下水道本管に放流します。敷地内雨水排水設備は浸透方式とし検討します。浸透方式については、設計段階に周辺の地下水位や、地質等を十分調査の上、十分な浸透が見込めない場合には、雨水貯留槽に一時的に貯留し、時間差で雨水管に接続することも含めて検討を行います。

③給湯設備

ガス給湯機（連結タイプ）方式、またはエコキュート方式により1階、2階シャワー室に供給します。トイレ内洗面器については個別に電気温水器を設置します。

④衛生器具設備

節水型の器具を選定します。温水洗浄機能付き大便器とし、自動洗浄形小便器を設置します。また、洗面器は自動水栓とし、多目的トイレにはオストメイトを設置します。

⑤ガス設備

ガス設備を設置した場合には、道路内ガス本管（東京ガス13A）より分岐引き込み供給します。

⑥消火設備

＜防火対象物の指定＞

今後日野消防署との協議によりますが、消防法施行令第6条別表第一により、防火対象物は15項(前各項に該当しない事業場)とした場合には下記の消火設備が必要となります。

＜消火設備＞ 消火器、屋内消火栓設備

⑦雨水ろ過設備

屋根の雨水を地下ピットに貯留（年間雨水集水量の20日分程度）し、ろ過、滅菌後雑用水槽に貯留し加圧ポンプユニットにて洗浄水（大便器、小便器）及び植栽灌水設備への供給を検討します。滅菌装置については植栽の保護のため残留塩素濃度が調整可能なものとし、ます。

4-14 換気空調設備計画

換気空調設備は、熱源、空気調和機、ダクト、配管、換気、排煙、自動制御がシステムの統合され機能されるものです。特に、体育館においては、アリーナという大空間の空気環境を競技者、観覧者ともに満足できるようにコントロールすることが重要となります。

またアリーナでは、スポーツ競技時と地域イベント時の人員密度の違いや、観覧スペースにおける卓球利用時と観覧席利用時の人員密度の差が想定されるため、このようなひとつの空間にまったく異なる条件が混在することを前提に計画する必要があります。特に、競技空間の空気環境については、競技者の体感や木製フロアへの影響を考慮した温湿度設定や気流条件をはじめ、立ち上がり時間、エネルギーロス防止などについて、総合的な視点でより良いシステムとして設計する必要があります。

①熱源設備

空気熱源ヒートポンプチラー、またはガス吸収式冷温水発生機によりメインアリーナ用空調機に冷温水を供給します。熱源機的能力及び台数（交互運転等）については、設計段階で対象となる諸室の気積や、大会時等の利用者からの発熱、メンテナンス時の対応等を十分考慮のうえ、検討を行います。

ガス熱源については、災害時に有効と考えられるため、防災対応のページで詳細検討しています。

②空調設備

メインアリーナ系統は単一ダクト方式として機械室に空調機を設置し冷暖房・換気を行います。また、省エネルギーの観点から全熱交換器を設置し熱回収を行います。吹き出し口的位置や数については、バドミントン競技への影響が最小となるよう計画を行うものとします。

多目的ルーム、弓道場も同様に単一ダクト方式とし全熱交換器組込形空調機を機械室に設置します。

その他の諸室については、空冷ヒートポンプパッケージ（ビル用マルチ形）とし各室に室内機を設置します。室外機は屋上階等に設置を検討します。

空調方式としては、上記のシステムが考えられますが今後設計段階で検討を行います。

③換気設備

空調を行う居室については、全熱交換器ユニットを設置し第一種換気方式にて換気を行います。トイレ、倉庫等は、排気ファンによる第三種換気方式にて換気を行います。

④自動制御設備

熱源方式、空調方式により今後の検討となりますが、省エネルギーの観点より中央監視装置を設置し各機器の監視及び計測、記録を行うことが望ましいと考えます。

⑤排煙設備

基本的に全館自然排煙で計画します。

4-15 バリアフリー計画

(1) バリアフリー対応

バリアフリー計画については、「3-1 (5) 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）、高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例、日野市ユニバーサルデザイン推進条例」を満足するように計画します。

また、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）を受けて、当市で策定中の基本方針により、障害者の利用を想定し、環境整備等に配慮します。

<主な基準>

整備項目		整備内容			
		法	都条例	日野市条例	採用
出入口	幅（開放時有効）	80cm 以上	85cm 以上		85cm 以上
	直接地上に通じる出入口	－	100cm 以上		100cm 以上
廊下等	幅	120cm 以上	140cm 以上		140cm 以上
	点状ブロック等の敷設	敷設			敷設
エレベーター	出入口の幅	80cm 以上	90cm 以上		90cm 以上
	かごの奥行	135cm 以上			135cm 以上
	かごの幅	140cm 以上			140cm 以上
	乗降ロビーの幅及び奥行	150cm 以上			150cm 以上
階段	手すり	設置			設置
	踊り場	－	設置		設置
	幅	－	120cm 以上		120cm 以上
	蹴上	－	18cm 以下		18cm 以下
	踏面	－	26cm 以上		26cm 以上
便所	車椅子使用者用便房	1 以上設置			1 以上設置
	オストメイト対応便房	1 以上設置			1 以上設置
	ベビーチェア付便房	－	1 以上設置		1 以上設置
	ベビーベッド等	－	設置		設置
敷地内通路	幅	－	140cm 以上		140cm 以上
	段がある部分 手すり	設置			設置
	傾斜路の勾配	1/20 以下			1/20 以下
駐車場	車椅子専用駐車施設	1 以上設置			1 以上設置
	幅	350cm 以上			350cm 以上

上記数値は整備基準で、今後設計段階で誘導基準の採用も含めた検討を行います。その他、災害時要配慮者に向けた対応も視野に、細部に及ぶ事項も同様に設計段階で検討します。また、緊急時の必要な設備（警報装置、避難経路・非常口、一時待避スペース、非常放送設備等）については必ず設置します。

(2) 障害者スポーツ対応

スポーツ推進計画で掲げているスポーツ実践率 70%を達成するためには、健常者だけでなく障害者のスポーツ促進も視野に入れていくことが必要となってくると考えられます。そのためには、障害者がスポーツに親しめる環境づくりが望まれます。

施設全体ではバリアフリー計画のほか、どのような障害者にとっても分かりやすい施設環境をつくることが必要であり、シンプルな動線やイラスト等を使用した分かりやすい案内板を設置することが重要となります。

一般的に、アリーナでのスポーツ利用の場合、健常者がスポーツをする場合と床などの仕様は特に変わりません。アリーナでの想定される障害者スポーツは、シッティングバレー、車椅子バスケットボール、車椅子ダンス等ですが、試合などを行う場合は、選手のみならず、観覧者も障害者の場合が多いため、障害者用トイレやシャワー、駐車場の整備が必要となります。また、サウンドテーブルテニスなど音を使うスポーツには別室を用意するなどして、音が聞こえやすい環境をつくる必要があります。

本基本計画においては、下記を配慮すべき項目とし指導員の配置などを含め、どの程度対応していくか今後検討の上、東京都が発行している「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル」を参考に設計を進めます。



<配慮すべき項目>

配慮を必要とする諸室	検討事項
アリーナ	・ バレーボールコート 2 面の広さの確保 ・ 音の反響を抑える壁材の採用
観覧席	・ 車椅子利用者が同伴者と観戦可能な配置 ・ 車椅子からの視界への配慮
ランニングコース	・ 視覚障害者でも伴走者なしで走れるよう手すりの設置などの工夫
トレーニングルーム	・ 車椅子利用者を想定した幅員の確保 ・ 車椅子からの移動が楽に行えるストレッチ台や踏み台の設置 ・ 視覚障害者のための点字表示
トイレ・シャワー 給湯室	・ 緊急時や災害時でも避難場所として活用するための器具等の設置（人工呼吸器、おむつ交換対応、経管栄養器具）

4-16 環境配慮

(1) 環境配慮機能・設備

①他施設における環境配慮事例

以下に、類似他施設における環境配慮の事例を示します。

施設名	施設概要								
	所在地	建設年月日	延床面積 (㎡)	環境配慮項目	用途	施工箇所	使用量 使用台数	能力 (kw)	整備内容・目的
うきは市立総合体育館 (うきはアリーナ)	福岡県うきは市	2008年6月	7,148	木材	木材利用	屋根架構、床、壁	2300本	-	屋根架構に地場産材「耳納杉」を使用
万代長嶺小学校体育館	新潟市中央区	2005年3月	4,197	雨水	トイレ用洗浄水	体育館内 男女トイレ	1基	-	屋根雨水を受水槽 (4.5㎡) に受け、ろ過装置 (3㎡/h) で浄化し、トイレの洗浄水として再利用
昭和女子大学体育館	東京都世田谷区	2006年3月	3,769	太陽光	建物内使用電源	屋根	2カ所	20	二酸化炭素排出量の削減
日吉津小学校屋内運動場	鳥取県西伯郡	2009年2月	998	太陽光	照明・非常用電源	屋根	2カ所	60	二酸化炭素排出量の削減
須坂市北部体育館	長野県須坂市	2013年10月	-	太陽光	照明・非常用電源	屋根	1カ所	68	二酸化炭素排出量の削減
静岡県草薙総合運動場 このはなアリーナ	静岡県静岡市	2015年4月	13,509	木材	木材利用	構造	7000本	-	メインフロアを支える柱には、日本三大人工美林と呼ばれる高強度・高品質の「天竜杉」を使用
深谷市総合体育館 (ビッグタートル)	埼玉県深谷市	1993年8月	12,730	太陽光	建物内使用電源	屋根	2カ所	208	二酸化炭素排出量の削減
明治大学 和泉キャンパス 和泉総合体育館ウエスト	東京都杉並区	2014年3月	13,820 ※対象1,200㎡	電力	LED照明	サブホール 3階	54台	404(W)×台	省エネ性能、メンテナンスコスト削減
宇土市民体育館	熊本県宇土市	1975年7月	4,355	電力	空調設備	-	2基	236	CO2排出量・ランニングコスト削減
ふれあいホール	東京都日野市	2013年3月	7,241	太陽光	建物内使用電源	屋根	1200枚	102	二酸化炭素排出量の削減

②本施設における環境配慮

以下に、本施設における環境配慮にあたっての検討項目を示します。導入の可否等、詳細な検討については、以降の設計業務にて検討を行うものとします。

< 検討項目 >

○自然エネルギー利用

- ・自然採光
- ・自然換気
- ・太陽光発電
- ・雨水利用

○建物の環境性能向上

- ・屋根、外壁の断熱性の向上
- ・Low-E ペアガラス
- ・省エネルギー機器の積極採用

○その他

- ・多摩産材等の活用
- ・リサイクル材の活用
- ・敷地内の緑化、屋上緑化

③太陽光パネル設置にかかる費用

アリーナ屋根の東側と南側部分に設置した場合の、太陽光パネル設置に伴う費用を試算すると下記の通りとなります。

パネル設置面積：600 m² パネル：270W／枚 1 枚 1.6 m²
 $600 \div 1.6 \div 370$ 枚 $270 \times 370 \div 100$ kw

太陽光パネル：55,500 千円（150 千円／枚×370 枚）
パソコン ： 9,700 千円（20kw×5 台）
計 ： 65,200 千円（直接工事費）

$65,200 \text{ 千円} \times 1.3 \text{（経費）} = \underline{84,760 \text{ 千円}}$

（２）国産材・多摩産材の活用

東京都が推進する多摩産材の利用・普及に伴い、多摩産材を一部利用することも視野に入れ検討を進めます。

①活用事例

以下に、多摩産材利用の施設事例を示します。



スポーツ広場クラブハウス棟（新島村）



図書館（神津島村）



市役所ロビー（立川市）



首都大学東京南大沢キャンパス（八王子市）



小学校 天井ルーバー（青梅市）



市民の森ふれあいホール（日野市）

【出典】

- ・「森づくり推進プランー東京における持続的な森林整備と林業振興ー」
- ・多摩産材の利用拡大（東京産業労働局 HP）

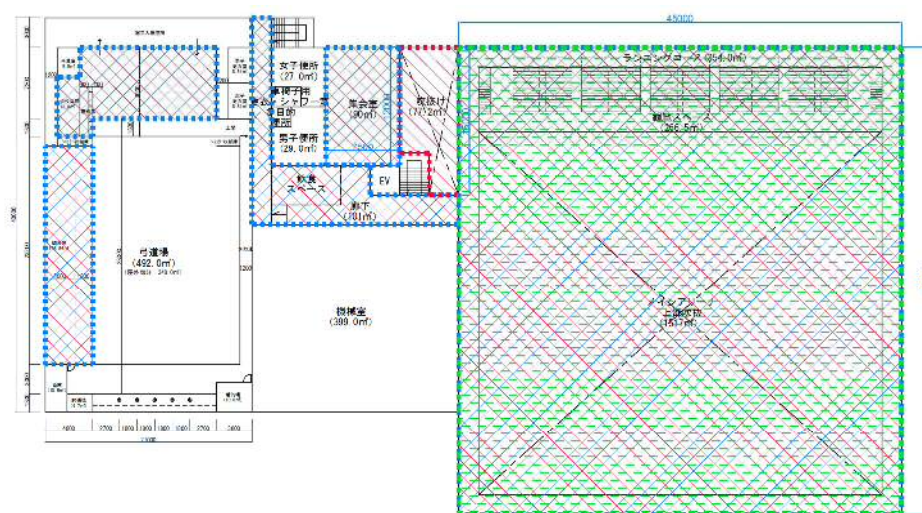
②活用方針

木材の使用方法として下記の活用方法が考えられます。

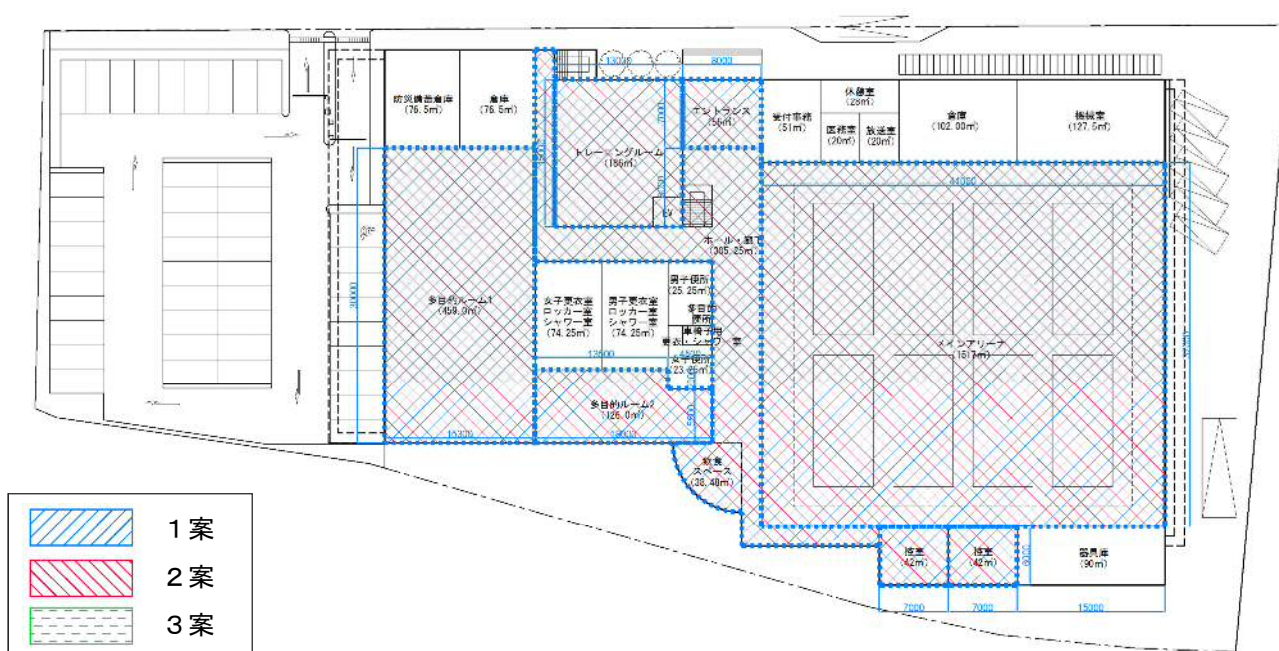
- ・ 1 案：エントランス、諸室の腰壁部分に木材を使用
- ・ 2 案：諸室内装材（壁）に木材を使用
- ・ 3 案：メインアリーナ屋根架構に木造の構造材を使用

□工事費の目安

	数量	単価	工事費 (千円)	備考
1 案	1040.0 m ²	7,000～12,000 円/m ²	7,280～12,480 円	無垢材
2 案	4,164.5 m ²	30,000～50,000 円/m ²	124,935～208,225 円	準不燃処理
3 案	2,137.5 m ²	100,000～120,000 円/m ²	213,750～256,500 円	木トラス



2階



1 階

■木材使用面積の数量根拠

①腰壁部分 (1,000mm)

	室 名	壁の長さ (m)	高さ (m)	面積 (㎡)
一階	エントランス	30.0	1.0	30.0
	ホール・廊下・飲食スペース	192.0	1.0	192.0
	メインアリーナ	156.0	1.0	156.0
	控室①	26.0	1.0	26.0
	控室②	26.0	1.0	26.0
	多目的ルーム1	90.6	1.0	90.6
	多目的ルーム2	51.0	1.0	51.0
	トレーニングルーム	56.0	1.0	56.0
	一階合計	-	-	627.6
二階	廊下・飲食スペース	84.0	1.0	84.0
	集会室	39.0	1.0	39.0
	弓道場	50.4	1.0	50.4
	観客席	54.0	1.0	54.0
	メインアリーナ	185.0	1.0	185.0
	二階合計	-	-	412.4
合 計		-	-	1040.0

②壁全体

	室 名	壁の長さ (m)	高さ (m)	面積 (㎡)
一階	エントランス	30.0	3.0	90.0
	ホール・廊下・飲食スペース	192.0	3.0	576.0
	メインアリーナ	156.0	6.5	1,014.0
	控室①	26.0	3.0	78.0
	控室②	26.0	3.0	78.0
	多目的ルーム1	90.6	4.0	362.4
	多目的ルーム2	51.0	3.0	153.0
	トレーニングルーム	56.0	3.0	168.0
	一階合計	-	-	2,519.4
二階	廊下・飲食スペース	84.0	4.0	336.0
	集会室	39.0	4.0	156.0
	弓道場	50.4	4.0	201.6
	観客席	54.0	4.0	216.0
	吹き抜け	26.0	10.5	273.0
	メインアリーナ	185.0	2.5	462.5
	二階合計	-	-	1,645.1
合 計		-	-	4,164.5

③メインアリーナ屋根

	室 名	幅	奥行	面積 (㎡)
	メインアリーナ	45.0	47.5	2,137.5
合計		-	-	2,137.5

4-17 外構計画

(1) 駐車場計画

駐車場は敷地西側に配置し、容易に出入りできるよう北側に出入口を設け分かりやすい動線とします。建物正面の北側道路には、体育館利用者の送迎のためのマイクロバスなどが効率よく移動できるよう車寄せを設置し、利便性を向上させます。

駐車台数は、基本的には普通乗用車の利用を想定し45台分を確保、建物入り口近くに車椅子用駐車場を配置し、駐車場から体育館入り口までの歩行者通路を確保します。また、車止めの有無についても検討します。

現状、平成27年12月に実施した利用者の来館方法調査の結果から、平日はほぼ45台以内に収まる状況となっており、また、利用者アンケートの結果から、利用者の大半は、南平地区、平山地区、豊田地区からの利用で、南平体育館を中心として平山地区の一部を除き半径2km圏内となっており、徒歩又は自転車で来館できる範囲となっています。さらに今後、駐車場の有料化を予定しており、施設利用者が現状より増えた場合でも徒歩や自転車の利用、公共交通機関の利用を促していくことで考えています。

周辺環境についても、体育館の東側に小学校が隣接しており前面道路が通学路となっていること、また、計画地が都市計画上の住居系用途地域に指定されていることから、児童の安全面、周辺住民の住環境の保全の面からも、自動車使用の抑制を図っていく必要があると考えます。

ただし、土日休日の大会時には現状の駐車台数では不足すると考えられるため、今後、周辺での臨時駐車場の確保を検討していく必要があります。南平体育館周辺には、現在も駐車場として利用されている土地が多くあり、体育館から徒歩圏内で駐車台数を補えるよう検討を進めます。尚、自走式の2階建て駐車場とした場合は、約50台分の駐車スペースの確保が可能です。今後、設計段階で費用対効果等も含めて詳細な検討を行っていくものとします。

(2) 植栽計画

周辺環境との調和に配慮した敷地内緑化を基本とします。敷地南側には水路を隔てて南平公園があり、一体的に地域住民の憩いの場となるようつながりに配慮しながら地域の植生を踏まえ樹種の選定を行います。

道路沿いに設ける歩行者通路は利用者を効率的に誘導し、また、花木を鑑賞しながら散策できる植栽計画とします。

(3) 舗装計画

周囲は住宅地であることから、周辺環境とのつながりに配慮した舗装計画とします。

敷地内には歩行者通路を設けるため、車道との区別が付きやすい工夫が必要となります。材料や施工方法についても安全性を考慮したものとし、高齢者や障害者にも分かりやすい計画とします。

(4) 照明計画（街路灯等）

歩行者や乗用車がともに十分な視界を確保できる明るさを保ち、周囲に調和する心地よい明かりを基本とします。通路など必要な場所には誘導性を持たせ、一体的に賑わいを演出します。また、夜間の災害停電時でも照明を点灯させ、安全を確保できるよう検討します。

(5) その他

地域交流の場として、屋外で催事を行う際に必要となり得る電源や調理用流し台の設置、また、屋外トイレの設置を検討します。

4-18 その他検討

(1) 床材の検討

これまで体育館の床はフローリングが多く使われてきましたが、近年では弾性床材の採用が見られるようになってきました。耐久性や安全性が求められる特に激しい動きが伴う競技の場合、弾性床材は足や膝の負担を軽減し、重大なケガを未然に防ぐことが期待できます。また、施工性やメンテナンス性などからも床材として優れた面を持っています。しかし、床の表面に重量がかかる際には表面が沈み、また、競技によっては向かないものもあるため、今後も検討が必要です。



	長尺弾性塩ビシート	フローリング
製品性	表面が軟らかいので怪我しにくい	表面が硬い
	濡れても滑りにくい	濡れると滑りやすい
	抗菌処理が施されている	抗菌処理がされていない
	表面が傷つきにくい	表面が傷つきやすい
	移動式バスケットゴール等、重量の重いものを置いた場合、床が沈むため養生等が必要	重量の重いものを置く場合でも養生は不要
施工性	直貼りが可能なのでコストを抑えることができ、その場合は施工が容易	鋼製材が必要
メンテナンス性	水拭きが可能で、普段はモップ掛け程度でよい。また、部分補修が可能。	水拭きは不可
価格（㎡あたり）	15000 円／㎡～28000 円／㎡	20000 円／㎡～25000 円／㎡



(採用事例：多摩市総合体育館)

(2) 空調事例（輻射式冷暖房 昭和第一学園高等学校）

輻射式冷暖房システムにより、光速で熱伝播を行い体感に直接作用することにより、上下の温度ムラを抑制します。また、水平冷房が可能となり大空間で飛躍的な省エネ効果を発揮します。無音、無風のため、各種競技にも効果的とされます。

メリット	デメリット
・風がないのでバドミントンなどの競技に適する。 ・音が静か。 ・温度ムラがほぼなく、快適性が高い。 ・エネルギー効率が高く、ランニングコストを抑えられる。	・結露が起こる。 ・壁面に設置するため、隣接して部屋や倉庫を配置する場合など、扉を設置できない。



その他、各冷暖房の比較表を以下に示します。

床放射式冷暖房と強制対流式・温水式床暖房・電気フィルム式床暖房・躯体蓄熱式床暖房・集中放射式冷暖房 比較表

システム 項目	①強制対流式空調 パナケーエアコンなど		②温水式床暖房		③電気フィルム式床暖房		④躯体蓄熱式床暖房		⑤集中放射式冷暖房		⑥床放射式冷暖房	
	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価
熱源機器 エネルギー源	EHP	8	GHP/KHP	7	カーボン発熱体フィルム	7	電熱線/カーボン発熱体	8	ヒートポンプチャラー	7	EHP/GHP/KHP/ヒートポンプチャラーなど	8
熱輸送	冷媒(代替フロンなど)		ガス/灯油		電熱線/カーボン発熱体フィルムなど		電熱線/カーボン発熱体		放射パネルなど		電熱線/ガス/灯油など多様	
	室外機		室外機		温水パネル		電熱線/カーボン発熱体		不凍液		冷媒(代替フロンなど)→空気	
インシヤル コスト	室内機	9	室内機	6	断熱材		断熱材		放射パネルなど		空調機/ダクト・ホース/ノズル等	
	冷媒管工事		冷媒管工事		電熱線/カーボン発熱体		電熱線/カーボン発熱体		放射パネルなど		断熱材	
	空調機(1系統で冷暖房を兼用)		空調機(1系統で冷暖房を兼用)		キュービクル(規模による)		キュービクル(規模による)		放射パネルなど		空調機	
(目安)	主冷暖房とできる		主冷暖房とできる		(別途 冷房用・制暖房用に空調機)		(別途 冷房用・制暖房用に空調機)		放射パネルなど		主冷暖房とできる(別途対流式不要)	
	100%(基準)		120%		225%		200%		放射パネルなど		180%	
ランニング コスト	電力料金(使用時電力)	6	電力料金(使用時電力)+ガス・灯油	6	電力料金(使用時電力)		電力料金(使用時電力)		電力料金(使用時電力)		電力料金(使用時電力)	
	高額のメンテナンス費用		オイル交換等のメンテナンス費用		高額のメンテナンス料金の発生		高額のメンテナンス料金の発生		不凍液交換など(温水式の場合)		不凍液交換など(温水式の場合)	
(目安)	空調機交換(法第15年)		空調機交換(法第15年)		ボイラー交換(法第15年)		ボイラー交換(法第15年)		クーラー交換(法第15年)		クーラー交換(法第15年)	
	100%(基準)		115%		130%		150%		130%		80%	
気流	風速が大きい(ドラフト感あり)	6	風速が大きい(ドラフト感あり)	6	気流ナシ		気流ナシ		気流ナシ(冷房時は扇風機併用)		気流ナシ(冷房時は扇風機併用)	
	(快適な気流は0.1m/s~0.2m/s程度)		(快適な気流は0.1m/s~0.2m/s程度)		(快適な気流は0.1m/s~0.2m/s程度)		(快適な気流は0.1m/s~0.2m/s程度)		(快適な気流は0.1m/s~0.2m/s程度)		(快適な気流は0.1m/s~0.2m/s程度)	
暖房時 体感	温風の届く人は温かい(ドラフト感あり)		温風の届く人は温かい(ドラフト感あり)		足下から輻射(やんわり)		足下から輻射(やんわり)		放射体方向から輻射(やんわり)		放射体方向から輻射(やんわり)	
	温風の届かない人は寒い(ムラ)		温風の届かない人は寒い(ムラ)		室温より2~3℃ほど暖かく感じる		室温より2~3℃ほど暖かく感じる		室温より2~3℃ほど暖かく感じる		室温より2~3℃ほど暖かく感じる	
	気流の動きが大きくなり、乾燥しやすい	6	気流の動きが大きくなり、乾燥しやすい	6	気流の動きが無く乾燥しにくい		気流の動きが無く乾燥しにくい		大温度差放射による指向性		大温度差放射による指向性	
					床温度の過上昇の懸念		床温度の過上昇の懸念		気流の動きが無く乾燥しにくい		気流の動きが無く乾燥しにくい	
冷房時 体感	冷風が当たる事で、より涼しくなる		冷風が当たる事で、より涼しくなる		別途冷房用空調機が必要		別途冷房用空調機が必要		冷房時のみ得られる		冷房時のみ得られる	
	冷風直撃の場合は寒い(ムラ)		冷風直撃の場合は寒い(ムラ)		単独では気流が無い		単独では気流が無い		単独では気流が無い(扇風機併用)		単独では気流が無い(扇風機併用)	
	冷風が届かない人は暑い(ムラ)		冷風が届かない人は暑い(ムラ)						熱処理能力が不足		熱処理能力が不足	
									放射面が大きい(温度差が大きい)		放射面が大きい(温度差が大きい)	
									結露の処理と清拭/カビの懸念		結露の処理と清拭/カビの懸念	
									単独では気流が無い		単独では気流が無い	
問題点・懸念	ドラフト感による不快感		ドラフト感による不快感		漏水事故の懸念		漏水事故の懸念		漏水事故の懸念		漏水事故の懸念	
	水平/垂直方向の温度ムラ	6	水平/垂直方向の温度ムラ		立ち上がり時間(30分程度)が必要		立ち上がり時間(30分程度)が必要		立ち上がり時間(30分程度)が必要		立ち上がり時間(30分程度)が必要	
	感熱性の拡大リスク		感熱性の拡大リスク		不凍液の濃度管理が必要		不凍液の濃度管理が必要		不凍液の濃度管理が必要(薬交換)		不凍液の濃度管理が必要(薬交換)	
					単独では気流が無い不快感		単独では気流が無い不快感		単独では気流が無い不快感		単独では気流が無い不快感	
					室温の上がり過ぎによる低温火傷		室温の上がり過ぎによる低温火傷		使用時の急な温度制御が難しい		使用時の急な温度制御が難しい	
災害時	電力復旧による	7	ガス・電気の復旧による(GHPの場合)	5	電力復旧による		電力復旧による		インフラ復旧による		インフラ復旧による	
					配管破損による漏水の懸念		配管破損による漏水の懸念		配管破損による漏水の懸念		配管破損による漏水の懸念	
総合 評価	最も普及している方式で、導入コストも安価であるが、快適性や省エネ性においてはメリットが小さい。メリットはインシヤルコスト。	56	EHPの効率的UPのために、インシヤルコストはランニングコストでのメリットは小さい(1つある)。	49	単独で冷暖房する事は出来ない。よって、別途冷房用に空調システムが必要となるので、トータルでは割高になる事がある。	44	単独で冷暖房する事は出来ない。よって、別途冷房用に空調システムが必要となるので、トータルでは割高になる事がある。	47	輻射エネルギーの計算から考えると、相当の温度差が必要(全数)は大きく表面面積が必要(全数)が多くなる。また、冷房時の温度対策と気流対策が必要。	53	主冷暖房として、1系統で冷房暖房を兼用することが出来る。床材の熱伝導率の影響を考慮して仕上材を選定する必要がある。気流計画によって全体的な気流、輻射エリアを割ることが出来る。	63

※1 数字:メリット を表します。

※2 インシヤルコストは、市場価格を根拠にしております。(正式見積を根拠にしております。)

※3 参考コストは、冷暖房および空調を必要とする前提です。

（３）観覧席の工夫（武蔵村山市総合体育館）

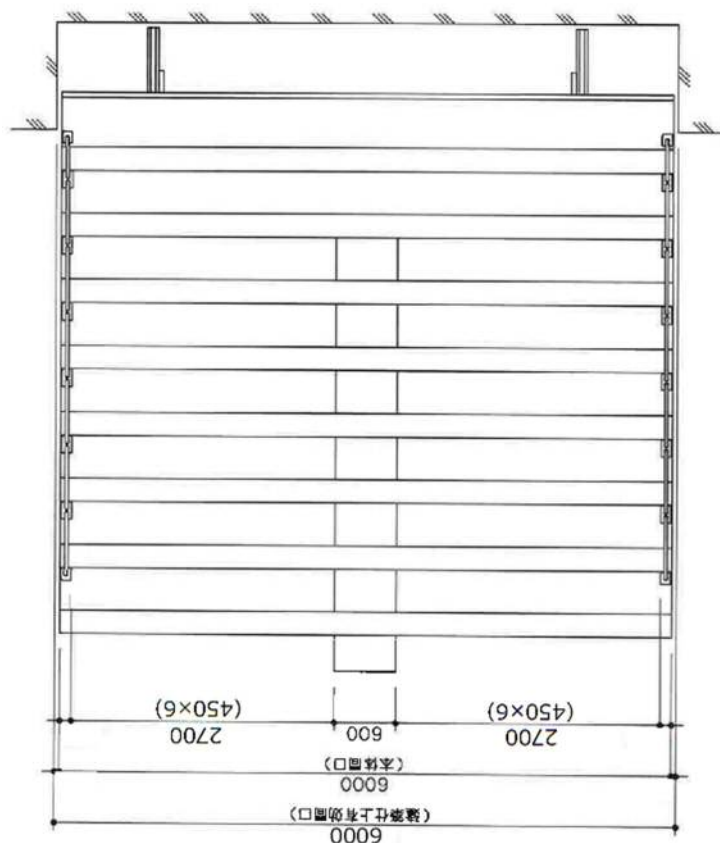
1階アリーナの柱と柱の間に、造りつけのベンチを壁に沿わせ、腰をかけたり荷物を置いたりできるよう考えられています。また、2階の観覧席について、固定の席でまかなえない分は引き出し式の観覧席を採用し、普段使用しないときは壁面に収納し卓球台を常設しています。



■観覧席の検討

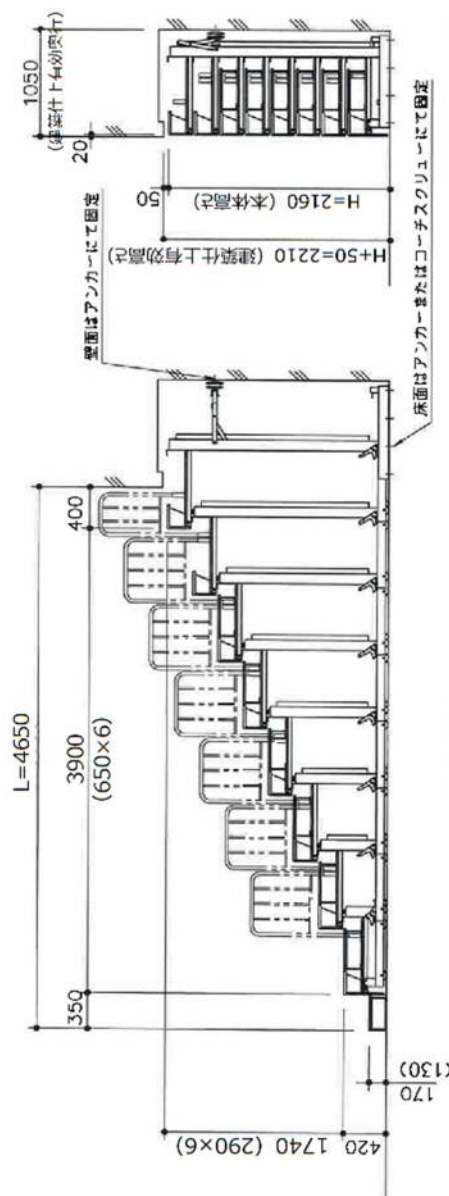
新南平体育館のアリーナ2階部分に観覧席（引き出し式ロールバックチェア）を設置した場合の検討を次頁に示します。

この場合、ベンチタイプの観覧席で、84席のものが5セット設置できるので420席となります。



ロールアップスタンド 本体仕様仕様 RS-021S			
開口	6000mm	B	1
高さ	96	高さ	1
幅	96	高さ	1
重量	431	高さ	1
本体重量	1996	高さ	1
最大積載量	2048	高さ	1
最大積載高さ	2048	高さ	1
最大積載面積	2048	高さ	1
最大積載体積	2048	高さ	1

本体主要部材	
床板	ラワン合板
側板	ラワン合板
脚柱	ラワン合板
支柱	スベリ止めエンボス加工板 (ブラックブラウン)
アーム	100×50×12.3 角鋼
ローラーカバー	鋼板加工品
走行ローラー	鋼板加工品
フロントビーム	12.5-3.0 アルミ押出型材
リアビーム	200×50×13.2 鋼管
フレーム	50×50×12.3 角鋼
本体付属品	
標準式手摺	φ31.8×11.6 鋼管
（底板下に収納）	
脚柱用リソク	14.5 鋼板加工品
補助ステップ	16.0 鋼板加工品
フレーム	118 鋼板加工品
操作ハンドル	φ34×13.2 鋼管
設置場所	床



段数	開口 mm	段数	高さ 250mm		高さ 250mm		高さ 250mm	
			高さ mm	重量 kg	高さ mm	重量 kg	高さ mm	重量 kg
3	6000	36	2050	752	920	766	1000	766
4	6000	48	2700	992	1170	1012	1290	1012
5	6000	60	3350	1236	1420	1263	1580	1263
6	6000	72	4000	1485	1670	1519	1870	1519
7	6000	84	4650	1738	1920	1781	2160	1781
8	6000	96	5300	1996	2170	2048	2450	2048

[高さ250mmの場合]

本図は 開口6000mm 段差250mm 8段の場合を表す。

収納状態

展開状態

(4) アリーナ照明

以下に、主要なアリーナ照明の比較を示します。

◆主要な照明のタイプ比較				
	水銀灯	LED	メタルハイドランプ	無電圧ランプ
評価項目				
	ランプ寿命	△ 定格寿命：6,000～12,000時間	○ 定格寿命：40,000～60,000時間	△ 定格寿命：6,000～12,000時間
	消費電力	△ 約400W (1台あたり)	○ 約140W (1台あたり)	○ 約200W (1台あたり)
	光束	○ 約55lm/W	○ 約115lm/W	○ 約100lm/W
	設置費用	△ 安価	△ 他に比べ高価	○ 本体は高価ではないが、別途、専用の安定器材の取り付けが必要となる。
	耐用年数 (ランプ) ※	△ 約2～4年	○ 約13～20年	△ 約2～4年
	メンテナンスについて	○ 寿命が長く、大光束を得られるため、取替え頻度は低い。	○ 寿命が極めて長く、取替え頻度は低い。	○ 寿命が極めて長く、取替え頻度は低い。
	発光効率・光束維持率について	△ 発光効率は低い。メタルハイドランプと比較して、8,000時間点灯時の光束維持率が80%を超える。	○ 発光効率が長く、8,000時間点灯時の光束維持率も80%を超える。	△ 発光効率は高いが、他2種と比較して、8,000時間点灯時の光束維持率が50%程度。
	演色性 (Ra) について	○ 演色性 (Ra) : 45以下 赤みの欠けた青白色が基本であり、演出に凝った自然な色を発光できない。	○ 演色性 (Ra) : 70～90 モノ本来の色を再現することができる。	○ 演色性 (Ra) : 70～90 モノ本来の色を再現することができる。
	ランニングコストについて	△ 一つの照明あたりの発光効率は高いが、W数が多いため、消費電力も高くなる。	○ 水銀灯に比べ、約1/3の消費電力で点灯でき、75%の消費電力を削減が可能。	○ LEDに比べ、点灯・再点灯に時間を要するため、こまめに消灯できないため、消費電力が高くなる。
総 評	メリット	・色変化が少ない。 ・即時点灯、再点灯が可能。 ・ランプ交換のメンテナンス労務の削減。 ・発熱・低減による換気、空調負荷の低減。 ・省エネ性能により、設置費用の約2割の補助金が出るケースがある。	・水銀灯に比べ、1灯あたりの光束が大きい。使用台数が削減できることで、消費電力が高くなる。 ・水銀灯と比べ、LEDランプと比較してこまめに消灯できないため、消費電力が高くなる。	・即時点灯、再点灯が可能。 ・長寿命のため、ランプ交換頻度が少ない。 ・光の拡散性が強く、明るい。 ・発熱・低減による換気、空調負荷の低減。 ・目にやさしい光。
	デメリット	・点灯までに時間を要するため、こまめな消灯ができない。 ・照射対象の色を正確に表現できない。 ・水銀条約によって、生産が縮小、2020年以降は利用できない。	・点灯までに時間を要するため、LEDランプと比較してこまめに消灯できないため、消費電力が高くなる。 ・LEDランプは重量性があるため、まぶしく感じる場合があり、室内の平均照度を高めるには、台数を増やさなければならぬ。	・安定器が必要のため、メンテナンスに手間がかかる。 ・発光部がガラスのため、取り扱いに注意が必要。
		×	○	△
				○

備考：※ランプ耐用年数は、年間点灯時間を3,000時間として算出。

※消費電力、ランプ寿命は機種によって異なります。

※メーカーHP参照

(5) ランニングコース（武蔵村山市総合体育館・多摩市総合体育館）

アリーナの2階部分をランニングコースとして使用しており、幅員は1600mm程度としています。片側通行といったルールを設け、利用者同士がぶつかる等の事故を防いでいます。また、転落防止柵は透明色のものを採用することで、大会時には観覧が可能となります。

視覚障害者にとって、伴走者を伴わずに安全に気兼ねなく走れる設備等があることは、大きな価値を持ちます。設計にあたっては、ユニバーサルデザインの視点から検討します。



武蔵村山市総合体育館



多摩市総合体育館

(6) 武道利用の可能性

近年の武道競技人口の減少傾向などから、基本的には剣道や柔道の武道の機能は、市民の森ふれあいホールに集約化していく方向で検討を進めます。ただし、利用者からの練習要望もあり、武道に対応できるマットを備品として用意することで、多目的室などでの武道の練習を可能とします。マットについては、必要なときに倉庫から出して使用でき、利用者が容易に撤去・収納作業ができるものを採用します。また、武道用マットを常備することにより、避難滞在中の住民の負担軽減にも役立てられます。

※ 想定対応種目:柔道、空手、合気道



(マットイメージ:U 社製品)

U 社製品の特徴	導入実績
わずか 5～10 分で仮設道場が完成。滑り止めや木枠が不要で多目的スポーツマットとして使用できる。	・防衛庁 市ヶ谷駐屯地 ・大泉スワロー体育クラブ ・勝田台中央公園小体育館 ・安並スポーツセンター内武道館 ほか

(7) 弓道場における屋根設置の検討

弓道場の矢道について、既存施設では屋根のかかっていない仕様となっており、競技関係者からは冬場の寒さや雨などの吹き込み等の問題から、屋内弓道場としてほしいとの要望がありました。新南平体育館の弓道場の屋根について、屋根をかけた場合の空調設備におけるコストについて、下記の通り検討を行いました。これまで通り屋根をかけない方針で計画を進めることとします。ただし、射場、観覧スペース、矢取道については屋内を想定しています。

■弓道場を屋内とした場合の空調設備について、下記条件を想定した場合のおおよそのインシヤルコスト及びランニングコストを算定する。

- ・稼働時間：月曜日～日曜日の朝 9 時から夜 21 時まで
- ・冷房期：5 月～10 月 暖房期：11 月～4 月
- ・冷暖房範囲は弓道場全体とする。

<概算冷暖房負荷>

- ・冷房：840 m²×0.3kw/m²=252KW
- ・暖房：840 m²×0.15kw/m²=126KW

空冷ヒートポンプパッケージ (EHP)

(室外機) 冷房能力：61.5KW×5 台 (@5,000,000 円)

暖房能力：69.0KW×5 台

消費電力：17.2KW (冷房時) × 5 台 (86KW)

18.1KW (暖房時) × 5 台 (90.5KW)

¥25,000,000.-

(室内機) 天井カセット形 4 方向 冷房能力 5.6KW タイプ

252KW/5.6KW≒45 台 (@355,000 円)

¥15,975,000.-

◆冷暖房設備費：25,000,000+15,975,000=40,975,000 円

◇冷房時ランニングコスト

153 日 稼働時間 12 時間/日 (冷房負荷率 50%とする)

252KW×0.5×12 時間/日×153 日=231,336KW/年

機器運転時間=110,160/61.5KW×5 台=752 時間/年

86KW×752 時間×17.13 円/KW=1,107,831 円/年

◇暖房時ランニングコスト

181 日 稼働時間 12 時間 (暖房負荷率 50%とする)

126KW×0.5×12 時間×181 日=171,045KW/年

機器運転時間=171,045/69.0KW×5 台=495 時間/年

90.5KW×495 時間×15.99 円/KW=716,312 円/年

◇基本料金

1684.8 円/KW×86KW×12 ヶ月=1,738,713 円/年

◆年間電気代：1,738,713+1,107,831+716,312=3,562,856 円/年

◆室外機スペース：約 10m×5m=50 m²

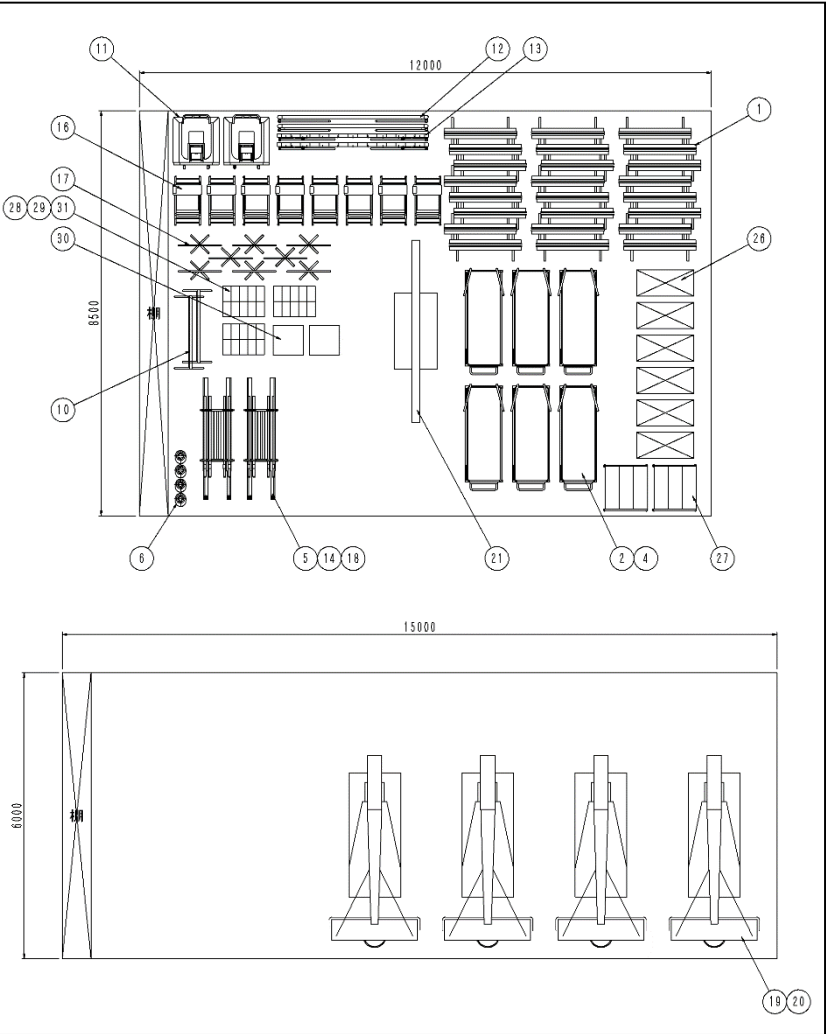
(8) 器具庫の想定

本計画案でのアリーナ及び多目的室の器具庫について、競技器具を想定し、器具庫に収納した場合の器具庫内レイアウトを下記に示します。競技器具については今後再度精査し、設計段階で内容を反映していきます。

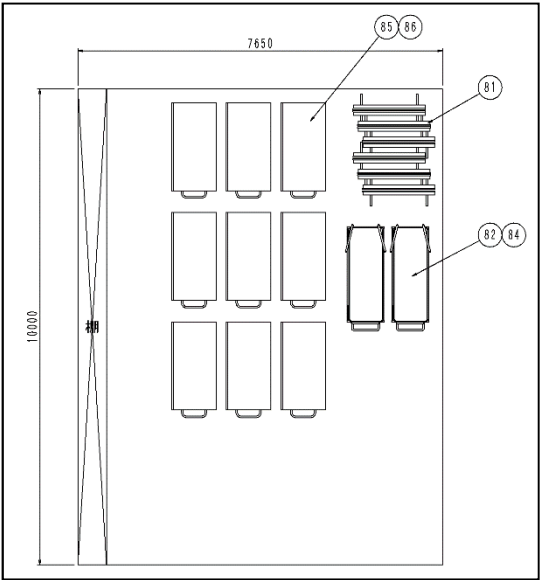
アリーナ			
No.	品名	製品番号	数量 備考
1	卓球台	DH9520	24
2	卓球用フェンス 200x75cm	DH5030	226 4に収納
3	得点板	DS0730	24 棚に収納
4	フェンス運搬車	DP1000	6
5	バレーボール用支柱	DE1015	2 18に収納 2組で4本
6	支柱カバー	DE2000	2 2組で4本
7	バレーボール用アンテナ	DE9411	2 棚に収納 2組で4本
8	バレーボール用ネット6人制	DE800361	2 棚に収納
9	バレーボール用ネット9人制男子	DE8302	2 棚に収納
10	バレーボール・バスケットボール得点板	DS0130	2
11	バレーボール用審判台	DL0520	2
12	フットサル用ゴール	DJ0611	1 1対で2台
13	ハンドボール用ゴール	DJ1031	1 1対で2台
14	バドミントン用支柱	DE1015	8 18に収納 8組で16本
15	バドミントン用ネット	DE1015	8 棚に収納
16	バドミントン用審判台	DE1015	8
17	バドミントン用得点板	DS0650	8
18	ボールバー整理台	DK0111	2
19	バスケット台 オレンジゴール	DA0667	2 2対で4台
20	セッティングゲージ (オレンジゴール用)	DA060004	2 2対で4台
21	電光得点表示装置	DS7000	1 操作盤等は棚に収納
22	オルタネイティング・ポゼション表示器	DS4600	2 棚に収納
23	反則数表示板 (チーム用)	DS5040	2 棚に収納
24	反則数表示板 (個人用)	DS5120	2 棚に収納
25	ファール回数表示器	DS3511	1 棚に収納
26	ポータブルステージ	HE910145	6
27	階段 (ポータブルステージ用)	HE9729	2
28	ボール入れ籠 フットサルボール	DK0600	1
29	ボール入れ籠 ハンドボール	DK0600	1
30	ボールカゴ バスケットボール	DK9012	2
31	ボール入れ籠 バレーボール	DK0600	1

多目的ルーム1			
No.	品名	製品番号	数量 備考
81	卓球台	DH9520	6
82	卓球用フェンス 200x75cm	DH5030	73 84に収納
83	得点板	DS0730	6 棚に収納
84	フェンス運搬車	DP1000	2
85	柔道畳運搬車	EP1020	9
86	柔道畳 1820x910mm	EA920073	196 86に収納 製品番号はワサビ色

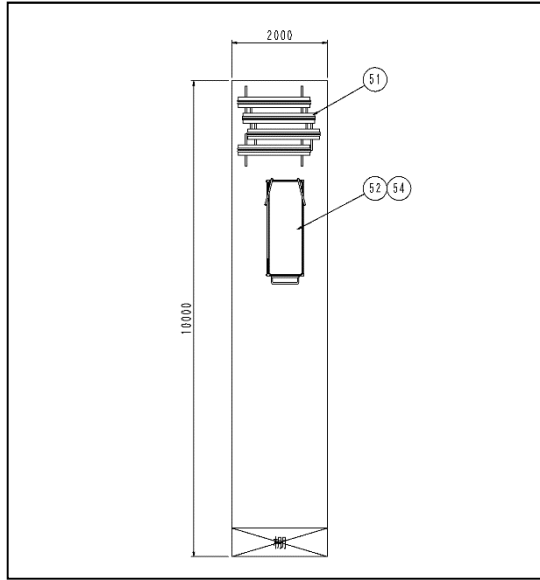
観覧スペース			
No.	品名	製品番号	数量 備考
51	卓球台	DH9520	4
52	卓球用フェンス 200x75cm	DH5030	1 54に収納
53	得点板	DS0730	4 棚に収納
54	フェンス運搬車	DP1000	1



アリーナ



多目的ルーム 1



観覧スペース

(1) 建設費

三年の総合体育館の建設費の事例

※諸経費、管理費等は上記建設費に含まない。 【出典：建設物価指数月報（一般財団法人建設物価調査会）】

②同種同規模施設の建設単価のヒアリング結果

上記の同種他事例の実績から考えると 500 千円/㎡ですが、ヒアリング結果及び、今後の建設費の上昇等も考慮し、建設単価を 550 千円/㎡として本施設の概算工事費の算出を行います。尚、建設費については現在までに既に上昇しており、今後は緩やかに上昇し、2020 年の 1 年前くらいには建設市場も落ち着くとのヒアリング結果が得られました。

$$550 \text{ 千円/m}^2 \times 5,469.80 \text{ m}^2 \text{ (延床面積)} = 3,008,390 \text{ 千円} \quad (\text{消費税抜き})$$

- ・基本及び実施設計費用 : 約 70,000 千円
- ・その他工事監理費、外構費用等 : 約 75,000 千円

133

(2) 解体費

既存体育館の解体費は、建設会社へのヒアリング調査をもとに下記の通り算出しました。

約 1 0 6, 6 6 2 千円 (消費税抜き)

(3) 維持管理費

新南平体育館の維持管理費の前提条件を下記の通り設定しました。

■前提条件

建物点検周期 (年)	3	防犯警備費 (円/㎡回)	500
設備点検周期 (年)	1	ビル管理費 (円/㎡回)	150
建物点検費 (円/㎡回)	1,000	光熱水費 (円/㎡回)	3500
設備点検費 (円/㎡回)	1,500	一般管理費 (円/㎡回)	500
清掃費 (円/㎡回)	1,500		

上記、維持管理費の前提条件と同種他事例における修繕費・更新費などの実績データをもとに 65 年間のライフサイクルコストを算出の上、年間あたりの維持管理費の算出を行いました。

■ライフサイクルコスト (65 年間) (単価: 千円)

更新費	3,108,044
修繕費	226,540
保守費	1,412,576
光熱水費	1,244,380
一般管理費	177,769

■1 年間における維持管理費 (単価: 千円)

修繕費	3,485
保守費	21,731
光熱水費	19,144
一般管理費	2,734
合計	47,094 (消費税抜き)

(4) 活用可能な交付金について

公共体育施設整備のための補助制度として、代表的なものは文部科学省の学校施設環境改善交付金、東京都のスポーツ施設整備費補助金、その他、スポーツ振興くじ助成金があります。

※各種制度は、適用する年度によって制度・要綱が変更される場合があるため、今後の動向に留意する必要があります。

<公共体育施設整備のための補助制度>

制度名称	補助率	対象	備考
①学校施設環境改善交付金 (社会体育施設整備事業) (文部科学省)	補助率：1/3 面積 × 単価 (¥158,800) × 1/3	地方公共団体 地域スポーツクラブの活動拠点としてふさわしいクラブハウスを備えた屋内総合スポーツ施設を新築又は改築し、あるいは改造する事業	ただし、体育室、トレーニング室、健康・体力相談室、体力測定室、会議室、研修室、談話室、シャワー室及び更衣室を全て備え、床面積が2,000㎡以上を有する施設であること。4,000㎡を補助限度とする。
②オリパラ成功区市町村補助 (スポーツ施設整備費補助金) (東京都)	補助対象経費の1/2(限度額を1施設あたり1億円とする)	都内において各区市町村が保有し、条例、規則等を根拠に設置されるスポーツ施設	オリパラ開催年まで制度拡大継続予定。ただし、平成32年度末までの竣工が対象となる見込み
③H27年度スポーツ振興くじ助成金 (地域スポーツ施設整備助成)	工事費、設計管理費の2/3(限度額は2千万円)	都道府県、市町村、都道府県又は市町村が出資又は拠出したスポーツ団体、法人格を有する都道府県体育協会及び指定都市体育協会、法人格を有する総合型地域スポーツクラブ	独立行政法人日本スポーツ振興センタースポーツ振興くじ助成金交付要綱

<太陽光発電のための補助制度>

制度名称	補助率	対象	備考
再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業 (環境省)	定額、1/2、2/3	地方公共団体	実施期間：平成28年度～32年度

<多摩産材・国産材活用のための補助制度>

該当なし

(5) 事業費（財源内訳）

建築事業費： 3,008,390 千円×1.08（消費税）＝3,249,061 千円（消費税込み）

①資金計画

（単位：千円）

		限度額	想定額
国 費	学校施設環境改善交付金 4000 m ² を限度とするので、 4,000 m ² ×158,800 円/m ² ×1/3=211,733 千円	211,733	200,000
都 費	スポーツ施設整備費補助金	100,000	100,000
そ の 他	スポーツ振興くじ助成金（※）	20,000	-
基 金	体育施設整備基金	500,000	500,000
地 方 債	学校教育施設等整備事業（充当率 75%） ・対象は公立の小中学校、特別支援学校、幼稚園、高等学校、大学、社会体育施設等の整備事業 ・充当率は学校施設環境改善交付金を受けて実施する事業（補助事業）、地方単独事業の両方とも 75%	-	1,837,500
一般財源		-	612,500
合 計			3,250,000

※スポーツ振興くじの助成については、確定されていないため上記の計画に含まない。

②起債償還計画

○元利償還金の推計条件

- ・償還期間 20 年（据置 3 年）
- ・元利均等償還／半年賦／固定金利
- ・利率 0.2%（H28.3.9 以降適用利率）
- ・借入年度：実際は 2 年度に分けての借り入れになると思われるが、簡易的に 31 年度に全額を借りる形で推計

（単位：千円）

償還年額	据置期間（3 年間）： 5,299／年 4 年目以降（17 年間）：158,667／年
償還額合計（20 年間）	2,7131,229

4-20 年間利用者数における試算

施設整備後の年間利用者数の試算を行った。前提条件となる既存体育館の各部屋の利用者数は下記の通りであり、それらを基準とした試算を下記の通り示す。

□既存

利用者数	合計 90,000 人／年	(267 人／日)
アリーナ	47,000 人／年	(140 人／日)
柔剣道場	17,500 人／年	(52 人／日)
弓道場	8,000 人／年	(24 人／日)
トレーニングルーム	16,000 人／年	(48 人／日)
会議室	1,500 人／年	(4 人／日)

※開館日数：337 日

※場所別内訳・・・事務報告の種目別内訳より推計

□計画

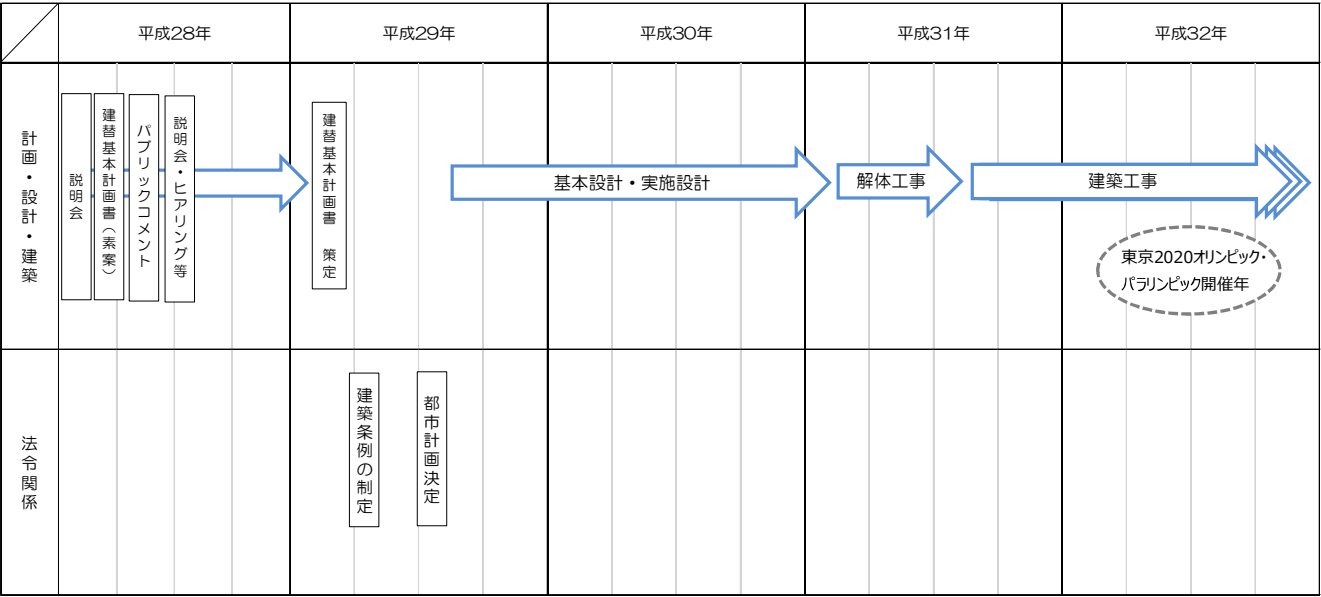
諸室	利用者数／年	根拠
アリーナ	61,000～70,500 人	バドミントンコート 6 面から 8 面 (1.3 倍)
多目的室 1	17,500 人	既存利用者と同数
多目的室 2	20,000 人	運動プログラム： 定員 20 人×5 コマ (1 コマ 2h) ×200 日 =20,000
弓道場	8,800 人	利用競技が限定されるため 1 割増
トレーニングルーム	24,000 人	面積 1.5 倍
会議室	3,500～4,200 人	面積 2.5 倍だが、既存では利用者が 過度に少ないため、整備後は地域利 用の可能性を見込み最大 3 倍
ランニングコース	2,000～5,000 人	新規整備のため他市事例から推測

利用者数（試算）合計 136,800～150,000 人

建替え後の利用者数は、年間で現状から 46,800 人～60,000 人の増加となる。

4-2-1 事業スケジュール

下記スケジュールは、全ての工程が順調に進んだ場合における最短のスケジュールとなります。市といたしましては、平成32年を目標とし、健康・スポーツ、地域交流、防災などの重要な拠点として早期建設に取り組んでまいります。建設年度については、経済情勢や公共工事を取り巻く環境の変化などを踏まえながら各工程において見直して参ります。



4-22 イメージパース

次頁以降に、外観及び内観のイメージパースを示す。

外観及び内観デザインについては、今後の設計段階において下記事項を踏まえつつ検討を進めます。

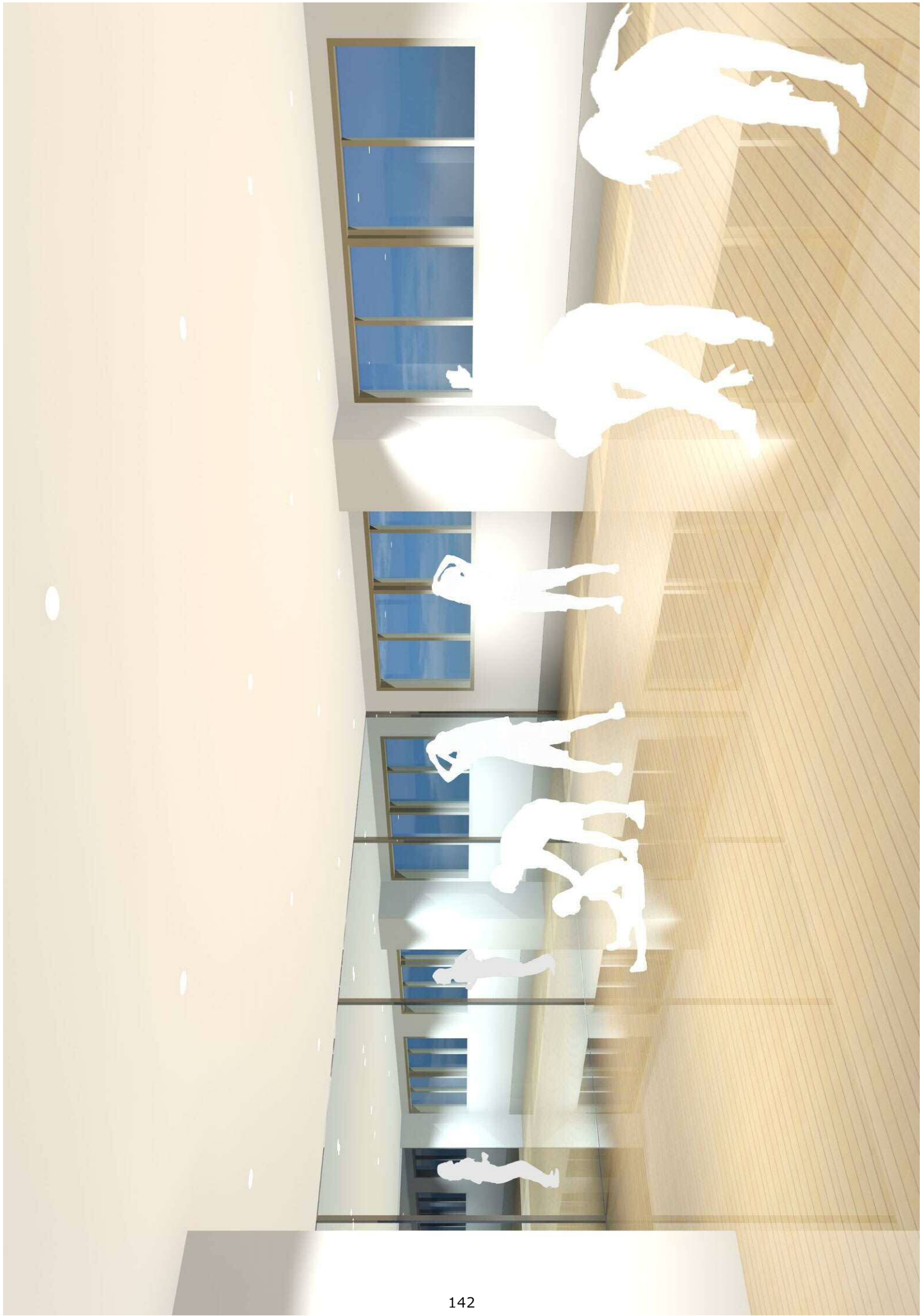
◇敷地の北側、西側には道路があり住宅が広がるため、可能な限り圧迫感を与えないような外観とします。

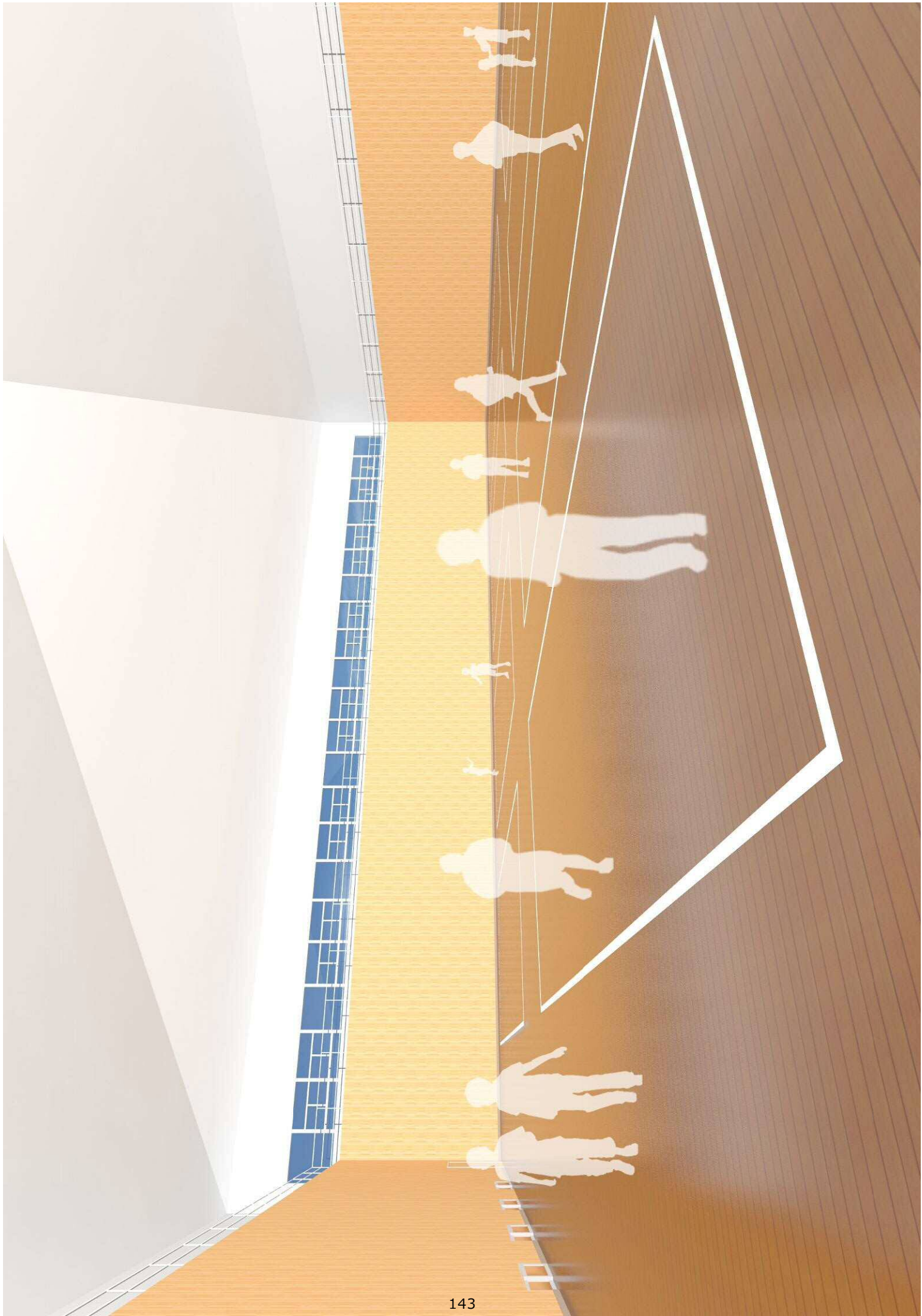
◇南側は水路を介して公園からの視認性があるため、周囲と調和を図りながら存在感のあるデザインとします。

◇地域住民の憩いの場にふさわしく、落ち着きとともに明るく開放的な外装とします。









5. 運営方針

5. 運営方針

公共施設の建設に係る事業手法について、これまでは従来型の事業として、各業務の分離発注を行ってきたが、近年の公共事業においては、限られた財源のもと、より効率的、効果的な公共施設の整備等を行うために、PFI(※)方式など民間資金やノウハウの活用を前提とした一括発注方式を導入する事例も増えている。本事業においても有効な事業手法を選択するため、比較検討が必要である。

※PFI（プライベートファイナンスイニシアチブ）とは、PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）公民連携の一つの手法

5-1 事業手法の検討

事業手法の検討にあたっては、市の財政の平準化や民間ノウハウの活用も視野に、民間資金を活用したPFI事業の導入も含めて検討を行うものとする。

(1) 事業手法の整理

以下に日野市南平体育館整備運営事業に適用が想定される事業手法の特徴を示す。

図表 民活事業スキームの特徴の比較

事業手法	公設民営(指定管理者制度)	DBO方式	PFI方式			
			BTO 型	BOT 型	BOO 型	運営権型
概要	設計・建設等の各業務について、それぞれ個別に市が発注する方式であり、設計、建設業務は単年度契約、維持管理運営は、指定管理者に委ねられ複数年契約となる。	設計・建設等から管理運営までを一体の業務として市が一括発注する方式であり、複数年契約となる。なお、施設の所有者は市であり、資金調達は公共。	設計・建設等から管理運営までを一体の業務として市が一括発注する方式であり、複数年契約となる。施設の所有者は市又は民間事業者であり、資金調達は民間。			
根拠法令	条例・規則 地方自治法	条例・規則	条例・規則 PFI法			
民間事業者の事業範囲	—	—	資金調達			
	—	設計・建設	設計・建設			
	維持管理・運営	維持管理・運営	維持管理・運営			
契約	設計	設計業務委託契約	PFI事業契約 (設計・建設・維持管理／複数年一括契約)			PFI事業契約
	建設	建設工事請負契約				運営権実施契約
	管理	維持管理・運営契約(複数年)				
事業者への発注	業務毎に分離発注	一括発注	一括発注			一括発注
施設の所有 (事業期間中の)	公共	公共	公共	民間(SPC)	民間(SPC)	公共
施設の所有 (事業終了後)	公共	公共	公共	公共	民間(SPC)	公共
建築主	公共	公共	民間(SPC)			
債務負担行為	債務負担行為が必要	債務負担行為が必要	債務負担行為が必要			
議会の議決	・一定金額以上の建設請負契約 ・指定管理者の指定	・一定金額以上の建設請負契約 ・指定管理者の指定	・PFI事業契約 ・指定管理者の指定			
資金構成	一般財源+起債+補助金	一般財源+起債+補助金	民間資金(+一般財源、起債+補助金)			
支払平準化	△	△	○(施設整備費の割賦支払)			
民間活力導入の程度	管理・運営に限定	施設整備と管理・運営に分けて発揮	施設整備・管理・運営に一体的に発揮			同左に更に経営 に関しても発揮

施設整備にあたって、一定額の自主財源の確保と起債による資金調達が可能である場合は、従来型の公設民営方式や、設計、建設、維持管理を一括発注することで、事業費の削減が期待できるDBO方式などが考えられるが、単年度にある程度まとまった自主財源が準備できない場合や、性能発注方式等によって、より事業費の削減を期待する場合には、民間による資金調達を行うPFI方式も考えられる。

施設整備の内容や市の財政状況等を踏まえ、市にとっての最適な事業手法について検討した結果を次頁以降に記す。

(2) 概算建設費の整理

施設整備費について、従来方式で整備する場合とPFI方式で整備する場合の概算費用は以下の通りである。

尚、以下はPFI方式の導入を検討するに当って実施されるVFM算定ではなく、従来方式及びPFI方式の資金調達方法を想定して建設費についてのみ簡易的に試算したものである。

	従来方式	PFI方式
資金調達方法	起債 75%、一般財源 25%	民間調達 75%、一般財源 25%
資金調達条件	償還期間 20 年（据置 3 年） 元利均等償還／半年賦／固定金利 利率 0.2%（H28.3.9 以降適用利率）	償還期間 20 年 元利均等償還／半年賦／固定金利 利率 1.357% （＝LIBOR20 年 H28.12.6 仲値 0.557% に金融機関スプレッド 0.800%を上乗 せ） ※LIBOR：PFI 事業で一般的に使用され る金利 ※金融機関スプレッド：PFI 事業者 に資金を融資する際に得る利ざや
①概算工事費（税抜）	3,270,852 千円	3,107,309 千円 ※PFI 事業の場合、従来方式の 95%で 整備できると仮定
（内訳）		
基本設計費	20,200 千円	19,190 千円
調査費	—	—
地質調査	3,000 千円	2,850 千円
測量調査	2,500 千円	2,375 千円
実施設計費	47,100 千円	44,745 千円
解体費	106,662 千円	101,329 千円
建設費	3,008,390 千円	2,857,971 千円
外構費	58,000 千円	55,100 千円
工事監理費	25,000 千円	23,750 千円
②消費税（8%）	261,668 千円	248,584 千円
③金利	63,839 千円 ※起債に係る金利	373,911 千円 ※民間調達に係る金利
合計（①＋②＋③）	3,596,359 千円	3,729,804 千円

(3) 運営方法について

P F I とは、公民連携の一つの手法であり、公共施設等の設計、建設、維持管理及び運営に民間資金やノウハウ等を活用し、「行政サービスの提供を民間主導」で行う手法である。

これまで南平体育館は、市南部地域を中心とした地域の方々に安価で利用できる体育館として親しまれてきた施設である。新南平体育館は、これまでの南部地域のスポーツの中核拠点としての役割を継続させつつ、高齢化社会における健康寿命の延伸や、地域の防災、交流などにも役立つ地域体育館として位置づけ計画を進めている。

また、今回行った民間事業者へのヒアリングからも読み取れるように、本施設は民間のノウハウを活用できるカフェや売店などの民間収益施設に適した立地ではなく、サービスのあり方を民間主導で行う必要性は低く、さらに運営に関しても収益性を強く追求する性格の施設ではない。これらのことから、P F I 手法導入のメリットは薄いと考えられる。

一方、P F I のメリットの一つとして民間資金導入があるが、新南平体育館は財源の8割近くが起債となる。概算建設費の比較からわかる通り、概算工事費はP F I 方式の方が従来方式に比べ抑えられるにもかかわらず、民間調達に係る金利は起債に係る金利の5倍以上もかかり、総事業費として0.3割程度高くなる。昨今の超低金利の状況を踏まえると、民間資金導入に大きな優位性はないと考える。

現在、市民の森ふれあいホールは平成26年度より指定管理者制度による運営であり、自主事業として行っている各種スポーツ教室プログラムの提供により、年間利用者も増加している。

多様化する市民ニーズや事業提供のありかたを行政として柔軟に捉え、時代に合わせて変化させていくためには、P F I 事業による長期間の固まった運営・サービスの提供ではなく、3～5年で民間事業者を公募選定する指定管理者制度を活用することが本整備計画には適していると考ええる。

これらより、建替え後は利用者の拡大を図っていくが、運営に関してはP P Pの他の手法である指定管理者制度の導入を方針とし計画を進めるものとする。

5-2 民活手法導入の場合の民間事業者への参画意向調査

下記条件にて、民間事業者にヒアリング調査を行った。

○実施期間

平成 28 年 9 月 12 日（月）～平成 28 年 9 月 30 日（金）

○調査方法

対象企業に電話連絡の上、依頼書、事業概要書（案）、アンケート調査表及び参考資料を送付し依頼。

○調査対象企業

No.	企業名（匿名）	回収
1	代表企業 A	1
2	建設企業 A	×
3	建設企業 B	×
4	建設企業 C	2
5	建設企業 D	3
6	建設企業 E	4
7	建設企業 F	5
8	建設企業 G	6
9	建設企業 H	7
10	建設企業 I	8

○調査結果の傾向

- ・ PFI 方式と DBO 方式を比較した場合は、コスト面では DBO 方式の優位性が高い傾向があるものの、SPC を設立する PFI 事業の方が、参加企業が事業期間にわたり、継続的に事業に関わることができるなどの理由から PFI（BT0 方式）が適当であるとの意見が 62% であった。
- ・ PFI 事業とした場合、設計、建設、維持管理、運營業務を全て民間事業者に委ねることは、適当だという意見が 100% であった。
- ・ 本事業への関心（参画意向）については、関心があるが 75%、どちらともいえないが 13%、非常に関心があるが 12% であった。

アンケート内容及び結果の詳細については、巻末の資料編に添付する。

5－3 施設利用料の設定

建替え後については、公共施設等の使用料設定基準により建設費及びランニングコスト、受益者負担割合などから金額を算出し、市内や他市の類似施設などを参考にしながら、適正な料金設定を検討する方針である。また、駐車場については有料化する方向で検討を進める。

建替え後の新南平体育館では、これまで装備されていなかった空調設備が備わることで維持管理費が増えることが予想される。そのような冷暖房料金をどのように利用料に反映するか、また、駐車場についても、公共交通機関の利用を促し周辺環境の維持につながるよう有料化を検討していく方針であるが、現在のところ、市内類似の施設である市民の森ふれあいホールを参考とし利用料金設定の検討を進める予定である。

参考として、巻末の資料編に周辺市町村の体育施設利用料を整理したものを示す。

6. 今後の課題

6. 今後の課題

以下に今後の課題を示す。

(1) 駐車場について

新南平体育館は、南部地域のスポーツ活動拠点として考えており、市外や遠方から集まる広域的な大会、イベント等での利用は想定していない。

基本計画では、現状の駐車場利用状況の調査を行い、平均台数を算出し、それを基に地域の身近な体育館として必要最低限度の駐車台数を整理している。

ただし、土日休日などの市民大会等の利用時を想定し、敷地外に臨時駐車場として借上げ等を引き続き検討していく必要がある。

資料編は平成 28 年 8 月から 10 月までの間実施した駐車場候補地調査の結果を示す。

(2) 工事期間中の代替施設について

工事期間中の代替施設として、仮設体育館を整備した場合の整備費用について、調査を行った。

アリーナの代替施設は仮設費用や土地の確保が非常に困難であり、市民の森ふれあいホールや市内の学校体育館、交流センターなどを代替施設として利用し、対応を行っていかざるをえないと考える。

トレーニングルームについては、利用者も多く、代替機能を望む声も多くあることから、代替機能の可能性について検討していきたい。

＜仮設体育館の整備費に関する調査結果＞

	A 社	B 社	
面積	1367.01 m ²	1800 m ² （軽量鉄骨造）	1700 m ² （重量鉄骨造）
高さ	6.5m	7.5m 以下	12.5m
レンタル期間	1 年	1 年	1 年
費用	¥67,500 千円	¥524,000 千円	¥608,000 千円
備考	アリーナのためのレンタル テント	アリーナ、トレーニング ルーム、柔道場、剣道場、 事務室、男女更衣室、シ ャワー室、トイレ	アリーナ、トレーニング ルーム、柔道場、剣道場、 事務室、男女更衣室、シ ャワー室、トイレ

※上記金額には、地盤調査、測量調査、申請費、工事管理費等は含まない。

7. 業務報告

7. 業務報告

7-1 打合せ記録

本業務に関する打合せを下記の通り行った。

平成 27 年度 基本計画案策定業務	
第 1 回	平成 27 年 4 月 27 日 (月)
第 2 回	平成 27 年 5 月 25 日 (月)
第 3 回	平成 27 年 6 月 25 日 (月)
第 4 回	平成 27 年 7 月 27 日 (月)
第 5 回	平成 27 年 8 月 28 日 (月)
第 6 回	平成 27 年 9 月 10 日 (木)
第 7 回	平成 27 年 9 月 25 日 (木)
第 8 回	平成 27 年 10 月 16 日 (木)
第 9 回	平成 27 年 11 月 19 日 (木)
第 10 回	平成 28 年 1 月 7 日 (木)
第 11 回	平成 28 年 2 月 18 日 (月)
第 12 回	平成 28 年 3 月 15 日 (火)
平成 28 年度 基本計画策定業務	
第 13 回	平成 28 年 6 月 13 日 (月)
第 14 回	平成 28 年 8 月 8 日 (月)
第 15 回	平成 28 年 9 月 28 日 (水)
第 16 回	平成 28 年 12 月 7 日 (水)
第 17 回	平成 29 年 1 月 17 日 (火)

7-2 住民説明会

周辺住民及び体育施設利用者を主な対象とし、建替基本計画についての説明会を下記の通り 4 回行った。

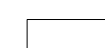
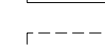
平成 27 年度 基本計画案策定業務	
第 1 回	平成 28 年 1 月 23 日 (土)
第 2 回	平成 28 年 1 月 23 日 (土)
平成 28 年度 基本計画策定業務	
第 3 回	平成 28 年 7 月 3 日 (日)
第 4 回	平成 28 年 9 月 4 日 (日)

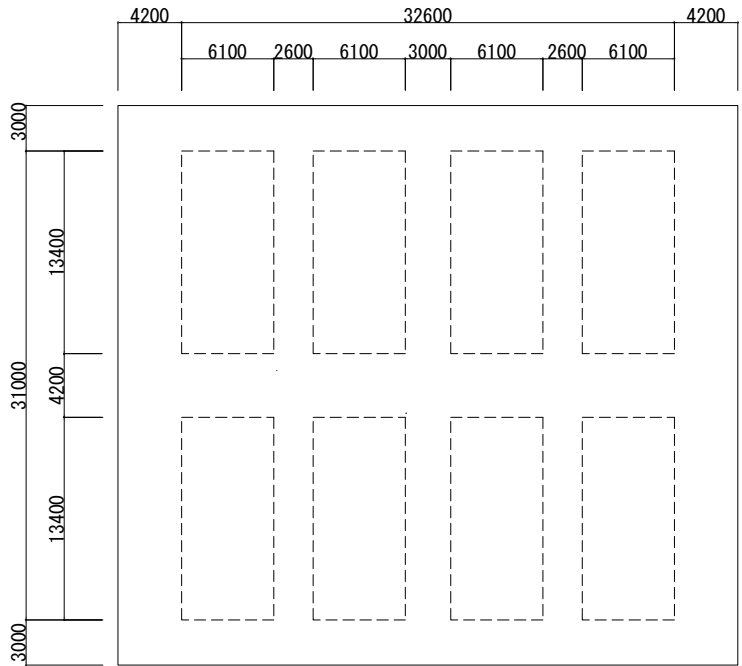
メインアリーナ(1517㎡)

◇メインアリーナにおける各種競技の付帯条件

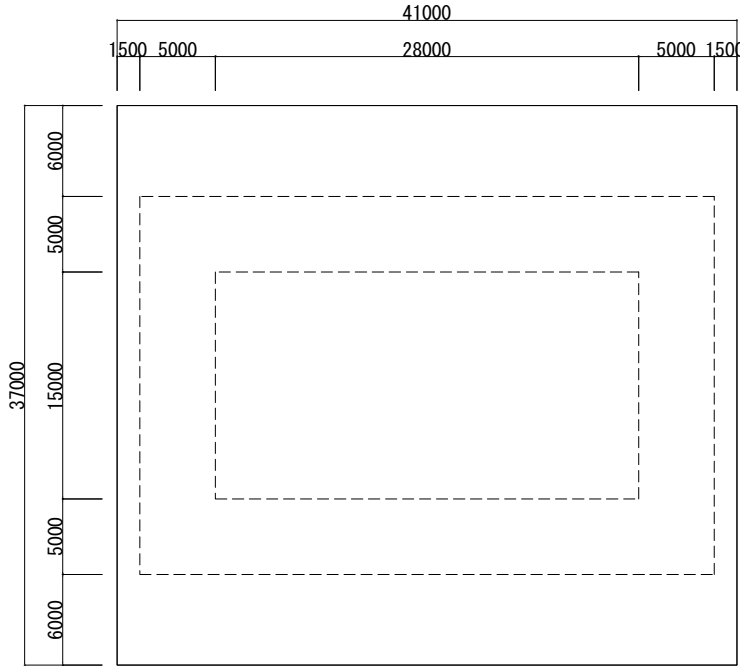
	寸 法	天井高	照明（設備）	備 考
バドミントン	縦6.1m×横13.3m （国体規格）	12m	1,200（1x）	・ネット：丈が760mm、幅が最低6.1mあるものとする。 ・ポスト：高さは床から1.55mとする。
バスケットボール	縦28m×横15m （国体規格）	7m	1,500（1x）	・床は木材が一般的。 ・バックボード：外側で水平方向590±3cm、垂直方向450±3cmとし、底線の上縁はリングと同じ高さとする。 ・バスケット装置：移動式、吊下式、壁面式の3つの内いづれかを設置。
フットサル	縦18m×横38m	－	－	・FIFA(国際サッカー連盟) 公式決定事項として、サイドライン38～42m、ゴールライン18～22mとしている。 ・床は木製、化学合成物質、天然芝、人工芝、土が認められている。
バレーボール	縦20.5m×横37m （国体規格）	12.5m	1,000～1,500（1x）	・フリーゾーンは最小限サイドラインから5m、エンドラインから8mなければならない。 ・床表面は凹凸がなく水平で均一である必要がある。
卓球	縦14m×横7m （国体規格）	5m	600（1x）	・床表面は、レンガ、コンクリート及び石以外のもので明るく反射性のあるものは避ける。 ・テーブル：長さ274cm、幅152.5cm、床上76cmの水平面になるものとする。 ネットアセンブリ：ネット（高さ12.25cm）、吊りひも、サポートからなるもの。

<凡例>

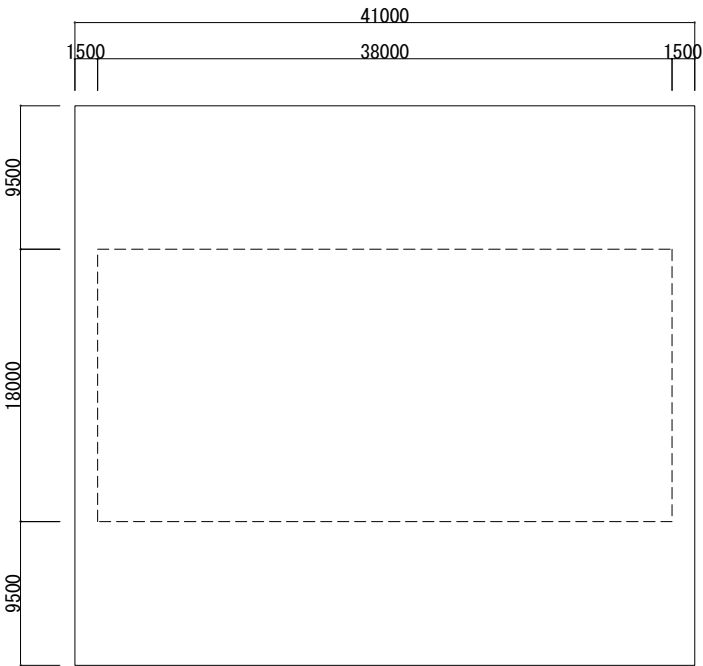
	アリーナ寸法
	公式競技寸法



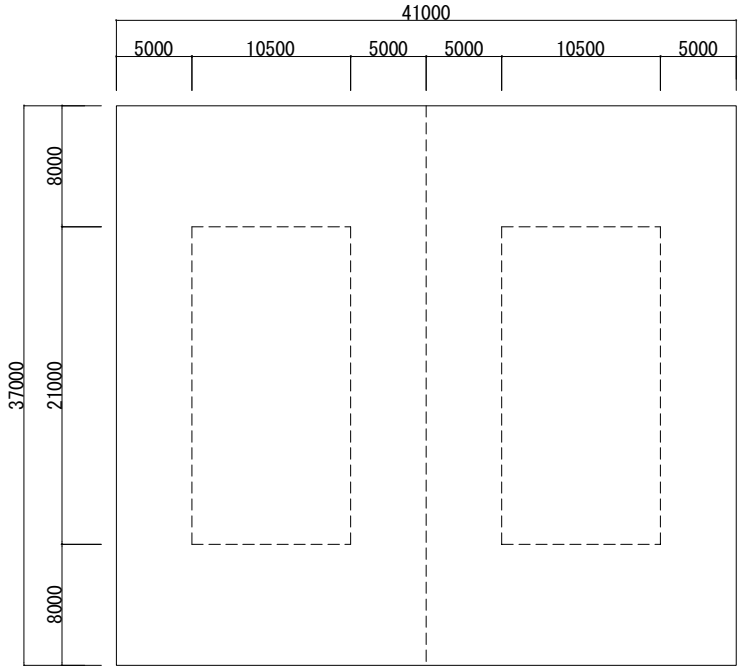
バドミントンコート
8面



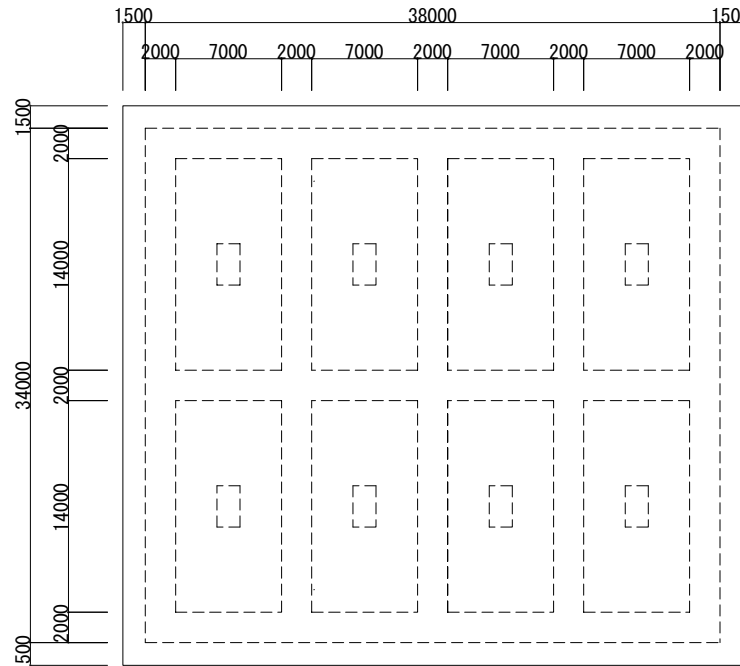
バスケットボールコート
1面



フットサルコート
(1面)



バレーボールコート
2面



卓球場
8面

S=1/500

メインアリーナ(1517㎡)

◇メインアリーナにおける各種競技の付帯条件

	寸 法	天井高	照明（設備）	備 考
剣道場	縦14m×横14m （国体規格）	4m	750（1x）	・床は板張りとする。 ・中心には×印を設け、開始線は、中心より均等の位置に左右一本ずつ表示する。
柔道	縦14.55m×横14.55m （国体規格）	4m	750（1x）	・床は畳を使用する。また、緩衝効果の高い弾性床が必要。 ・国際試合等の場合には、端から2.73mのところに赤色畳で一辺が9.1mの正方形を設ける。
新体操	縦13m×横13m	12m	300（1x）	・床はカーペットとする。 ・演技面と観客席との間隔は最低4m設ける。

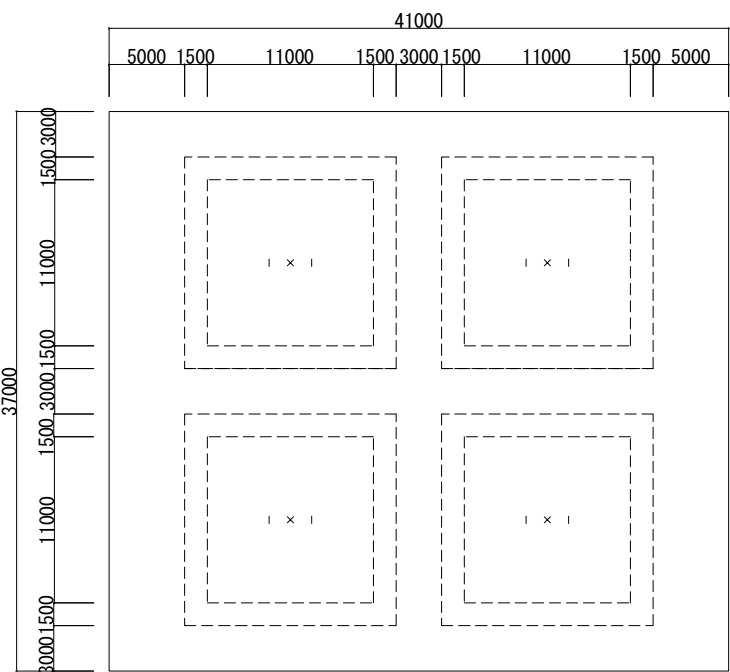
＜凡例＞



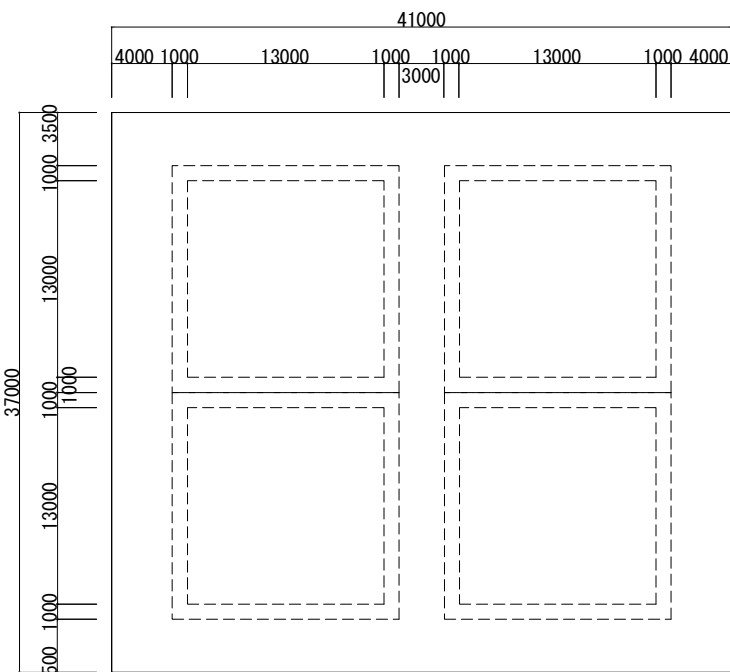
アリーナ寸法



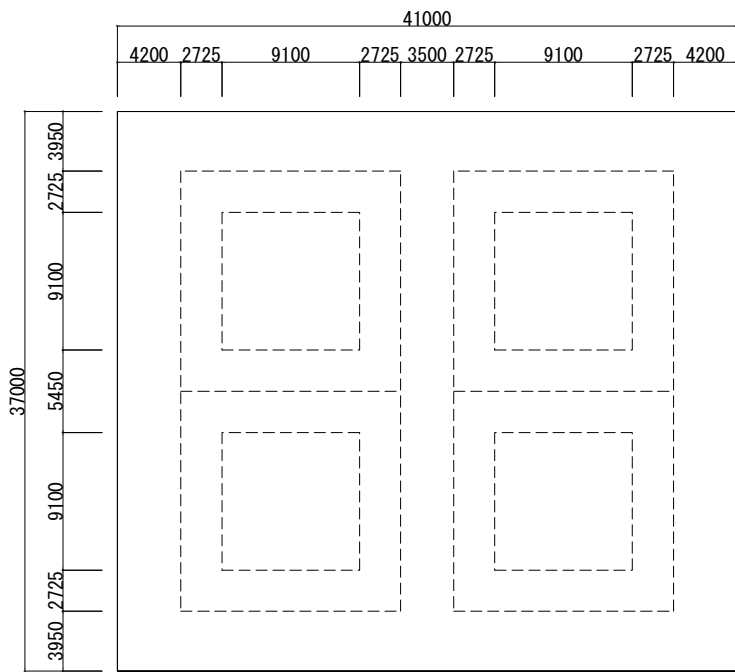
公式競技寸法



剣道場
4面



新体操
4面

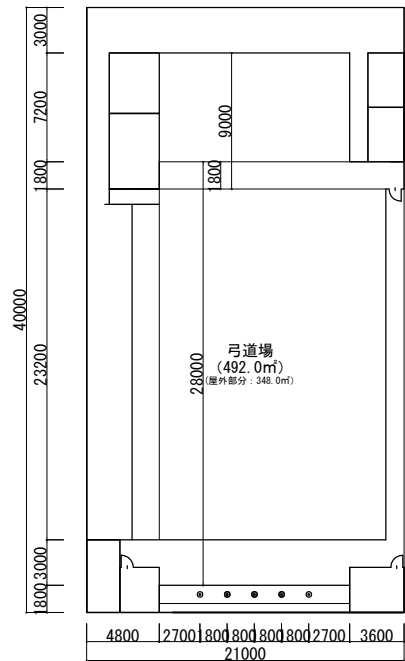


柔道場
4面

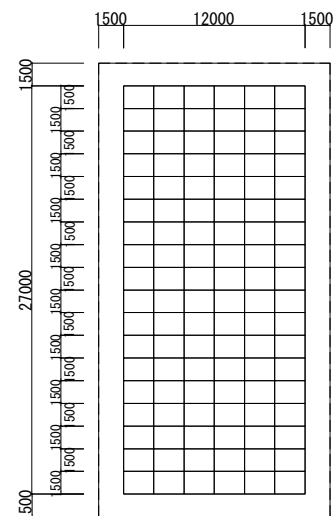
弓道場（840.0㎡）
（うち屋外部分：348.0㎡）

◇弓道場における各種競技の付帯条件

	寸 法	天井高	照明（設備）	備 考
弓道場	縦40m×横21m （国体規格）	4m	-	・床は板張りとし、床高は的場の安土の底面と同一とする。 ・中庭側の下り壁は射場の幅だけ持放しとし、建具は引き戸とする。 ・矢道は芝生か黒土とする。 ・的場の開口高は2m程度とするが、奥行き、軒の出を工夫して安土に雨がかからないようにする。 ・タリが競技者の顔に当たらないようにする。 ・矢除板は安全のため不可欠で、射位からの場の軒を見通す線を下端とする。

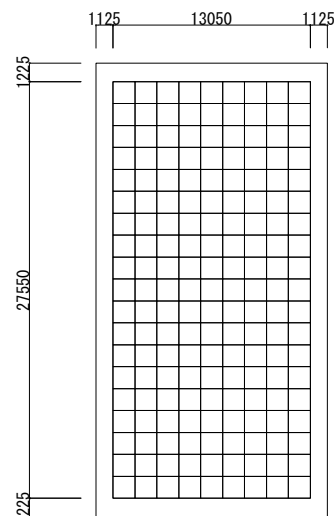


多目的ルーム1(459.0㎡)



ヨガ教室
約108名
（一人当たりの面積：3㎡）

□一人当たりの使用面積
1.5m×2.0m



ダンス・体操教室
約170名
（一人当たりの面積：2.1㎡）

□一人当たりの使用面積
1.45m×1.45m

■周辺市町村体育施設使用料等一覧

市 名	施 設 名	指定管理者 制度の導入	施 設 種 別	1単位	団 体		個 人					規模 ㎡	備 考
					市 内	市 外	単位	市内大人	市内子ども	市外大人	市外子ども		
八王子市	八王子市民体育館 午前9時～午後9時30分	有	主競技場	午前 2H50M	6,000	6,000	—	—	—	—	—	1,540	団体利用は1/2面使用あり、個人での施設利用可。金額、時間帯は団体利用と同じ
				午後A 2H50M	6,000	6,000							
				午後B 2H50M	6,000	6,000							
				夜 間 3H	7,000	7,000							
				全 日	25,000	25,000							
			第2競技場 第3競技場 第4競技場 第5競技場	午前 2H50M	1,600	1,600	—	—	—	—	—	260	個人での施設利用可。金額、時間帯は団体利用と同じ 第2競技場は卓球場として一般開放している。
				午後A 2H50M	1,600	1,600						198	
				午後B 2H50M	1,600	1,600						202	
				夜 間 3H	1,700	1,700						270	
				全 日	6,500	6,500						1周 160m	
			走路	—	—	—	1回	300	—	—	—	1周 160m	大人(高校生以上)のみ利用可。トレーニング室利用者は別料金を支払わないでも走路の利用
			分館競技場	午前 2H50M	4,200	4,200	—	—	—	—	—	1,177	団体利用は1/2・1/3・2/3面使用あり 個人での施設利用可。金額時間帯は団体利用と同じ
				午後A 2H50M	4,200	4,200							
			トレーニング室	午前 2H50M	1,600	1,600	1回	300	—	—	—	185	市内在住・在勤・在学かつ18歳以上のみ利用可
				午後A 2H50M	1,600	1,600							
			レクリエーションホール	午後B 2H50M	1,600	1,600	—	—	—	—	—	155	個人での施設利用可。金額、時間帯は団体利用と同じ
				午後B 2H50M	1,600	1,600							
				夜 間 3H	1,700	1,700							
				全 日	6,500	6,500							
			会議室	午前 3.0H	1,500	1,500	—	—	—	—	—	60	個人での施設利用可。金額、時間帯は団体利用と同じ
				午後 4.0H	2,000	2,000							
				夜 間 3H	1,500	1,500							
				全 日	5,000	5,000							
八王子市	エスフォルタアリーナ八王子 (八王子市総合体育館) 午前9時～午後10時	有	メインアリーナ	午前 2H30M	10,000	10,000	—	—	—	—	—	2,978	貸切利用は1/3・1/2面の利用が可能。 空調料金は別途(夜間800円/30分 夜間以外1,000円/30分)
				午後A 2H30M	10,000	10,000							
				午後B 2H30M	10,000	10,000							
				夜間 2H30M	11,000	11,000							
				全 日	41,000	41,000							
			サブアリーナ	午前 2H30M	8,000	8,000	—	—	—	—	—	2,190	貸切利用は1/2面の利用が可能。 空調料金は別途(夜間350円/30分 夜間以外190円/30分)
				午後A 2H30M	8,000	8,000							
				午後B 2H30M	8,000	8,000							
				夜間 2H30M	8,800	8,800							
				全 日	32,800	32,800							
			多目的室	午前 3H	6,000	6,000	—	—	—	—	—	712	多目的室は間仕切り壁により3分割できる。 分割した部屋ごとに予約を受け付ける。
				午後A 3H	6,000	6,000							
				午後B 3H	6,000	6,000							
				夜 間 3H	6,000	6,000							
			トレーニング室	—	—	—	2H	400	—	—	—	483	
			会議室・研修室	午前 3H	3,000	3,000	—	—	—	—	—	284	会議室・研修室は間仕切り壁により2分割できる。 分割した部屋ごとに予約を受け付ける。
				午後A 3H	3,000	3,000							
				午後B 3H	3,000	3,000							
				夜 間 3H	3,000	3,000							
				全 日	12,000	12,000							
八王子市	八王子市甲の原体育館 午前9時～午後9時30分	無	第1体育室	午前 2H50M	3,600	3,600	—	—	—	—	—	1,010	団体利用は1/2面使用あり(全面の半額)、個人での施設利用可。金額、時間帯利用と同じ
				午後A 2H50M	3,600	3,600							
				午後B 2H50M	3,600	3,600							
				夜 間 3H	4,200	4,200							
				全 日	15,000	15,000							
			第2体育室	2H50M	1,600	1,600	1回 2.0H	300	100	300	100	197	日～木(全日)・土(11:00～21:30)は卓球個人解放。 金は全日団体利用のみ。ただし、個人での施設使用可。金額、時間帯等は団体利用と同じ
			第3体育室	午前 2H50M	1,000	1,000	1回 2.0H	300	100	300	100	123	個人での施設使用可。金額、時間帯等は団体利用と同じ
				午後A 2H50M	1,000	1,000							
				午後B 2H50M	1,000	1,000							
				夜 間 3H	1,200	1,200							
			会議室	全 日	4,200	4,200							
				午前 3.0H	1,200	1,200	—	—	—	—	—	83	
				午後 4.0H	1,600	1,600							
				夜 間 3H	1,200	1,200							
			プレイルーム(幼児室)	—	—	—	—	—	—	—	—	34	

■周辺市町村体育施設使用料等一覧

市 名	施 設 名	指定管理者 制度の導入	施 設 種 別	1単位	団 体		個 人					規模 ㎡	備 考
					市 内	市 外	単位	市内大人	市内子ども	市外大人	市外子ども		
立川市	泉市民体育館 午前9時～午後11時	有	第1体育室（メインアリーナ）	午前 3.5H	12,000	24,000						2,227	団体利用は1/3・2/3面使用あり、子どもは中学生以下
				午後Ⅰ 3.5H	13,400	26,800							
				午後Ⅱ 3.5H	13,400	26,800							
				夜間 3.5H	16,000	32,000							
				午前及び午後Ⅰ	22,000	44,000							
				午後Ⅰ及び午後Ⅱ	24,000	48,000		200	100	400	200		
				午後Ⅱ及び夜間	26,000	52,000							
				午前、午後Ⅰ及び午後Ⅱ	33,000	66,000							
				午後Ⅰ、午後Ⅱ及び夜間	36,000	72,000							
				午後Ⅱ及び夜間	40,000	80,000							
			第2体育室	午前 3.5H	4,500	9,000						792	団体利用は1/2面使用あり、子どもは中学生以下
				午後Ⅰ 3.5H	5,000	10,000							
				午後Ⅱ 3.5H	5,000	10,000							
				夜間 3.5H	5,700	11,400							
				午前及び午後Ⅰ	8,200	16,400							
				午後Ⅰ及び午後Ⅱ	8,700	17,400		200	100	400	200		
				午後Ⅱ及び夜間	9,300	18,600							
				午前、午後Ⅰ及び午後Ⅱ	12,100	24,200							
				午後Ⅰ、午後Ⅱ及び夜間	13,000	26,000							
				午後Ⅱ及び夜間	13,500	27,000							
			トレーニング室	—	—	—	3.5H	200	—	400	—	316	
			研修室	午前、午後Ⅰ、午後Ⅱ又は夜間	1,000	2,000						84	
				午前及び午後Ⅰ	1,800	3,600							
				午後Ⅰ及び午後Ⅱ	1,800	3,600							
				午後Ⅱ及び夜間	1,800	3,600							
				午前、午後Ⅰ及び午後Ⅱ	2,500	5,000							
				午後Ⅰ、午後Ⅱ及び夜間	2,500	5,000							
				全 日	3,000	6,000							
立川市	柴崎市民体育館 午前9時～午後11時	有	第1体育室（メインアリーナ）	午前 3.5H	8,000	16,000						1,595	団体利用は1/2面使用あり、子どもは中学生以下
				午後Ⅰ 3.5H	8,900	17,800	3.5H	200	100	400	200		
				午後Ⅱ 3.5H	8,900	17,800							
				夜間 3.5H	10,700	21,400							
				午前及び午後Ⅰ	15,000	30,000							
				午後Ⅰ及び午後Ⅱ	16,000	32,000							
				午後Ⅱ及び夜間	17,000	34,000							
				午前、午後Ⅰ及び午後Ⅱ	22,000	44,000							
				午後Ⅰ、午後Ⅱ及び夜間	24,000	48,000							
				全 日	27,000	54,000	—	—	—	—	—		
			第2体育室	午前 3.5H	3,000	6,000						486	
				午後Ⅰ 3.5H	3,300	6,600	3.5H	200	100	400	200		
				午後Ⅱ 3.5H	3,300	6,600							
				夜間 3.5H	3,800	7,600							
				午前及び午後Ⅰ	5,500	11,000							
				午後Ⅰ及び午後Ⅱ	5,800	11,600							
				午後Ⅱ及び夜間	6,200	12,400							
				午前、午後Ⅰ及び午後Ⅱ	8,100	16,200							
				午後Ⅰ、午後Ⅱ及び夜間	8,700	17,400							
				全 日	8,900	17,800	—	—	—	—	—		
			トレーニング室	—	—	—	3.5H	200	—	400	—	138	
			会議室	午前、午後Ⅰ、午後Ⅱ又は夜間	1,000	2,000	—	—	—	—	—	56	
				午前及び午後Ⅰ	1,800	3,600							
				午後Ⅰ及び午後Ⅱ	1,800	3,600							
				午後Ⅱ及び夜間	1,800	3,600							
				午前、午後Ⅰ及び午後Ⅱ	2,500	5,000							
				午後Ⅰ、午後Ⅱ及び夜間	2,500	5,000							
				全 日	3,000	6,000							

■周辺市町村体育施設使用料等一覧

市 名	施 設 名	指定管理者 制度の導入	施 設 種 別	1単位	団 体		単位	個 人				規模 ㎡	備 考												
					市 内	市 外		市内大人	市内子ども	市外大人	市外子ども														
三鷹市	三鷹市市民総合体育館 午前9時～午後9時	無	第1体育館競技場	9：00～12：00	午前 3.0H	2,400	—	—	無料	無料	—	—	756	個人利用の料金設定はないが、個人を対象とした一般開放事業の利用者は無料											
			13：00～15：00	午後前半2.0H	1,800	—																			
			15：00～17：00	午後後半2.0H	1,800	—																			
			17：30～21：00	夜間 3.5H	3,600	—	—	—	—	—	—	52													
			第1体育館会議室	午前 3.0H	350	—																			
				午後前半2.0H	250	—																			
				午後後半2.0H	250	—																			
				夜間 3.5H	500	—																			
			第2体育館競技場	午前 3.0H	2,400	—	—	無料	無料	—	—	526	個人利用の料金設定はないが、個人を対象とした一般開放事業の利用者は無料												
				午後前半2.0H	1,800	—																			
				午後後半2.0H	1,800	—																			
			第2体育館和洋弓場	夜間 3.5H	3,600	—	2.0H	250	—	—	—	—	180	一般開放事業の利用者は無料											
				午前 3.0H	1,000	—																			
				午後前半2.0H	600	—																			
第2体育館トレーニング室	午後後半2.0H	600	—	—	—	—									—	—	72								
	夜間 3.5H	1,200	—																						
	午前 3.0H	1,000	—																						
	午後前半2.0H	600	—																						
府中市	総合体育館 午前9時～午後9時	無	第1体育室 第2体育室 第1武道場 第2武道場 弓道場 エアライフル場 相撲場 卓球室 レクリエーションホール 第1会議室 第2会議室 研修室 幼児体育室 ミーティングルーム	午前 3.0H 午後I 2.15H 午後II 2.15H 夜間 3.0H 全日	500～ 23,000	750～ 34,500									3.0H ～ 2.15H	150	70	300	150	1,512					
							971																		
							495																		
							495																		
							380																		
							234																		
							277																		
							360																		
							377																		
							56																		
							57																		
							56																		
							100																		
							48																		
	トレーニング室	午前 3.5H	—	—	—	200	—	400	—	400	高校生以上														
		午後 4.0H	—	—	—																				
	サウナ	—	—	—	—	400	—	800	—		サウナのみの利用は不可														
	朝日体育館 午前9時～午後9時	無	体育室	午前 3.0H 午後I 2.15H 午後II 2.15H 夜間 3.0H	2,000 ～ 10,000	—	3.0H 2.15H 2.15H 3.0H	100	40	200	100	1,175	指導室あり（無料）												
												4,164	会議室あり（有料）												
												3,018	会議室あり（有料）												
												2,919	会議室あり（有料）												
												4,435	会議室あり（有料）												
												3,132	会議室あり（有料）												
												市民西調布体育館 午前9時～午後9時	無	体育室	午前 午後I 午後II 夜間	1,200 1,200 1,200 1,200	2,400 2,400 2,400 2,400	— — — —	— — — —	— — — —	— — — —	520	団体利用のみ、バスケット、バドミントン、バレーボールは不可		
2,400																									
2,400																									
2,400																									
2,400																									
2,400																									
市民大町スポーツ施設体育館 午前9時～午後9時	無	体育室	3H	2,400	4,800	—	—	—	—	—	754	団体利用のみ、バスケット、バドミントン、バレーボール等													
													4,800												
町田市	総合体育館 午前9時～午後9時	有	メインアリーナ サブアリーナ 小体育室 第一武道場 第二武道場 和洋弓場 会議室 トレーニング室 ジョギングコース	3.0H 3.0H 3.0H 3.0H 3.0H 3.0H 3.0H — —	8,700 4,000 1,800 2,300 2,300 2,300 500 — —	8,700 4,000 1,800 2,300 2,300 2,300 500 — —	1回	300 高齢者 (65歳以上) 100 障がい者 100	100	300 高齢者 (65歳以上) 100 障がい者 100	100	2,400	面貸し有り（1/3、2/3面） 照明別料金												
												1,101	面貸し有り（1/2面）												
												490													
												550													
												550													
												691													
												142	2部屋あり（面積は68㎡と74㎡）												
							552	高齢者（65歳以上）、障がい者 は100円																	
	サン町田旭体育館 午前9時～午後9時	有	アリーナ 多目的室 会議室 トレーニング室	3.0H 3.0H 3.0H —	4,600 1,800 1,000 —	4,600 1,800 1,000 —	1回	300	100	300	100	1,265	面貸し有り（1/2面）												
												325	高齢者（65歳以上）、障がい者 は100円（市内・市外共通）												
												122													
												355	高齢者（65歳以上）、障がい者 は100円（市内・市外共通）												
												小平市	小平市民総合体育館 午前9時～午後9時30分	有	第1体育室（メインアリーナ） 第2体育室（サブアリーナ） 第3体育室 第4体育室 第5体育室 弓道場 トレーニング室 幼児体育室 第1会議室 第2会議室 第3会議室	2.5H 2.5H 2.5H 2.5H 2.5H 2.5H — — 2.5H 2.5H 2.5H 2.5H	15,000 5,000 2,500 2,500 1,000 2,000 — — 1,000 1,000 500 500	22,500 7,500 3,750 3,750 1,500 3,000 — — 1,500 1,500 750 750	2.5H	400	150	400	150	1,644	面貸し有り（1/2、1/3面）個人開放時（バド8面、卓球9台）
																								580	
300																									
300																									
91																									
218																									
355																									
110																									
30																									
72																									
36																									

■周辺市町村体育施設使用料等一覧

市 名	施 設 名	指定管理者 制度の導入	施 設 種 別	1単位	団 体		個 人				規 模 ㎡	備 考								
					市 内	市 外	単位	市内大人	市内子ども	市外大人	市外子ども									
日野市	日野市立南平体育館 午前9時～午後9時	無	メインアリーナ 9：00～12：00	午前 3H	3,000	3,000	1単位	100	50	100	50	1,008	団体利用、面貸し有り（1/2面）、入場料徴収 団体は倍額							
				午後 4H	4,000	4,000														
				夜間 3H	5,000	5,000														
			サブアリーナ （柔道場及び剣道場）	全 日	10,000	10,000	—	—	—	—	—	—	—	420	柔道場・剣道場に分けて使用している 両方を使用の場合は倍額 入場料徴収団体は倍額					
				午前 3H	600	600														
				午後 4H	800	800														
			弓道場	夜間 3H	1,000	1,000	1単位	100	50	100	50	—	—	—	—	入場料徴収団体は倍額				
				全 日	2,000	2,000														
				午前 3H	600	600														
			トレーニングルーム	午後 4H	800	800	1単位	100	50	100	50	—	—	—	—					
				夜間 3H	1,000	1,000														
				全 日	2,000	2,000														
会議室	9：00～12：00	午前 3H	300	300	—	—	—	—	—	—	—	—								
	13：00～17：00	午後 4H	400	400																
	18：00～21：00	夜間 3H	500	500																
	9：00～21：00	全 日	1,000	1,000																
日野市	日野市市民の森 ふれあいホール 午前9時～午後11時	有	コミュニティホール （平日）	午前 3.5H	12,000	12,000	1単位	200	100	400	200	2,349	面貸有り（1/2,1/3）、深夜は金曜・土曜の み、65歳以上は小人料金							
				午後 3.5H	12,000	12,000														
				夜間1 2H	9,000	9,000														
				夜間2 2H	9,000	9,000														
				深夜 2H	12,000	12,000														
				午前 2.5H	15,000	15,000														
			コミュニティホール （土・日・祝日）	午後 3.5H	15,000	15,000						2,349								
				夜間1 2H	9,000	9,000														
				夜間2 2H	9,000	9,000														
				深夜 2H	12,000	12,000														
				午前 2.5H	1,900	1,900														
				午後 3.3H	1,900	1,900														
			多目的ルーム 半面（床）	夜間1 2H	1,100	1,100						717								
				夜間2 2H	1,100	1,100														
				午前 2.5H	1,900	1,900														
				午後 3.3H	1,900	1,900														
			多目的ルーム 半面（畳）	夜間1 2H	1,100	1,100						717								
				夜間2 2H	1,100	1,100														
3.0H	7,600	15,200		3.0H	250	100	250	100	952											
全 日	30,400	60,800																		
3.0H	3,800	7,600																		
全 日	15,200	30,400																		
3.0H	2,100	4,200																		
全 日	8,400	16,800																		
—	—	—	2.0H								300	—	300	—	160					
—	—	—	2.0H								100	50	100	50	271					
3.0H	1,200	2,400	—								—	—	—	—	110					
全 日	4,800	9,600																		
西東京市	西東京市総合体育館 午前9時～午後10時	有	第1体育室（全面）	3.0H	7,600	15,200	3.0H	250	100	250	100	1,257								
				全 日	30,400	60,800														
			第1体育室（半面）	3.0H	3,800	7,600						301								
				全 日	15,200	30,400														
			第2体育室	3.0H	2,100	4,200						205								
				全 日	8,400	16,800														
			トレーニング室	—	—	—						2.0H	300	—	300	—	69			
			第1会議室	3.0H	800	1,600						—	—	—	—	—	30			
			全 日	3,200	6,400	—						—	—	—	—					
			第2会議室	3.0H	400	800						—	—	—	—	—				
			全 日	1,600	3,200	—						—	—	—	—					
			西東京市南町 スポーツ・文化交流セン ター 午前9時～午後9時	有	第1体育室	3.0H						5,400	10,800	3.0H	250	100	250	100	617	
						全 日						21,600	43,200							
					武道場	3.0H						2,500	5,000						291	
全 日	10,000	20,000																		
第2体育室	3.0H	1,800			3,600	205														
	全 日	7,200			14,400															
多目的ホール	3.0H	2,400			4,800	250	100	250	100	275										
	全 日	9,600			19,200															
会議室	3.0H	1,200			2,400	—	—	—	—	—	148									
	全 日	4,800			9,600	—	—	—	—	—										
国立市	くにたち市民総合体育館 午前9時～午後8時	有	第1体育室（半面）	午前	2,400	2,400	3.0H	250	150	—	—		午前 9：00～12：00							
				午後1	2,400	2,400							午後1 12：00～15：00							
				午後2	2,400	2,400							午後2 15：00～18：00							
				夜間1	3,200	3,200							夜間1 18：00～21：00							
				夜間2	1,000	1,000							夜間2 21：00～22：00							
			第2体育室（半面）	午前	1,000	1,000	3.0H	250	150	—	—									
				午後1	1,000	1,000														
				午後2	1,000	1,000														
				夜間1	1,250	1,250														
				夜間2	410	410														
			第3体育室（半面）	午前	1,600	1,600	3.0H	250	150	—	—									
				午後1	1,600	1,600														
				午後2	1,600	1,600														
				夜間1	2,000	2,000														
				夜間2	600	600														
			トレーニング室	3.0H	—	—	3.0H	300	—	—	—									
				全 日	—	—														
			会議室	1H以内	250	250	3.0H													
全 日	—	—																		

■周辺市町村体育施設使用料等一覧

市 名	施 設 名	指定管理者 制度の導入	施 設 種 別	1単位	団 体		個 人					規模 ㎡	備 考
					市 内	市 外	単位	市内大人	市内子ども	市外大人	市外子ども		
国分寺市	市民スポーツセンター 午前9時～午後9時半	有	第一体育館（全面）	2.5H	6,000	6,000							個人利用は個人開放時間のみ
			第一体育館（半面）	2.5H	3,000	3,000							
			第二体育館	2.5H	2,000	2,000	—	300	100	—	—		
			軽体操室	2.5H	600	600							
			フィットネスルーム	全日	—	—							
			会議室	2.5H	1,000			300	100				
	ひかりスポーツセンター 午前9時～午後9時半	有	第一体育室（全面）	—	3,200	6,400	—					608	
			第二体育室（半面）	—	1,600	3,200	—	300	100	—	—		
			第二体育室	—	1,000	2,000	—					139	
			フィットネスルーム	—	—	—	—					108	
多摩市	多摩市立総合体育館 午前9時～午後9時半	有	第1ホール（全面）	午前	7,200	14,400	1回	200	100	400	200		
				午後1	7,200	14,400							
				午後2	7,200	14,400							
				夜間	9,250	18,500							
				全日	30,850	61,700							
			第1ホール（半面）	午前	3,600	7,200	1回	200	100	400	200		
				午後1	3,600	7,200							
				午後2	3,600	7,200							
				夜間	4,620	9,240							
				全日	15,420	30,840							
			第2ホール（全面）	午前	3,600	7,200	1回	200	100	400	200		
				午後1	3,600	7,200							
				午後2	3,600	7,200							
				夜間	4,620	9,240							
				全日	15,420	30,840							
			第2ホール（半面）	午前	1,850	3,700	1回	200	100	400	200		
				午後1	1,850	3,700							
				午後2	1,850	3,700							
				夜間	2,360	4,720							
				全日	7,910	15,820							
			第5ホール	午前	1,740	3,480	1回	200	100	400	200		
				午後1	1,740	3,480							
				午後2	1,740	3,480							
				夜間	2,260	4,520							
				全日	7,480	14,960							
			第6ホール	午前	1,740	3,480	1回	200	100	400	200		
				午後1	1,740	3,480							
				午後2	1,740	3,480							
				夜間	2,260	4,520							
				全日	7,480	14,960							
			第一会議室	午前	720	1,440	1回	200	100	400	200		
				午後1	720	1,440							
				午後2	720	1,440							
				夜間	920	1,840							
				全日	3,080	6,160							
			第一会議室（会議外）	午前	1,020	2,040	1回	200	100	400	200		
				午後1	1,020	2,040							
				午後2	1,020	2,040							
				夜間	1,330	2,660							
				全日	4,390	8,780							
			第二会議室	午前	510	1,020	1回	200	100	400	200		
				午後1	510	1,020							
				午後2	510	1,020							
				夜間	610	1,220							
				全日	2,140	4,280							
			第二会議室（会議外）	午前	720	1,440	1回	200	100	400	200		
				午後1	720	1,440							
				午後2	720	1,440							
				夜間	920	1,840							
				全日	3,080	6,160							
稲城市	総合体育館 午前9時～午後9時半	有	メインアリーナ（全面）		8,640							1,778	
			メインアリーナ（半面）		4,320							—	
			ウエルネスアリーナ（全面）		4,320		2H50M	210	100	—	—	817	
			ウエルネスアリーナ（半面）		2,160							—	
			柔道場		1,340							243	
			剣道場		1,340							243	
			弓道場		1,230							141	
			ちびっこプレイルーム	—	—	—	1回	—	100	—	—	92	
			レクリエーションルーム（全面）		2,060		2H50M	210	100	—	—	314	
			レクリエーションルーム（半面）		1,030	—						—	
			トレーニングルーム	—	—	—	3H	310	—	—	—	207	
			ランニング走路	—	—	—	3H	210	0	—	—	316	
			ミーティングルーム（全面）		1,230	—	—	—	—	—	—	122	
			ミーティングルーム（半面）		620	—	—	—	—	—	—	—	
			ミーティングルーム2		620	—	—	—	—	—	—	43	
	複合施設フレンド平尾 午前9時～午後9時	有	体育館	1H	460	920	—	—	—	—	—		

日野市立南平体育館建替 基本計画(案)説明会資料

日程：平成28年9月4日(日)

場所：日野市立南平体育館

時間：10:00～11:00

日野市役所 文化スポーツ課

第1回南平体育館説明会（28.1.23）～現在までの経過

- 平成28年1月23日
第1回南平体育館説明会（午後・夜間）参加者119名
- 平成28年3月末日
「南平体育館建替基本計画（案）報告書」の完成
- 平成28年4月15日～4月28日
基本計画（案）報告書に関して、パブリックコメントの実施
- 平成28年5月10日～5月24日
日野市体育協会加盟団体とのヒアリングを実施
- 平成28年6月15日
パブリックコメントへの回答をHPで公表
- 平成28年7月4日
第2回南平体育館説明会（午後）参加者66名

■ 建物概要

- ☐ 竣工年月日：昭和54年3月（築36年）
- ☐ 敷地面積：6,673m²
- ☐ 建築面積：2,350m²
- ☐ 延べ床面積：2,555m²
- ☐ 建ぺい率：35%
- ☐ 容積率：38%

■ 現在の南平体育館利用状況

- ☐ 利用者数：年間 85,857人（255人／1日）
- ☐ 日野市民体育大会等で使用

■ 施設の状況

- ・老朽化がはげしく、劣化が見受けられる。
- ・旧耐震基準による建物で、耐震診断の判定が不能。
新耐震基準を満たすことが必要である。
- ・利用者の増加により施設が全体的に手狭になっている。
- ・時間によっては使われていない諸室がある。
- ・照明が暗く閉鎖的な印象を与える。
- ・アリーナや武道場は通気性が悪く暗い。
- ・空調設備がない。
- ・トレーニングルーム利用者が増えている。

現況配置図

【基本計画案】



体育館北側には、道路と線路が走っており、その向こう側に住宅街が広がっている。



体育館周りは歩道が整備されていない。



体育館南側には緩やかな水路が流れており、体育館敷地と公園を繋ぐ小さな橋がかかっている。



体育館東側には南平小学校が位置する。



体育館南側に公園に隣接して柿園が広がる。



体育館南側に水路を介して公園が位置する。



◆第5次日野市基本構想・基本計画 2020プラン（平成15年10月策定）

限られた施設の有効活用や市民が参加しやすい事業の展開など、市民がスポーツを実践できるような環境整備を進め、スポーツの振興に努める。

◆ヘルスケア・ウェルネス戦略（平成26年度）

- ・市民にとって「歩くことが楽しくなるまちづくりの仕掛け」や「出会い」「交流」「生きがい」をみつけるきっかけを提供し、市民自らの価値観で「外出し歩く機会」を増加させる。
- ・地域で楽しく元気に生きがいを持って、自ら進んで取り組める環境を整えることで、市民の健康づくりの活動を支援する。
- ・地域で人と人がつながり、人と地域がつながり、地域と地域がつながることにより地域の活性化を図る。
また、地域で誰もが何らかの活躍できる場をつくる。

◆日野市スポーツ推進計画（平成27年策定）

市民が自ずと体を動かしたくなる「する」「観る」「支える」スポーツができる環境整備を実現する。

＜指標＞

- ・週一回のスポーツ実施率の向上（43.6%→70%）
- ・週複数回のスポーツ実施率の向上（76.5%→80%）
- ・市内体育施設の年間利用者数の増加（約48万人→約61万人）
- ・市主催スポーツ事業への参加者数の増加（約9万人→約13.5万人）

◆日野市地域防災計画（平成25年度修正）

- ・風水害時の予備的な避難所に指定されている。
- ・災害により多数の死者が出た場合、又は出ることが予想される場合に、遺体収容所としての予定施設とされている。

体育館周辺の公共施設の状況

【基本計画案】

■スポーツ施設

周辺には、体育館を開放する小中学校はあるが、「日野市スポーツ推進計画」で位置づける「スポーツ中核拠点機能」は市民プールのみである。

■交流施設

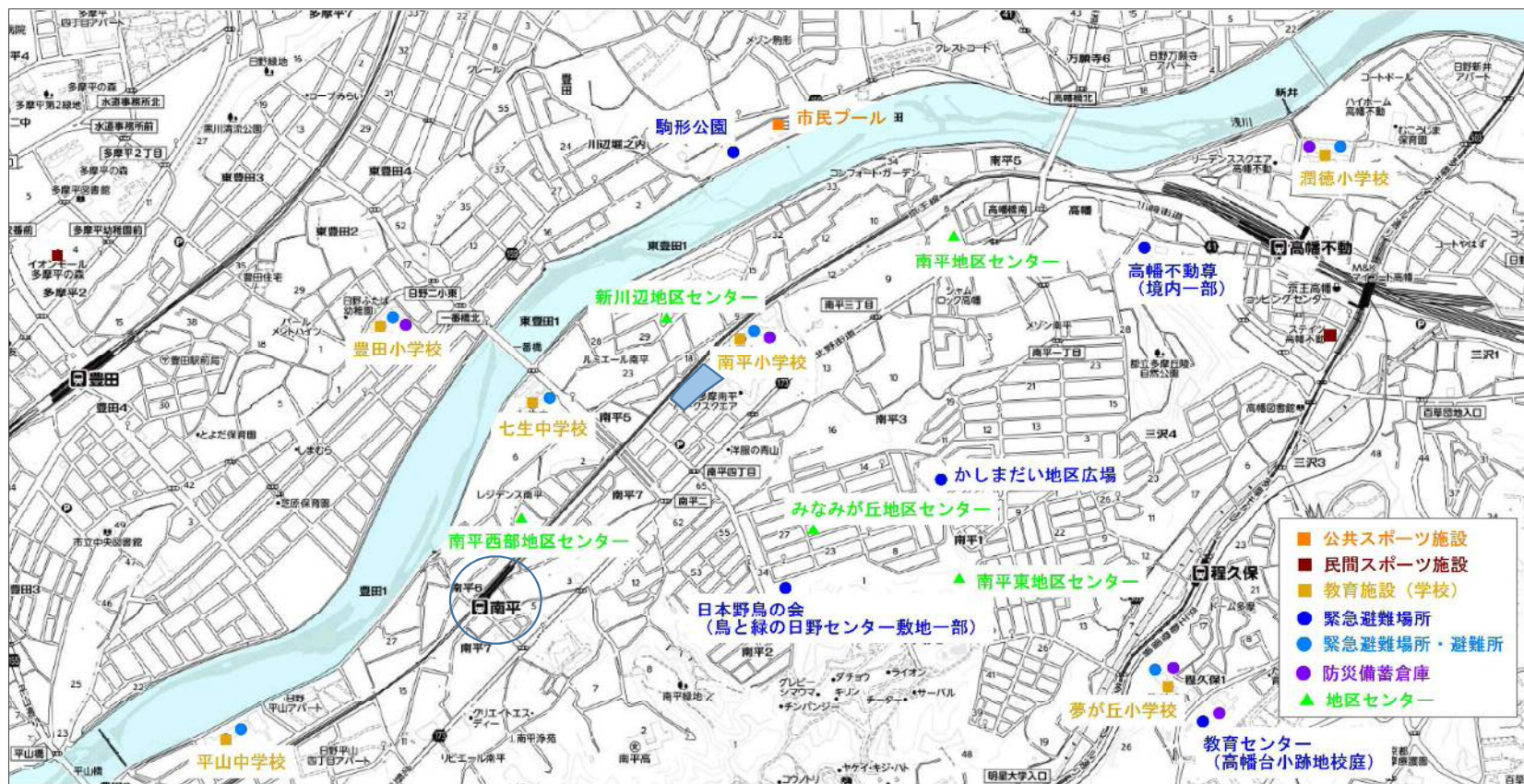
基本的には、半径400m以内ごとに地区センターが配置されている。

■防災施設

周辺には小中学校を中心として、避難場所、避難所、防災備蓄倉庫が一定距離ごとに配置されており、南部地域の中心に位置して、予備的な避難所に指定されている。

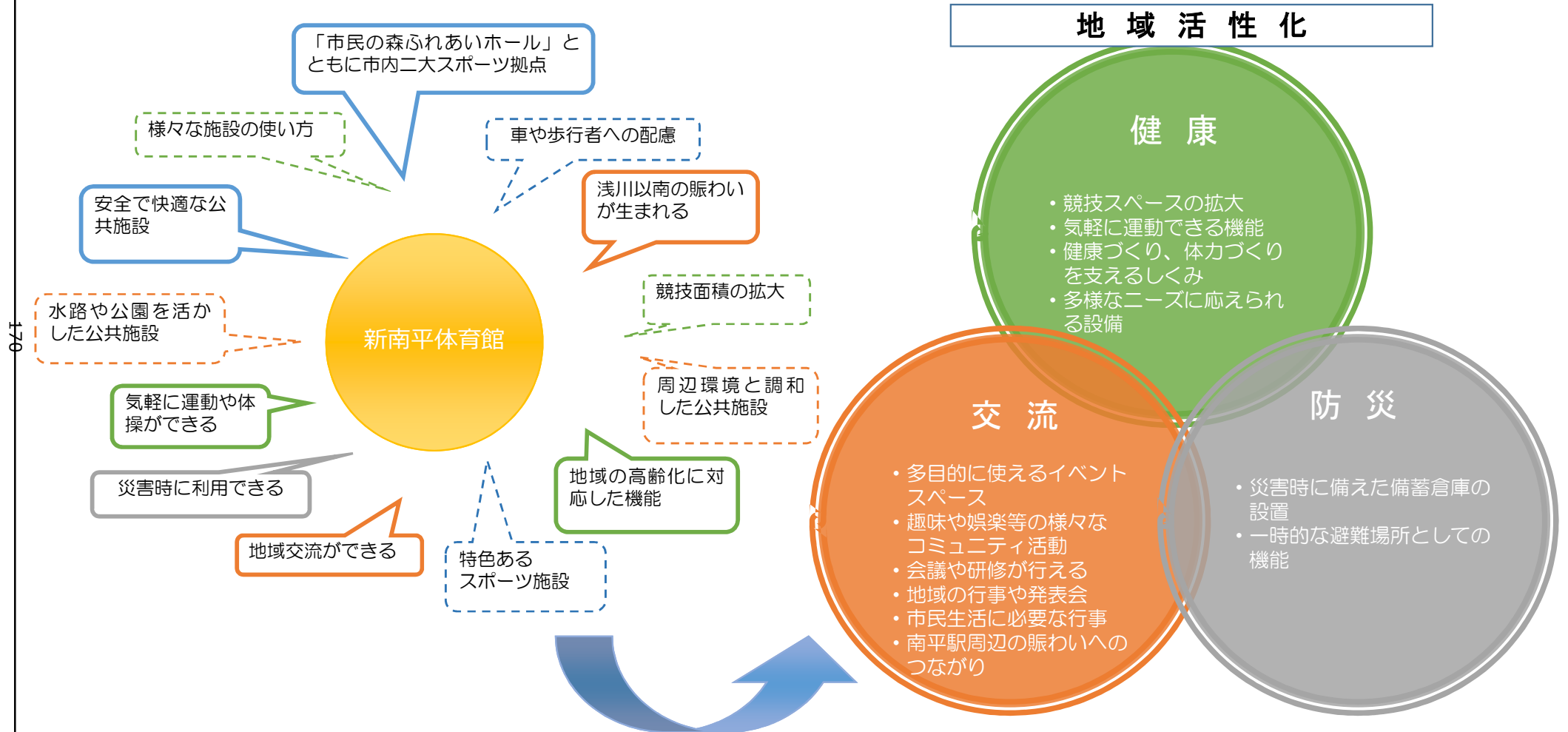
■南平駅周辺

駅前整備の方針について都市計画部門で現在調査検討中。

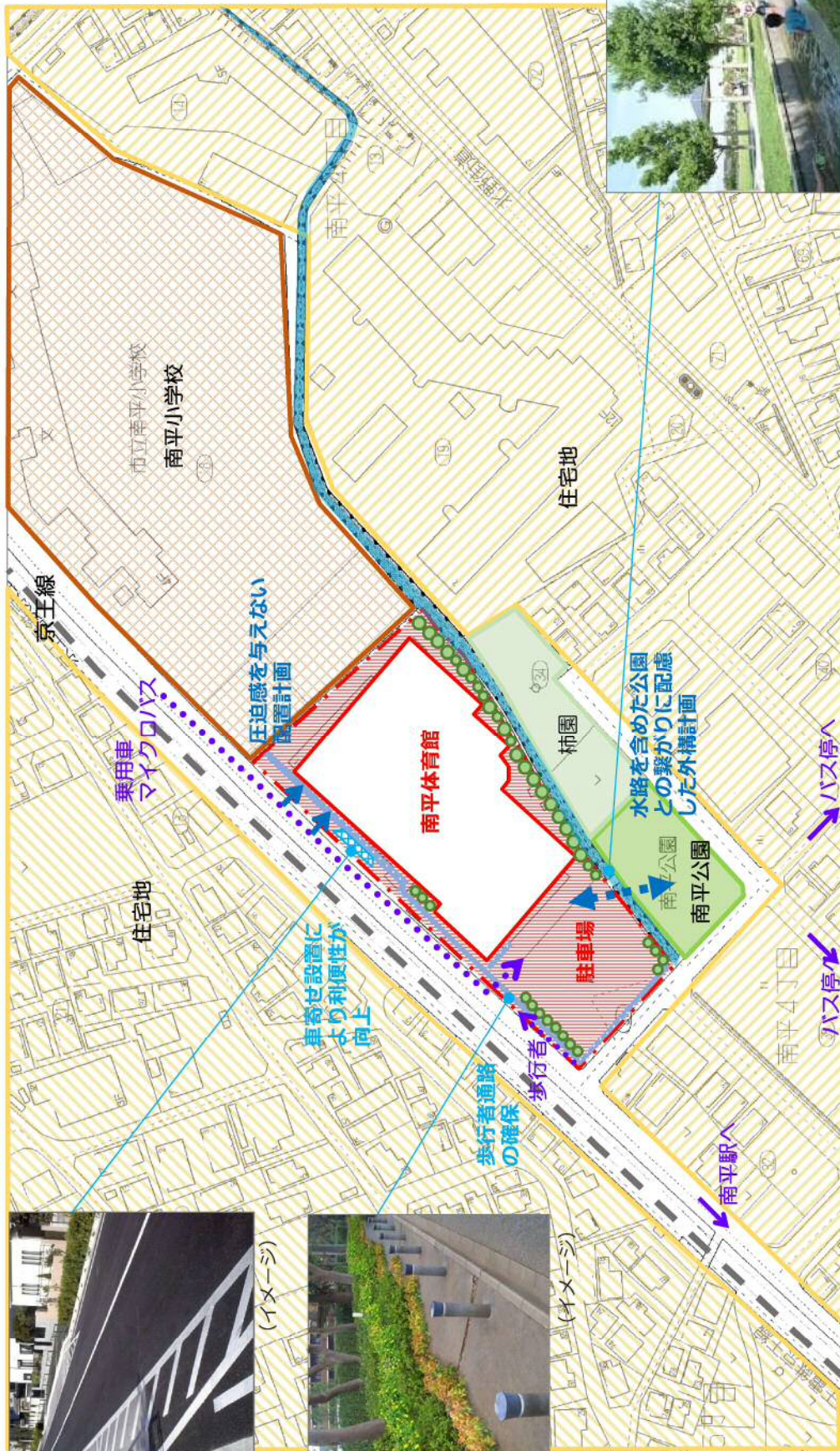


新南平体育館におけるコンセプト

【基本計画案】



【基本計画案】



日野市立南平体育館建替基本計画(案)

施設平面計画

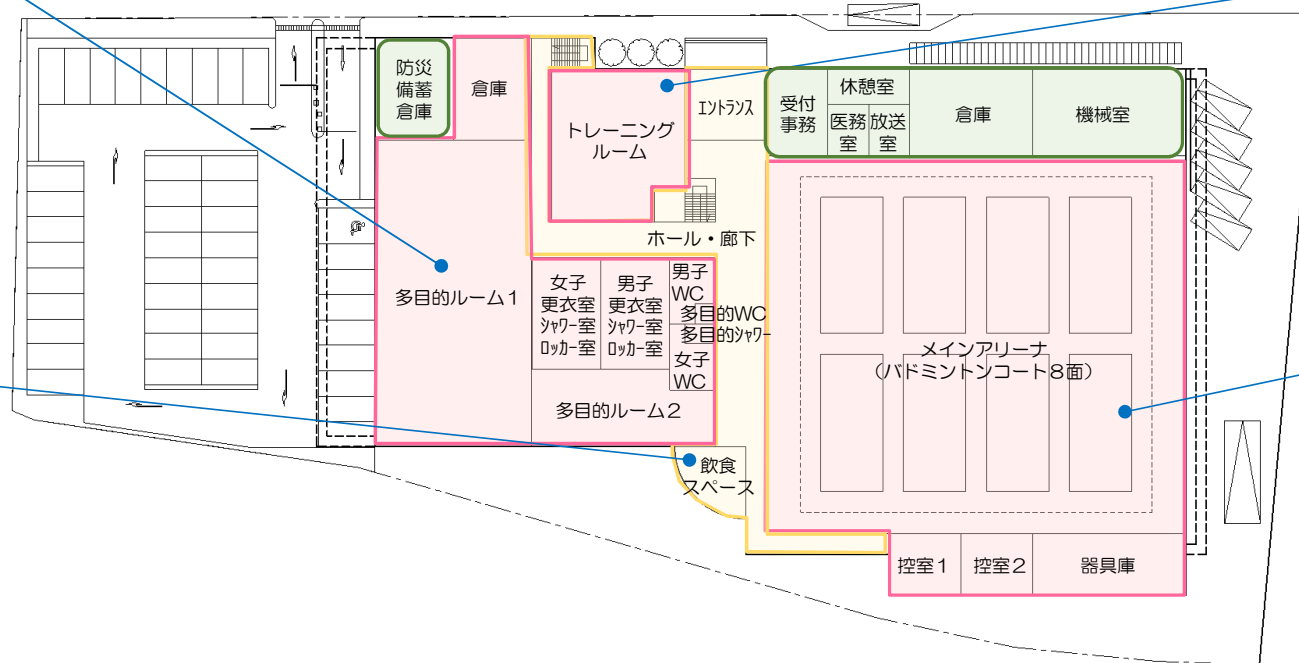
【基本計画案】



多目的ルーム（イメージ）



飲食スペース（イメージ）



トレーニングルーム（イメージ）



メインアリーナ（イメージ）

凡例

- 管理ゾーン
- 共用ゾーン
- 一般開放諸室

1 階

施設平面計画

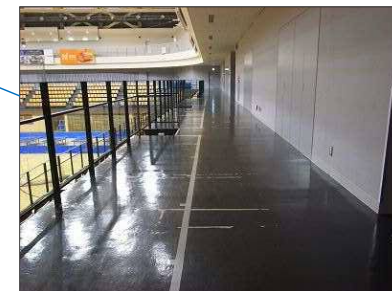
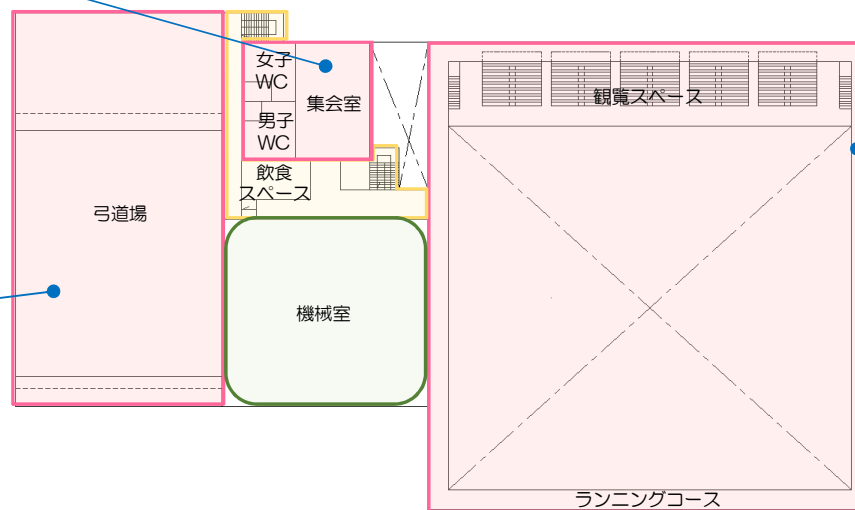
【基本計画案】



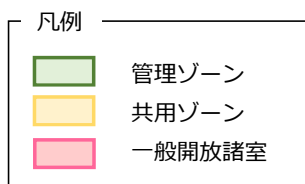
集会室（イメージ）



弓道場（イメージ）



ランニングコース（イメージ）



2階

現況と建替え後の主な諸室比較

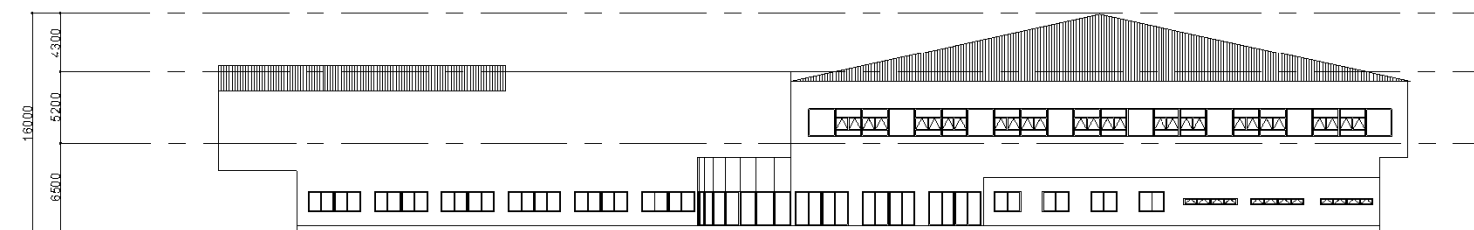
【基本計画案】

諸室等	現況	建替え後（案）	建替え後（案）の備考	
延床面積	2, 5 5 5㎡	約 5, 7 0 0㎡	健康・交流・防災機能の強化	
	メインアリーナ	1, 0 0 8㎡	1, 5 1 7㎡	バレーボールコート（公式）2面を基準とし、安全面や実施率の向上を考慮
	ランニングコース	なし	延長約 1 5 0 m	臨時観覧スペース兼用
	多目的ルーム	柔剣道場 4 2 0㎡	多目的ルーム 1 4 5 9㎡ 多目的ルーム 2 1 2 6㎡	武道以外にも軽体操などの定期教室が可能
	トレーニングルーム	1 2 1㎡	1 8 6㎡	個人利用としてニーズが高く、健康機器等の充実を検討
	集会室	会議室 3 6 . 4㎡ （定員 1 5 名）	集会室 9 0㎡	地域の交流の場として利用可
	弓道場	約 4 8 0㎡（5 人立）	8 4 0㎡（5 人立）	弓道・アーチェリー利用 （公式競技の寸法を確保）
	観覧スペース	スペースのみ	引き出し式観覧席	卓球スペースとしての利用可
駐車場	6 2 台	現状を維持	敷地外駐車場を含めて現状維持	

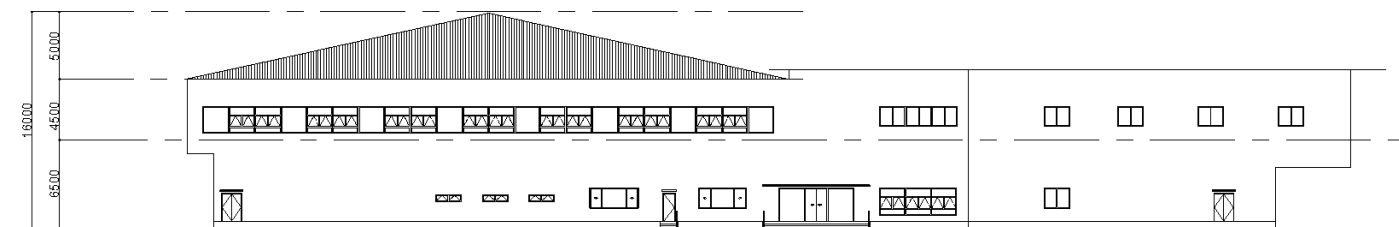
立面計画

【基本計画案】

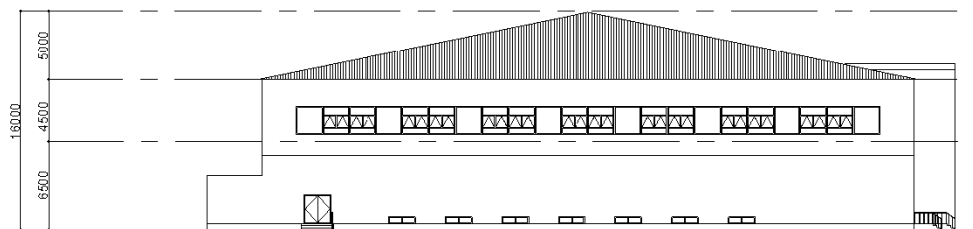
- 敷地北側、西側に対しては、住宅や道路があるため、圧迫感を与えない外観とする。
- 南側は水路を介した公園からの視線に配慮し、周囲と調和しながらも存在感のあるデザインとする。



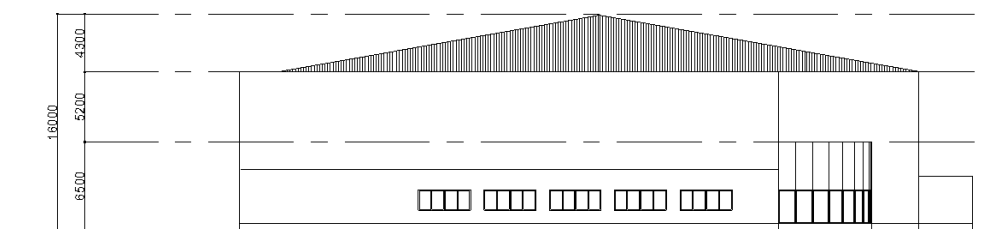
南側立面図



北側立面図



東側立面図

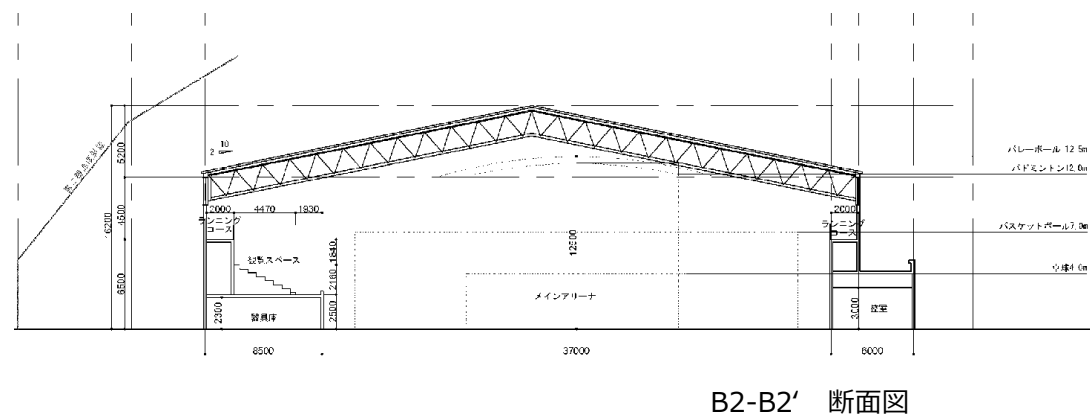
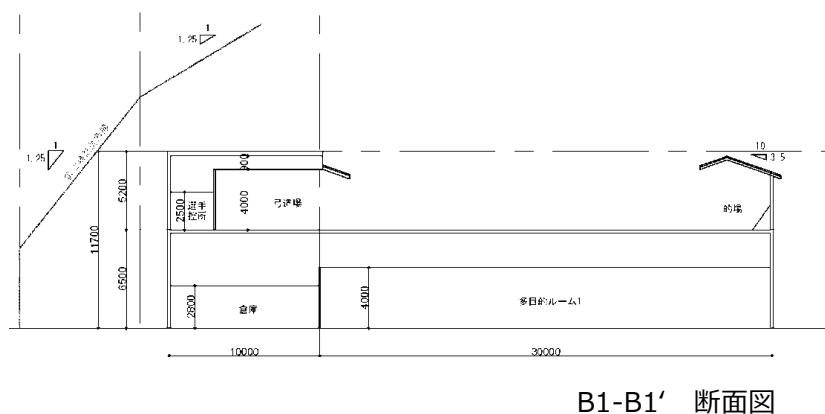
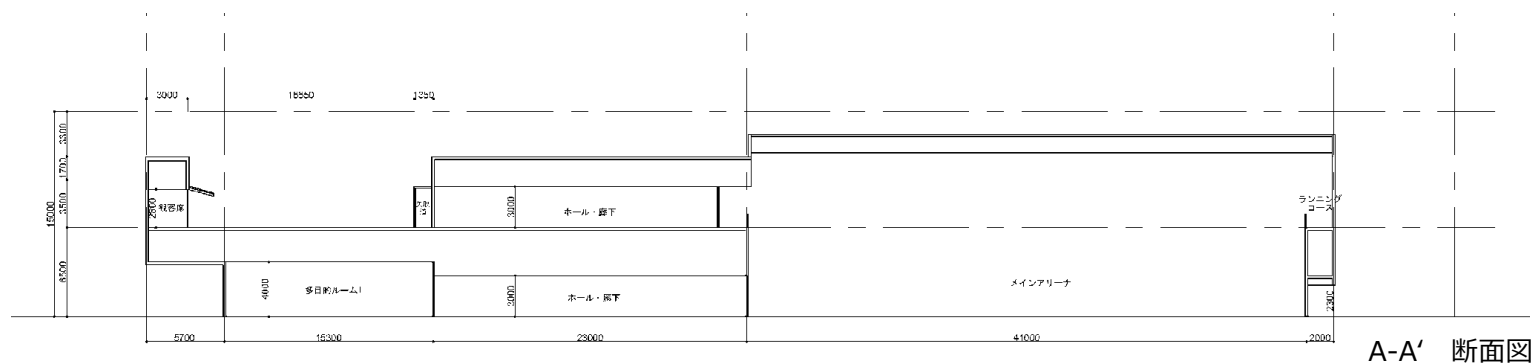


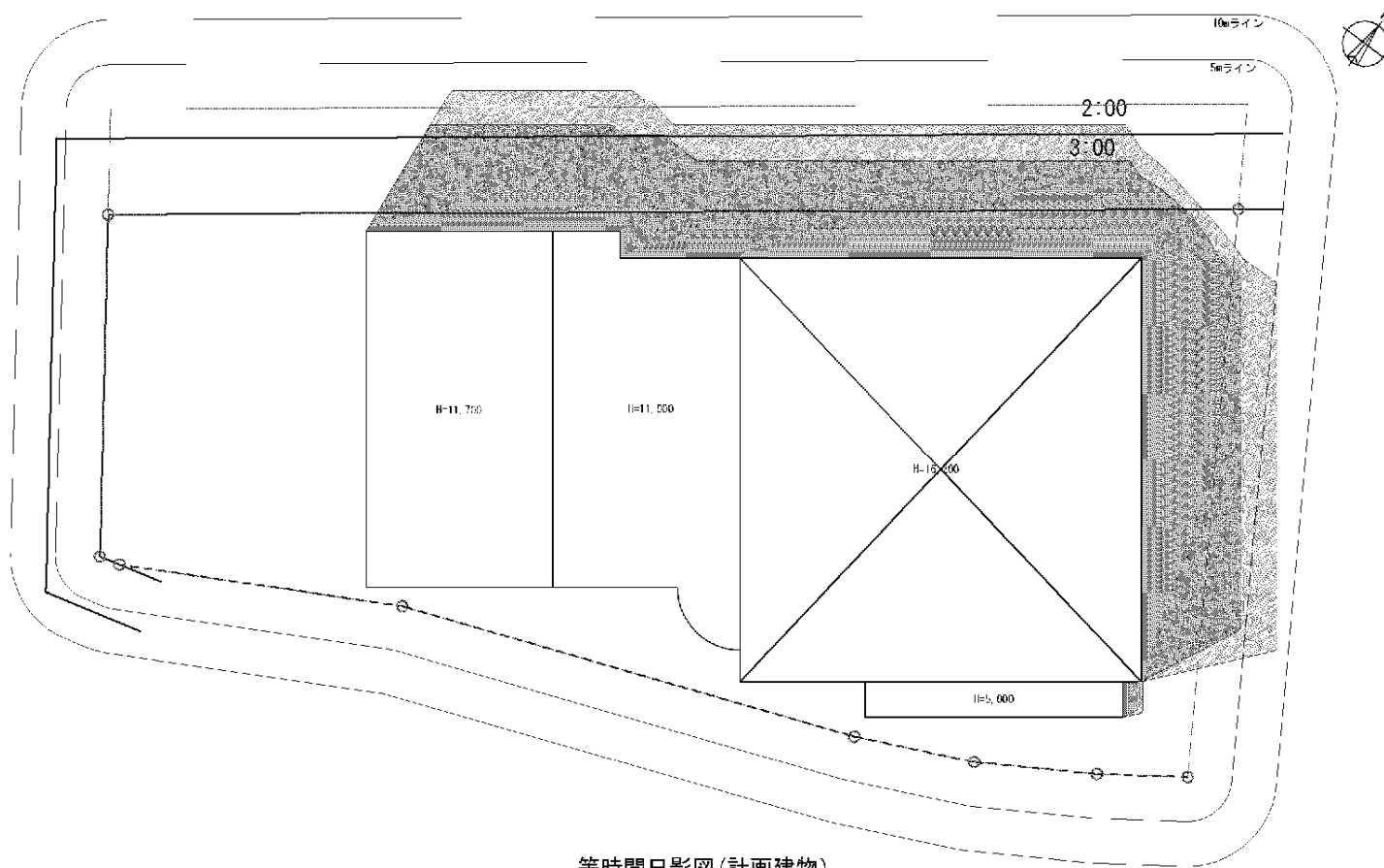
西側立面図

断面計画

【基本計画案】

- アリーナは、対象となる競技のうち、最大高さを確保（バレーボール：h = 12.5m）
- 多目的ルームは、ダンスや体操、武道の利用を考慮し、4mの天井高を確保





等時間日影図(計画建物)

※建築基準法の日影規制に基づき作成

建設費の見込み及び今後のスケジュール【基本計画案】

■建設費見込み

延床面積：約 5, 7 0 0 m²

基本構造：鉄筋コンクリート造 地上 2 階建て（アリーナの屋根の部分を鉄骨造で想定）

建設費：5, 7 0 0 m²として、5 5 万円／m²（※）と仮定した場合、約 3 1 億円（消費税抜き）

※同形態の建築物を調査した直近の建築資材単価に、今後の建設費の上昇等も考慮して設定。

※設計費、解体撤去費、外構費は含まない。

■スケジュール（予定）

H27年度 基本計画（1 年）

H28年度 基本計画見直し＋特別用途地区申請（1 年）

H29年度 基本設計（1 年）

H30年度 実施設計（1 年）＋解体工事

H31年度 建設工事（1. 5 年）

H32年度 供用開始

パブリックコメント実施状況について

○パブリックコメントの概要

＜実 施＞

- ・実施期間 平成28年4月15日～4月28日
- ・周知方法 「広報ひの」4月1日号、市のHPに掲載、七生支所、図書館、南平体育館ほかに閲覧用冊子を設置

＜ご意見＞

- ・18名の方から26項目のご意見をいただきました。

主な意見について要旨まとめ	市の考え方
【総論】 ・建替えは財政負担が大きい。耐震補強すればいい。 ・防災上の観点でも大きく建替えることに賛成。 ・公共施設の安全性、高齢者の健康増進、防災上も早期実現して下さい。 ・東西地区の市民利用にも配慮して欲しい。 ・必要性はあるがコンパクトで低コストな体育館とすべき。	本建物は特殊な構造で耐震診断を進められず、耐震性能をみたしているか不明な建物となっています。 また、スポーツの拠点として、また地域の「健康」「交流」「防災」の視点からも規模を大きくしてリニューアルしていきたいと考えています。
【施設機能】 ・トレーニングルームの充実（2） ・全館空調設備設置 ・避難所としての具体的機能 ・駐車場の確保 ・植栽について ・コートラインの配慮（3）	・トレーニングルーム拡大、全館空調とする予定です。 ・防災機能、駐車場の確保（敷地外）について更に検討します。 ・植栽、コートラインについては設計段階で対応いたします。
【代替施設】 ・建替え中の代替施設の確保（5）	ご迷惑をおかけしますが、市民の森ふれあいホールなどのご利用をお願いいたします。
【使用料】 ・駐車場の有料化はやむを得ない（2） ・駐車場は無料に、館の使用料は安く（3）	・駐車場については有料化する予定であります。 ・館の使用料は受益者負担を踏まえた適正な料金設定を検討します。
【その他】 ・高幡や平山からバスを通してほしい ・体育館運営は指定管理とし経費削減に努めること	・一部ミニバス路線がありますが、公共交通ネットワークについて見直して参ります。 ・指定管理者制度の導入を検討します。

主な体育館利用団体へのヒアリング状況について

○ヒアリングの概要

＜実 施＞

- ・実施期間 平成28年5月10日～7月14日

＜ヒアリング団体＞

アーチェリー協会、弓道連盟、ビーチボール協会、インディアカ協会、バレーボール連盟、ミニテニス協会、バスケットボール連盟、ダンススポーツ連盟、レクリエーション協会、テコンドー協会、バドミントン連盟、少林寺拳法連盟、サッカー連盟、ボクシング連盟、空手道連盟、柔道連盟、武術太極拳連盟、卓球連盟、NPO法人日本合気道協会

＜ご意見＞

- ・体育協会加盟団体 18団体 + NPO法人日本合気道協会からヒアリングを実施しました。

主な体育館利用団体へのヒアリング状況について

主な意見について要旨まとめ	市の考え方
【アリーナ・多目的ルーム】 ・面積の増加、コート面数の増加 ・コート間隔の見直し ・床の材質の検討 ・競技用具の設置 ・仕切りシートの設置 ・観客席の設置 ・アリーナの壁面 ・競技ごとに必要な備品の完備 ・鏡の設置	計画案のメインアリーナは、1,517㎡でバレーボールコート2面を基準としており、これ以上の㎡増はない。今後は、この面積を前提とし、各競技ごとのコート間の必要離隔を含め、ライン等の調整が必要であると考えます。 また、内部の床・壁や必要備品などについては、今度の基本設計、詳細設計の中で協議をしていきたいと考えています。 ※多目的ルームも同様
【観覧席】 ・観覧席の設置	観覧席については、2階に観覧スペースを設けており、ベンチタイプの観覧席で約400席の設置を予定しています。
【トレーニングルーム】 ・トレーニングルームの拡張	トレーニングルームは現行サイズの約1.5倍の拡張を予定しており、健康器具等の充実も検討していきます。
【弓道場】 ・庇の設置を考えてほしい。 ・矢取り道は人工芝も検討してほしい。	庇、矢取り道の人工芝化など、再度、必要性を精査した上で、基本設計、詳細設計の中で検討していきます。
【施設設備】 ・更衣室、シャワー室の設置 ・トイレ数の充実 ・全館空調設備の設置 ・避難所としての具体的機能 ・駐車場の確保	・更衣室、シャワー室は設置する予定です。 ・トイレ数については基本設計、詳細設計の中で検討していきます。 ・全館空調とする予定です。 ・防災機能、駐車場の確保（敷地外）について更に検討します。
【飲食スペース】 ・コミュニティラウンジ（カフェ等）の設備の充実	1階、2階に飲食スペースを設けております。
【使用料】 ・駐車場の有料化はやむを得ない（2） ・駐車場は無料に、館の使用料は安く（3）	・駐車場については有料化の予定でおります。 ・館の使用料は受益者負担を踏まえた適正な料金設定を検討します。
【代替施設】 ・建替え中の代替施設の確保（5）	ご迷惑をおかけしますが、市民の森ふれあいホールなどのご利用をお願いいたします。

(1) 熊本地震における公共施設や避難場所の状況

平成28年4月以降に相次いで発生している熊本地震では、多くの住民が空調設備や生活設備の整った公共施設などの拠点避難所に避難することとなった。各誌は下記のように伝えており、地震などの災害対策が十分になされた安全な避難場所の整備が必要であることが顕著となった。

事	象	出典
熊本地震で最も避難者の多かった本震翌日時点で、自治体の地域防災計画で定められていない「指定外避難所」が、熊本県内の少なくとも7市町村の計185ヶ所にあり、約3万6000人が避難していることがわかった。		毎日新聞
地域防災計画では、益城（ましき）総合体育館に2000人を収容する予定だったが、予定数を収容できてないのは天井が落ちた影響も否定できない。		西日本新聞
熊本地震で、災害時に被災者が一時滞在する「指定避難所」が、熊本県内の11市町村で計32ヶ所閉鎖されていることが分かった。（地震による建物の崩壊や周辺の土砂崩れが原因）		毎日新聞

7月の説明会時の質疑応答

	質疑内容	市の回答
地域の交流拠点として	イベント祭り、催事用として調理室機能を備えた部屋がほしい。	キッチンルームは作らないが、祭事用の流し、炊事場を検討する。
市民意見の反映について	スポーツ関係者だけでなく、地域のヒアリングは実施しないのか。	この説明会がその場だと考えている。
公共施設の建設について	南平体育館建替えについては、まず市内の公共施設全体から優先度の高いものから計画をしていくべきではないか。	南平体育館は優先度が高いと考えている。ご意見として受け止める。
コートラインについて	コートラインについて意見は反映されているのか。	反映の方向で進めている。
武道利用について	畳を常設してほしい。	原則的に、武道はふれあいホールに集約する方針であるが、マットなど備品で対応する。
外観デザインについて	基本計画のイメージ図が悪い。もっと良いデザインにしてほしい。	外観は、地域住環境に配慮したデザインとするよう今後検討する。

交流機能の充実について（屋外）

駐車場や公園での催事を想定し、屋外に調理スペースを確保する。また、分電盤を設置し、屋外でも電源が取れるよう配慮する。

<メリット>

- 駐車場や公園へのアクセスが容易。
- 屋内のスペースに影響を与えない。
- 換気設備の設置の必要がない。
- 非常時にも役立つ。

<デメリット>

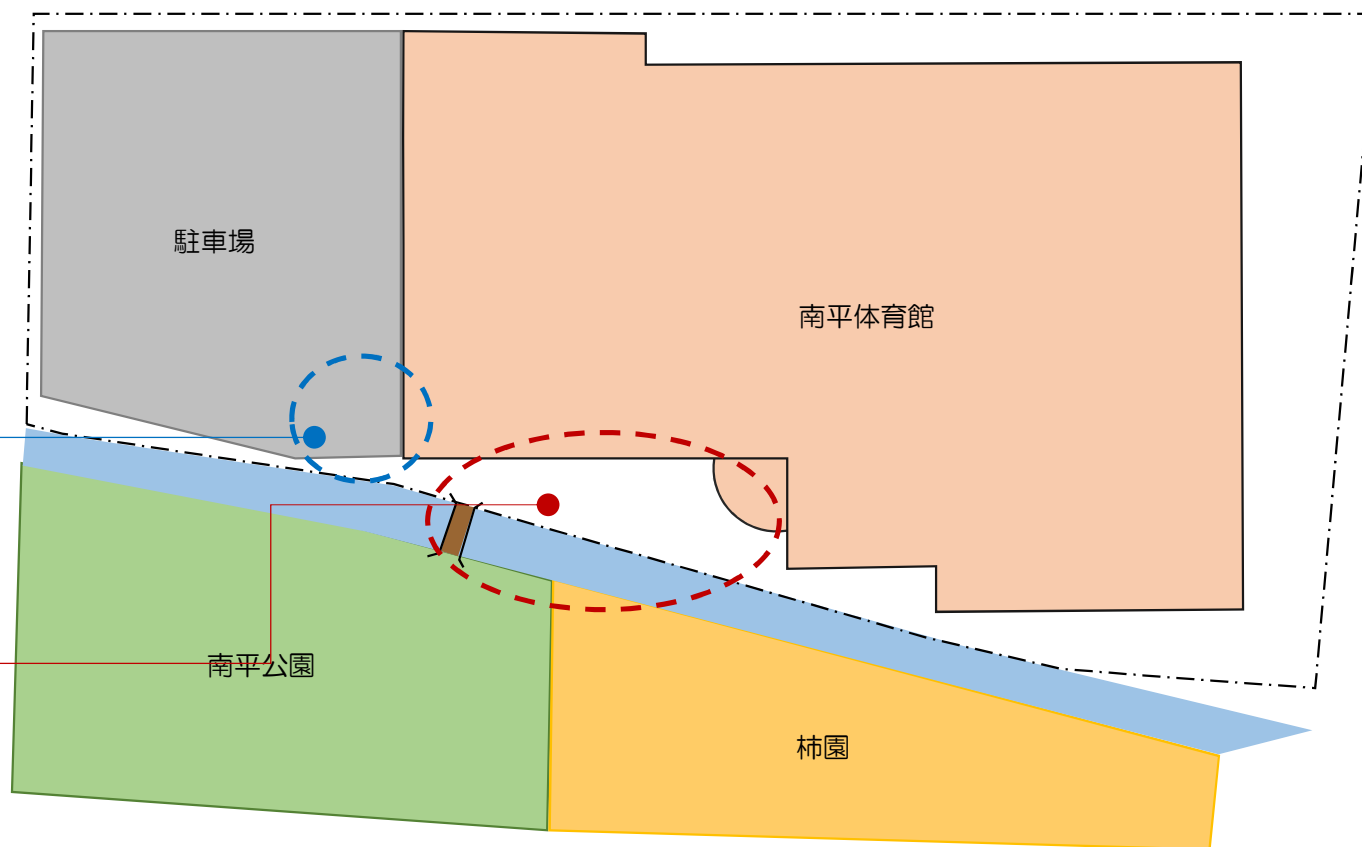
△衛生管理に配慮が必要。



分電盤イメージ



流し台イメージ



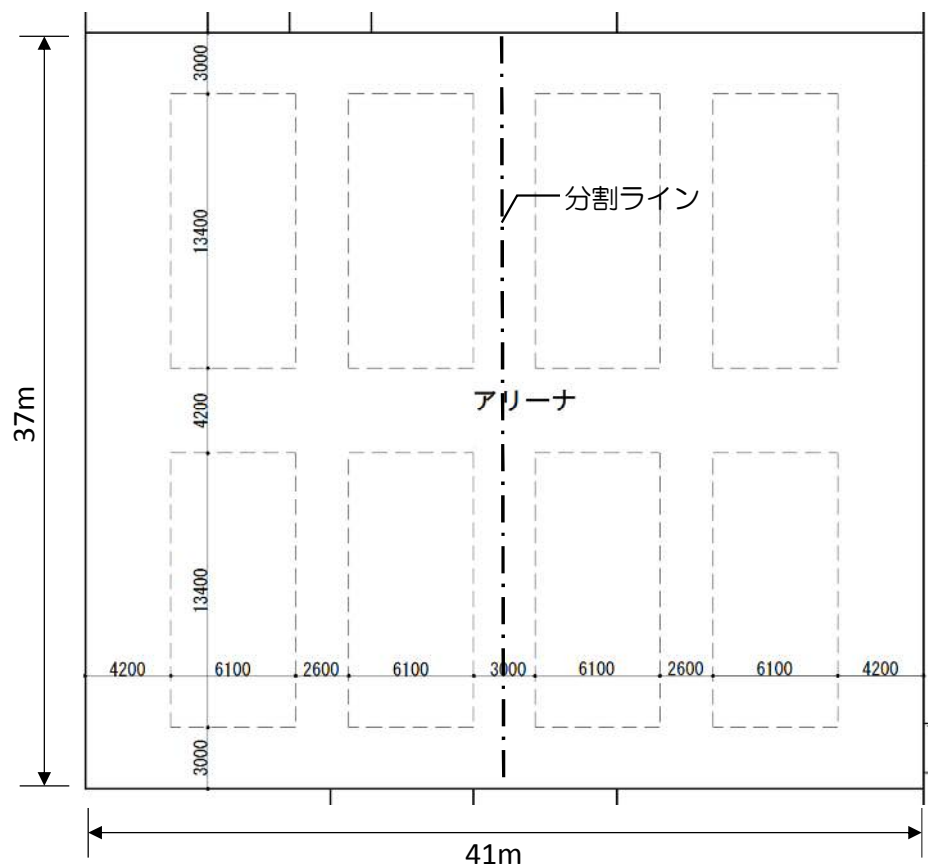
交流機能の充実について

年に数回開催される催事の際など、市民の地域交流の場として活用できる施設とし、スポーツだけでなく賑わいの場としての機能を持たせる。展示パネル、簡易ステージ、ロールマットなどの備品類の設置も検討していきます。



アリーナコートラインについて

アリーナのコートライン（バドミントン等の競技のコート）について、ミニテニスなどの競技に配慮し、隣接するコートとは十分な間隔を持たせた配置とする。また、出入口や器具庫の入口、分割利用などにも配慮を行う。



(アリーナ平面図)



(アリーナ内観イメージ)

武道利用の可能性について

武道に対応できるマットを備品として用意することで、武道の練習を可能とする。必要なときに倉庫から出して使用でき、撤去・収納作業が容易にできるものを採用する。また、武道用マットを常備することにより、避難滞在中の住民の負担軽減に役立つ。

※ 想定対応種目：柔道、空手、合気道



(マットイメージ：U社製品)

<U社製品の特徴>

わずか5～10分で仮設道場が完成。滑り止めや木枠が不要で多目的スポーツマットとして使用できる。

<導入実績>

- ・ 防衛庁 市ヶ谷駐屯地
- ・ 大泉スワロー体育クラブ
- ・ 勝田台中央公園小体育館
- ・ 安並スポーツセンター内武道館 ほか

外観デザインについて

- 敷地の北側、西側には道路があり住宅が広がる為、なるべく圧迫感を与えないような外観とする
- 南側は水路を介した公園からの視認性がある為、周囲と調和を図りながら存在感あるデザインとする
- 地域住民の憩いの場にふさわしい、落ち着きとともに明るく開放的な外装とする

以上の点を基本設計・詳細設計の中で、検討していきます。

防災機能の充実について

【基本計画案】

日野市防災計画、避難上の位置づけを踏まえ、周辺地域の身近な防災拠点として役立つ防災機能を整備します。

■ 災害時の防災機能

【イメージ写真】

防災備蓄倉庫の設置	災害に備え、非常用食料品・水・防災備品等の備蓄を行います。 さらに、仮設テントやマンホールトイレなどの保管も想定します。	 
避難所としての役割	緊急時の一時的な避難場所として施設を開放し、災害時など地域住民を受け入れ、安心・安全を守ります。	
物資集積所	災害発生時において被災者に提供される食料品や毛布、トイレットペーパーなどの生活用品を十分に確保できる体制を整えます。	

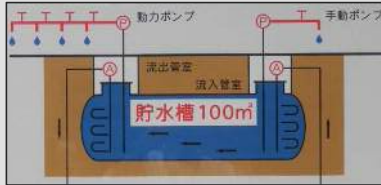
防災機能の充実について

【基本計画案】

■検討を要する防災機能

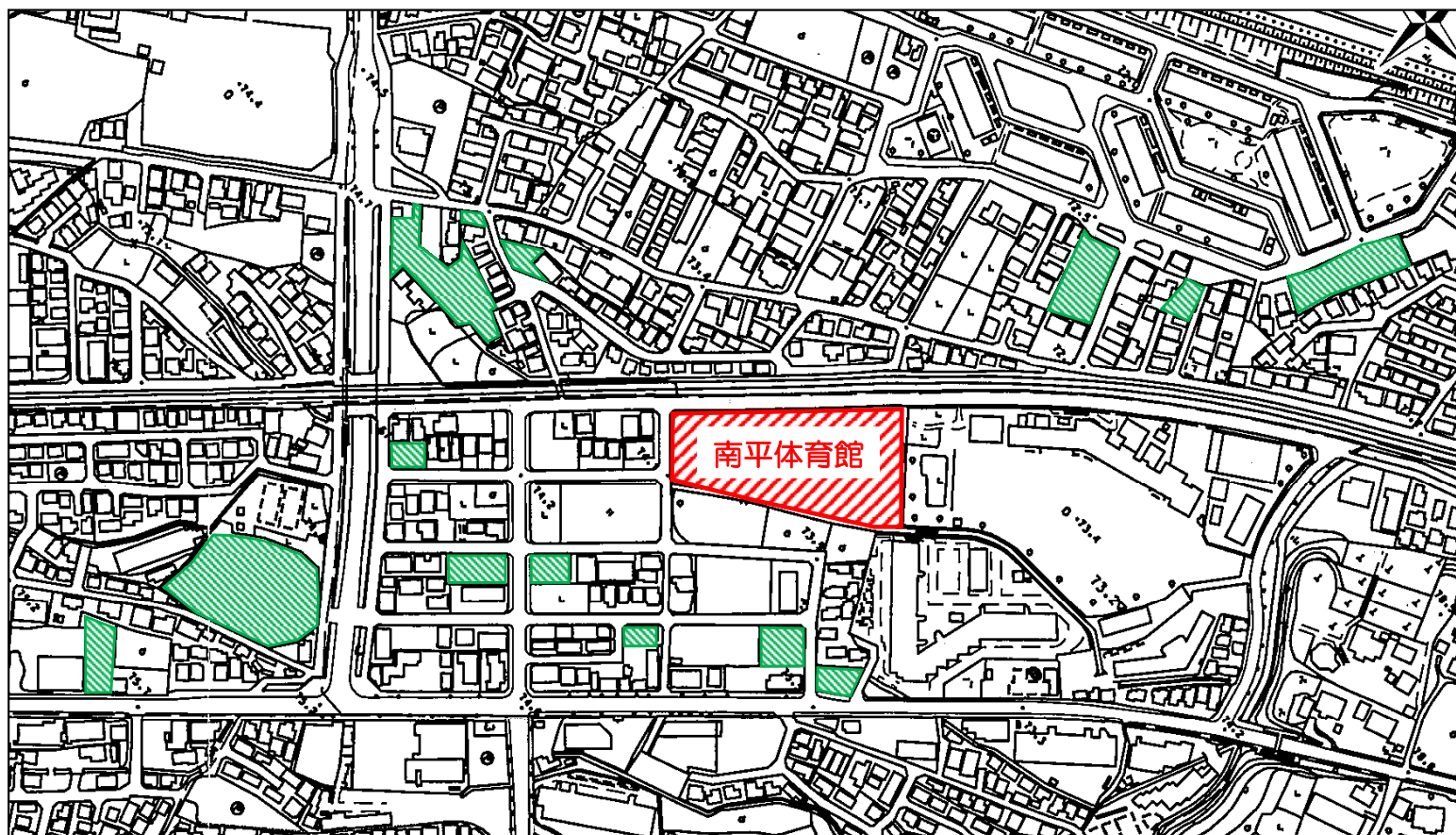
※設計段階でコストも考慮し検討してまいります。

【イメージ写真】

ユニバーサルトイレの設置	非常時には、健全な人も身体の不自由な人も共有できるユニバーサルトイレを設置を検討します。	
非常用飲料水の確保	災害時の飲料水の確保と、火災時には消火用として活用できる耐震性の貯水槽の設置を検討します。	
太陽光発電システム及び蓄電システムの導入	環境への負荷を考慮すると同時に、停電時の電力確保を目的とし、太陽光発電及び蓄電システムの導入を検討します。	
調理スペース、分電盤の設置、武道用マットの常備、災害時対応卓球フェンスカバーの採用	交流やスポーツなど平常時も利用され災害時にも役立つ設備・備品を検討します。	  

敷地外駐車場の検討

南平体育館周辺には駐車場利用されている土地が多くある為、体育館から歩ける範囲内で駐車台数を補えるよう今後検討していきます。



【凡例（現況）】

：駐車場

（出典：東京都地形図 MMT 利許第27027）

今後の予定

- 頂いたご意見や最新の情報などを平成28年10月頃までにまとめます。
- 平成29年3月に、新たな南平体育館の建築条例を制定してまいります。
- 平成29年度からの設計業務を進めてまいります。

民間事業者への参画意向調査 調査結果

1. 実施期間

平成 28 年 9 月 12 日（月）～平成 28 年 9 月 30 日（金）

2. 調査方法

対象企業に電話連絡の上、依頼書、事業概要書（案）、アンケート調査表及び参考資料を送付して依頼した。

3. 調査対象企業

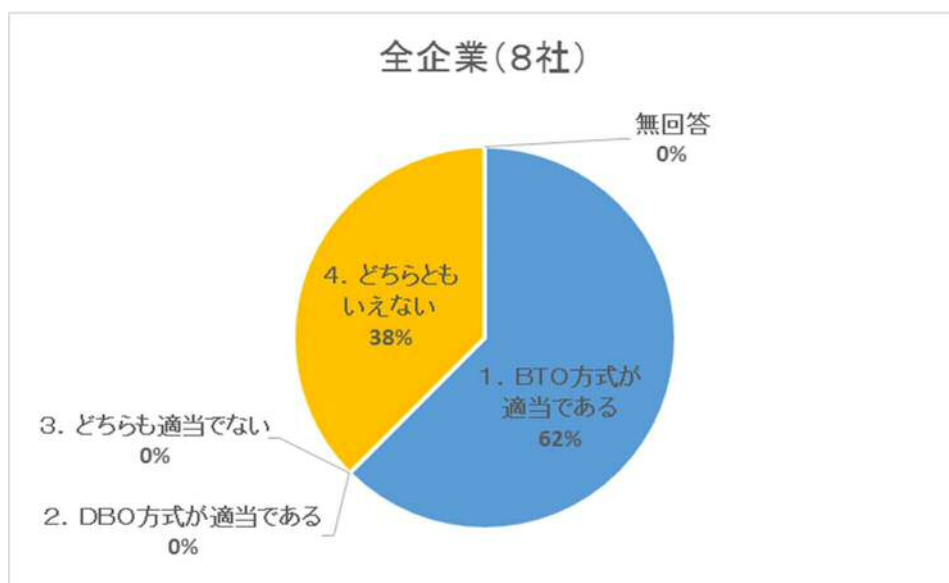
分類	No.	企業名（匿名）	回収
代表企業	1	代表企業 A	1
建設企業	2		×
	3		×
	4	建設企業 C	2
	5	建設企業 D	3
	6	建設企業 E	4
	7	建設企業 F	5
	8	建設企業 G	6
	9	建設企業 H	7
	10	建設企業 I	8

4. 調査結果

アンケート調査結果は、次のとおりである。

■設問1 事業方式について

本事業では、BTO方式又はDBO方式では、どちらが適当だと思いますか。



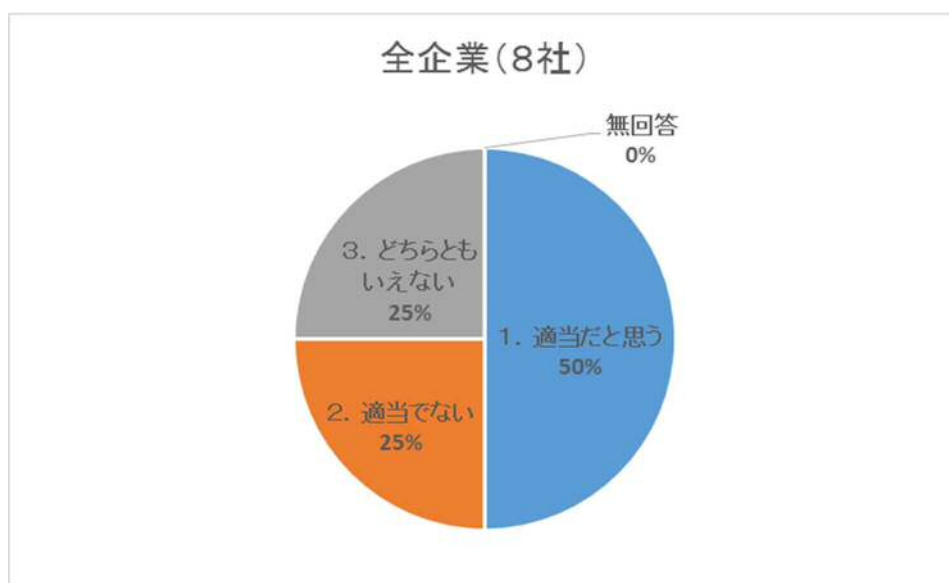
No.	企業名(匿名)	1. BTO方式 が適当である	2. DBO方式 が適当である	3. どちらも適 当でない	4. どちらとも いえない	無回答
1	代表企業 A	○				
4	建設企業 C				○	
5	建設企業 D	○				
6	建設企業 E				○	
7	建設企業 F	○				
8	建設企業 G	○				
9	建設企業 H				○	
10	建設企業 I	○				

No.	企業名(匿名)	回答	意見
1	代表企業 A	1. BTO方式が適当である	資金調達業務まで民間が行ったほうがより民活事業としての特色を出せます。 また、SPC を設立する PFI 事業のほうが、よりリスク分担や業務分担が明確で参画しやすい状況です。
4	建設企業 C	4. どちらともいえない	PFI は財政負担の平準化、施設整備・運営維持管理の一体整備による質の向上、長期契約が可能となりますが、SPC での資金調達が必要となる為資金調達コストがかかります。 DBO は SPC での資金調達が無いため資金調達コストが抑えられ、施設整備・運営維持管理の一体整備、長期契約が可能ですが、財政負担の平準化は望めません。 発注者様の財政状況、お考えによりますが、トータルコストにおいては、DBO とすることが有効だと考えられます。
5	建設企業 D	1. BTO方式が適当である	・独立採算での民間収益事業の実施が必須の場合、PFI(BTO)方式が事業を実施しやすいと考えます。 ・DBO方式は、SPC(維持管理・運営会社)や民間収益事業に参画する企業の意向が施設整備に反映されにくいと捉えております。
6	建設企業 E	4. どちらともいえない	貴市の事業費調達方法によって適切な方式が変わると思われます。一時期に多額の費用を用意できるのであればDBO方式の方が、民間による資金調達コストを考えるとコスト的に有利になると考えます。費用を平準化する意向があればBTO方式の方が良いと考えます。運営、維持管理においてはBTO方式、DBO方式に大きな違いはないと考えます。一方で、契約手続きや支払業務等ではDBO方式の方が若干貴市の手間が増える可能性があります。
7	建設企業 F	1. BTO方式が適当である	回答の通りBTO方式が適当と存じます。 なお、DBO方式の場合、設計・建設企業にとって、SPCは自身の業務に直接関連しないため、SPCへの出資が伴う場合、事業への参加が難しくなることが懸念されます。 なお、SPCの債務を建設企業が連帯保証等により負担しない建付であれば、DBOの場合でも出資の検討は可能です。
8	建設企業 G	1. BTO方式が適当である	・運営・維持管理も含めて検討することで、適切な施設整備が可能になると考えます。 ・ある程度の事業ボリュームが見込まれるため、資金調達から民間で行うことにメリットがあると考えます。 ・運営部分も民間のノウハウを活用した方がサービスの向上が図れ、より市民に活用されると考えます。
9	建設企業 H	4. どちらともいえない	BTO方式とDBO方式の違いを、プロジェクト・ファイナンスの有無だけであると捉えるのであれば、文教施設(体育館等)は国の交付金も一定額期待できることから、多額のプロジェクト・ファイナンスを必要としない可能性もあり、それに見合うコスト(金利、手数料、弁護士費用等)を勘案すると、BTO方式とするとコスト高となる可能性があります。 ただし、行政側としては費用負担の平準化等のメリットもあり、一概にどちらが適当であるとは明言できません。
10	建設企業 I	1. BTO方式が適当である	過去のスポーツ施設PFI事業の多くがBTO方式であり、法的安定性やスキームの熟度が高いため。

■設問 2 事業期間について

(1) 設計・建設期間について

設計・建設期間は、2年4ヶ月間を想定しています。このことについてどのようにお考えですか。

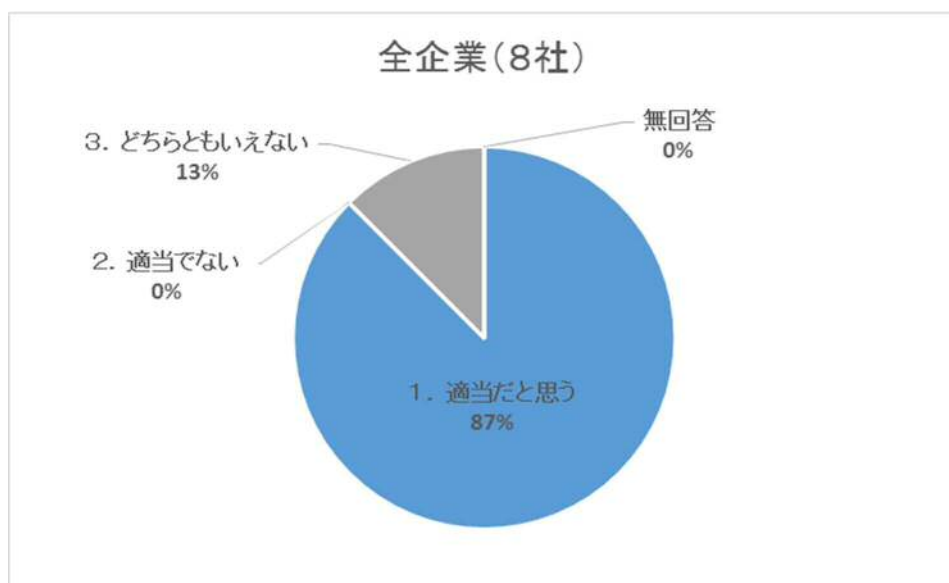


No.	企業名(匿名)	1. 適当だと思う	2. 適当でない	3. どちらともいえない	無回答
1	代表企業 A	○			
4	建設企業 C			○	
5	建設企業 D		○		
6	建設企業 E		○ →19ヶ月		
7	建設企業 F	○			
8	建設企業 G			○	
9	建設企業 H	○			
10	建設企業 I	○			

No.	企業名(匿名)	回答	意見
4	建設企業 C	3. どちらともいえない	事業内容、要綱が提示されていないため、期間の妥当性については判断しかねます。
5	建設企業 D	2. 適当でない	弊社の同規模体育館の実績から建設期間は2年程度であったので、設計期間(基本設計と実施設計両方で)と合わせて36ヶ月～40ヶ月程度が望ましいと考えます。
6	建設企業 E	2. 適当でない	計画地周辺の状況(住宅地・前面道路等)からもう少し余裕のある工期が適当かと思われます。また、東京オリンピック関連事業やオリンピック後の民間投資の状況(現在、建設費の高騰、作業員不足等からオリンピック後に事業を先送りしている民間企業も多数存在します。)によっては、作業人員の不足や資材関連の不足等が発生するかもしれません。通常よりも余裕を持った期間設定を行った方が、本事業への参画モチベーションを向上させることになると考えます。しかしながら、明確にどの程度の建設需要が発生し、どの程度の作業員等の不足が発生するかは明確な回答がないのが現状です。よって、ご設定されている期間に3か月程度の余裕をもった発注とすることがよろしいかと思います。
8	建設企業 G	3. どちらともいえない	オリンピック前の資材、労務日等の変動が想定され、余裕のある工期設定が必要だと考えます。
9	建設企業 H	1. 適当だと思う	P7 の 03 事業スケジュールでは、設計期間が 12 ヶ月、工事期間が 16 ヶ月となっていますが、設計期間はやや余裕がある(開発許可等の特別な許認可がないという前提)のに対して、建設期間はタイトなスケジュールとなっているように見受けられます。ただ、PFI 事業であれば、設計と建設の多少のオーバーラップは可能であることから、施設整備期間全体として 2 年 4 ヶ月間は可能と思われます。

(2) 開業準備期間について

開業準備期間は、2ヶ月間を想定しています。このことについてどのようにお考えですか。

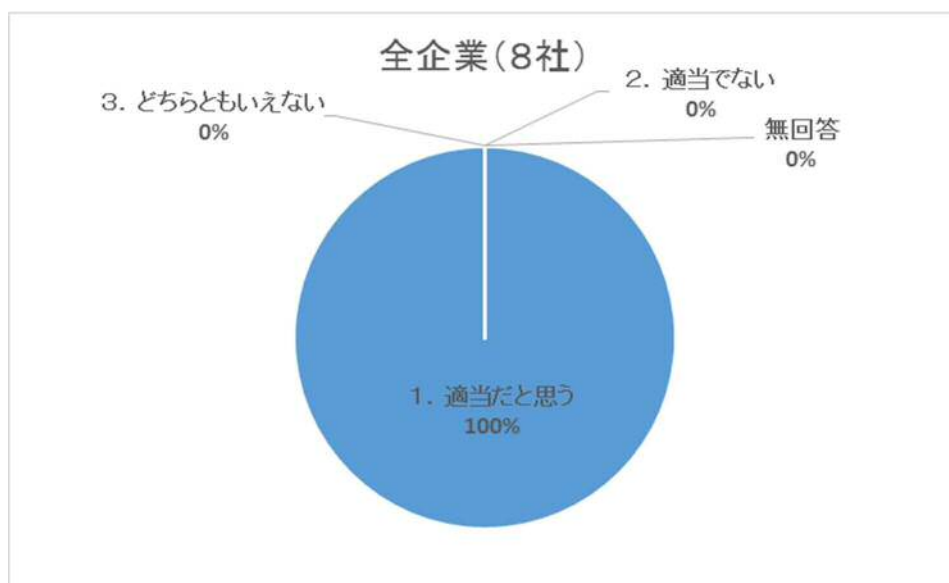


No.	企業名(匿名)	1. 適当だと思う	2. 適当でない	3. どちらともいえない	無回答
1	代表企業 A	○			
4	建設企業 C	○			
5	建設企業 D			○	
6	建設企業 E	○			
7	建設企業 F	○			
8	建設企業 G	○			
9	建設企業 H	○			
10	建設企業 I	○			

No.	企業名(匿名)	回答	意見
5	建設企業 D	3. どちらともいえない	運営事業や独立採算事業次第であり、候補会社へのヒアリングが未了であることから、判断しかねます。

(3) 維持管理・運営期間について

維持管理・運営期間は、約 15 年を想定しています。このことについてどのようにお考えですか。



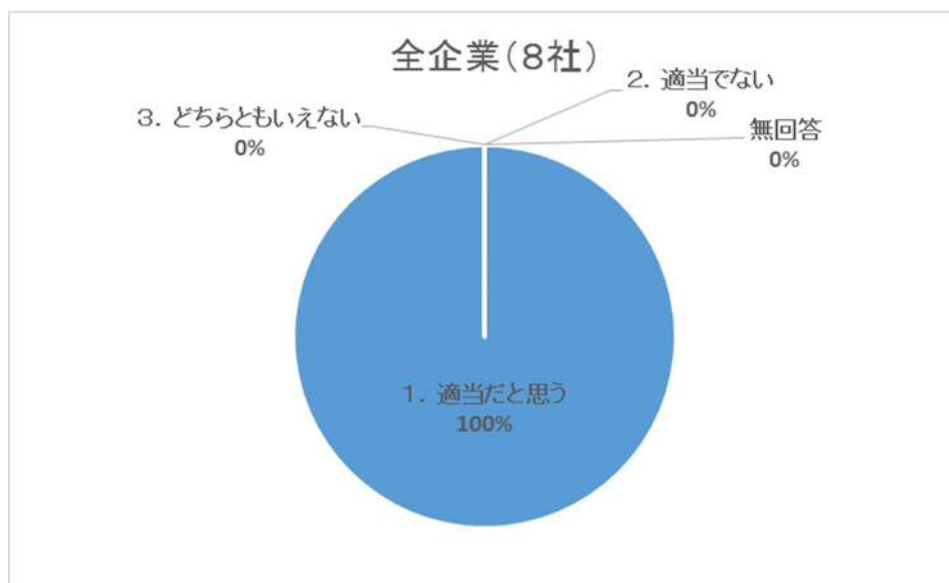
No.	企業名(匿名)	1. 適当だと思う	2. 適当でない	3. どちらともいえない	無回答
1	代表企業 A	○			
4	建設企業 C	○			
5	建設企業 D	○			
6	建設企業 E	○			
7	建設企業 F	○			
8	建設企業 G	○			
9	建設企業 H	○			
10	建設企業 I	○			

No.	企業名(匿名)	回答	意見
4	建設企業 C	1. 適当だと思う	大規模修繕を含めないという前提であれば、15 年以内が妥当であると思料致します。

■設問3 事業範囲について

(1) 想定事業範囲について

民間事業者に委ねる業務として想定しているのは、事業概要書7頁記載のとおりです。この業務範囲（ア～キ）については適当だと思いますか。



No.	企業名(匿名)	1. 適当だと思う	2. 適当でない	3. どちらともいえない	無回答
1	代表企業 A	○			
4	建設企業 C	○			
5	建設企業 D	○			
6	建設企業 E	○			
7	建設企業 F	○			
8	建設企業 G	○			
9	建設企業 H	○			
10	建設企業 I	○			

No.	企業名(匿名)	回答	意見
1	代表企業 A	1. 適当だと思う	ただ、既存解体業務については、アスベストの問題なども考慮し、場合によっては(民間がリスクと捉えてしまう要素がある場合など)市の業務とすることも検討すべきと考えます。
4	建設企業 C	1. 適当だと思う	埋蔵文化財や土壌汚染に関して、発注者様にて先行実施され、情報開示された上で適正なリスク分担をしていただければ、妥当かと思料致します。 事業者の業務のうち、地質調査も先行して発注者様にて実施されれば、提案時により確度の高い計画、価格が提示され、事業は円滑に進むと考えます。
6	建設企業 E	1. 適当だと思う	適当だと思えますが、懸念されるのが「大会・イベント等運営支援業務」です。大会やイベントの開催頻度が年度毎に大きく変わる場合には、該当業務費の見直し(追加、減額)が必要になります。入札時点で想定で費用を入れ込む場合にはリスク見合いの費用を見込んだり、逆に想定以上に費用を縮減したりされることも考えられるため、入札時点での条件(開催頻度等)を明確にし、合わせて頻度の変更に伴う業務費見直しの方法も提示された方が良いかと思います。また、大会、イベントの開催に伴い、スポーツ教室事業等が開催できなくなることも考えられます。よって、スポーツ教室事業等の利用料金を民間事業者が収入とすることができるようなスキームの場合にも、それらの収入減に対しての対応を規定する必要があると思います。

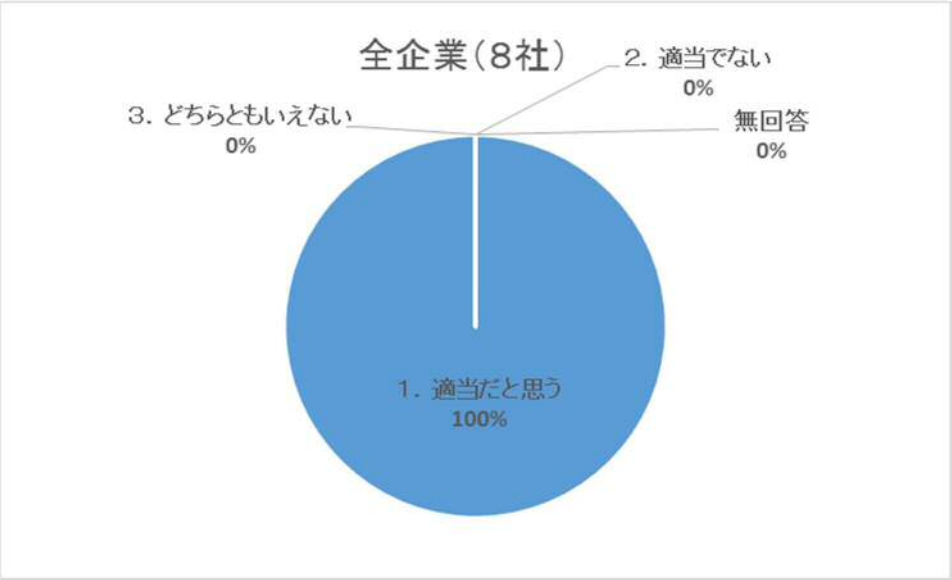
(2) 独立採算業務について

事業概要書 7頁「ク. その他(自由提案事業)」について、独立採算業務として実施できる(又は、実施が検討できる)提案がございましたらご記入ください。なお、本公共施設を使用して実施する提案、民間施設を別途整備して実施する提案のどちらでも構いません。

No.	企業名(匿名)	意見
1	代表企業 A	近隣地区のマーケティングをしてみないと詳細は不明ですが、売店やカフェ程度を想定できると思います。 事業敷地が狭いので、別途整備(定期借地方式)よりも合築(床賃貸方式)のほうがいいかもしれません。
4	建設企業 C	実際に弊社が過去に経験している案件において、食堂、売店等の運営を行う企業が維持管理・運営期間として設定される15年程度の長期間の出店を入札段階で確約することは大変困難であるのが実情であるため、その契約条件等はテナント入居の市場動向等を充分加味した上で条件設定して頂くことを強く希望致します。 食堂・売店等の運営を事業に含め独立採算とする方向性は適当と思料致しますが、施設の利用や周辺環境に見合った運営条件の設定(無償あるいはごく低廉な施設使用料、光熱水費の負担割合、テナント退去時にモニタリングによる減額対象から外す等)をするなど参画の障壁を緩和して頂く必要があると思料致します。
5	建設企業 D	施設利用者を対象として、食堂、売店などは検討できると思いますが、何れもどの程度の需要が見込めるか、また周辺に競合する飲食・物販施設があるか等に拠ります。
6	建設企業 E	可能性がありそうな事業 ・多目的室やトレーニング室を利用したフィットネス事業(民間事業として確保できる施設使用時間によっては実施できない場合が考えられます。) ・小規模のカフェレストラン(ただし、計画地の場所から多くの利用者が望めない可能性があり、施設使用料の設定は低廉な設定にする必要があります。) ・スポーツ用品販売(あくまでも施設利用者の利便性向上に向けた事業のため施設使用料は払えない可能性があります。)
7	建設企業 F	弊社は建設企業のため、回答を控えさせていただきます。
8	建設企業 G	年間の利用人数や確保できる駐車場台数等の条件により、売店やカフェ等の提案の可能性はありますが、テナントなる事業者へヒアリング必要があると考えます。
9	建設企業 H	弊社は建設会社なので、直接独立採算業務を実施するわけではありませんが、可能性として、 ・売店(飲食物、スポーツ関連グッズ) ・レンタル(シューズ等の競技用具) ・トレーニングルームにおける会員制事業 等が考えられると思います。
10	建設企業 I	売店、軽食・喫茶、カフェ

■設問 4 事業者の収入について

支払形態は、事業概要書 7 頁「02 支払形態」の通り、サービス購入型を検討しています。このことについてどのようにお考えですか。



No.	企業名(匿名)	1. 適当だと思う	2. 適当でない	3. どちらとも いえない	無回答
1	代表企業 A	○			
4	建設企業 C	○			
5	建設企業 D	○			
6	建設企業 E	○			
7	建設企業 F	○			
8	建設企業 G	○			
9	建設企業 H	○			
10	建設企業 I	○			

No.	企業名(匿名)	回答	意見
4	建設企業 C	1. 適当だと思う	サービス購入型とすることは適当と思料致します。 しかし、光熱水費の負担について、施設の使用需要により大きく変動致します。公共施設の需要変動については、民間企業ではコントロールが出来ないため、光水熱費は発注者様にてご負担いただきたく存じます。または最低保証等の対応をお願い申し上げます。
7	建設企業 F	1. 適当だと思う	回答の通り、支払形態はサービス購入型にて適当と存じます。 なお、建設費支払い方法に関して、建設期間中の中間払いや竣工時の一時金支払いが可能な場合、資金調達額の縮小や建設中金利の減少につながり、いくらか事業費が縮小するのではないかと思料します。
9	建設企業 H	1. 適当だと思う	サービス購入型であっても、利用料金制とするか否か、及びその需要変動リスクの官民分担ルールによって考え方が異なると思いますが、「サービス購入型」か「独立採算型」という比較においては、サービス購入型が適当と思われます。

■設問 5 市内企業との連携について

市内企業の本事業への参画を期待しています。市内企業との連携にあたって、参加資格要件等へのご要望があればご記入ください。

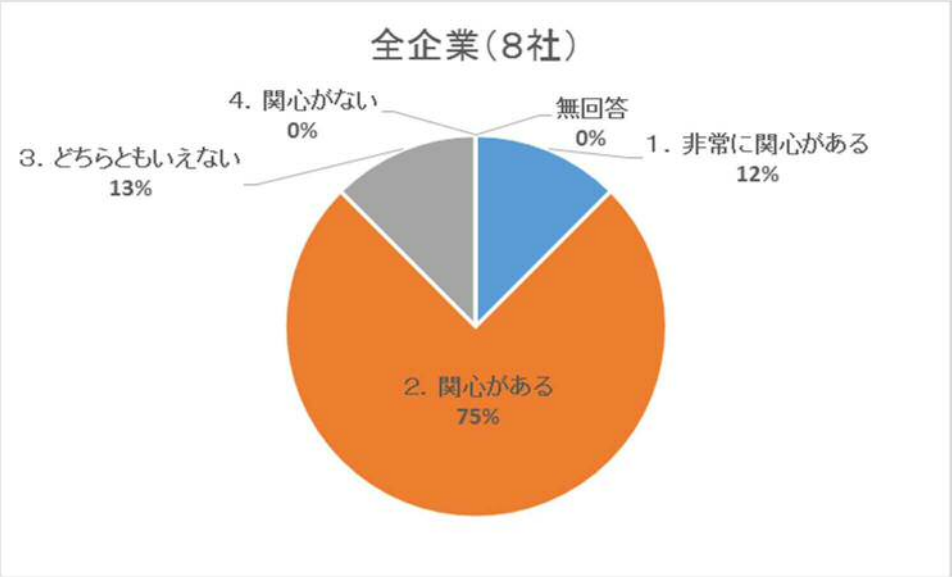
No.	企業名(匿名)	意見
1	代表企業 A	市内事業者を構成員または協力企業とすることは地域貢献の点で大きな要因ですが、参加資格要件とするよりも評価基準としたほうが、競争上の観点から好ましいと考えます。
5	建設企業 D	・地元企業とのJV組成を必須とする場合、施工実績は建設会社のいずれかが有していれば良いとすること、また地元建設企業は貴市発注工事を施工している可能性も高いことから、現場での災害等により指名停止を受けた場合の資格喪失について、過度の負担とならないような配慮をお願いします。 ・但し、現状では地元企業の参画意向がわからないことから、参加要件としては、JV若しくは単体どちらでも可としていただきたい。
6	建設企業 E	建設企業を対象に考えると、ひとつには、施工実績や経審点等の要件を地元企業に合ったものにすることが考えられます。もしくは、共同企業体等での参画を念頭に、複数社で一つの業務を担う場合には、いずれか1社が資格要件を満足すれば良いとの規定することが考えられます。 参加資格要件以外では、地域貢献に対する提案を求めて提案評価点の配点を高くすることにより、各業務において地元企業の参画を即すことにつながると考えられます。この場合には、応募(入札)グループに参画せずとも、下請けや協力会社として事業参画が可能であり、地元企業にとっては受注グループに左右されることなく参加することが可能となると思います。 地元企業以外の企業としては、地元企業を必ず参加グループに入れなければならないとの要件を出された場合には、地元企業の参画が望めない場合には参加できなくなるため、絶対要件としていただかない方が参加しやすいです。
7	建設企業 F	市内企業の構成員企業や協力企業としての参画を必須条件化することには懸念がございます。 上記の懸念として、案件に参加できる事業者が限られる・落札できなかったコンソーシアムに含まれる市内企業は本件に関して仕事を受けられない等と考えられます。 なお、上記の通り市内企業の構成員企業や協力企業としての参画を必須条件とするのではなく、審査の加点要素として位置付けていただきたく存じます。
8	建設企業 G	建設企業は、PFI や体育館施工実績のある事業者が妥当と考えます。
9	建設企業 H	市内企業の参画を前提とする場合、建設企業の場合は、参加資格要件で市内業者とJV とすることを規定する場合がありますが、逆にハードルとなる可能性もあります。 参加資格要件では市内企業と JV とすることを規定するのではなく、JV または下請けを含めて、地元企業への発注率を〇%以上とするというような内容の方が良いと考えられます。

■設問6 本事業で懸念するリスクと分担

本事業で特に懸念されるリスクやその分担等へのご要望があればご記入ください。

No.	企業名(匿名)	意見
1	代表企業 A	本事業が PFI 事業(サービス購入型 BTO)で実施されるのであれば、特に懸念すべきリスクはありません。官民の適切なリスク分担を望みます。
4	建設企業 C	以下のリスクが想定されるため、官民のリスク分担を明確に提示して頂き、又早期の情報開示をお願い致します。ご配慮頂きたく。 ○物価変動リスク 物価変動公共工事標準請負契約約款に規定される、全体スライド、単品スライド、インフレスライドの各条項が確実に網羅されていることに加え、物価スライドの算定にあたっては入札時点からの物価上昇を基準にすること、また、1.5%の足切りの廃止、実勢価格による算定、発注者様からの設計変更指示・要望に対しての適正な清算、工期遅延に対する適切な対応が不可欠です。 ○土壌汚染(測量・地質調査の誤りリスク) 事前に判明している、していないにかかわらず、契約・スケジュールの変更等に応じて頂き、発注者様に業務対価の増額をご負担頂きたく存じます。 ○不動産取得税リスク BTO である場合、発注者様への施設引き渡し前に開業準備業務を行うと不動産取得税がかかることが想定され、事業全体のコストアップとなりますため、開業準備業務は施設引き渡し後として頂きたく存じます。
5	建設企業 D	建替えであり、トラックレコードがない光熱水費と消耗品の負担については貴市負担としていただいた方がリーズナブル(民間負担とすると、安全サイドで見込みがちになる)であると考えます。
7	建設企業 F	施設整備時期によっては東京オリンピック等の影響を受け、労務・資材の物価上昇が懸念されます。物価上昇に対しては物価スライド条項の検討をお願いいたします。また、適用基準には建設物価指数等の数値を用いる等、基準の明確化をお願いいたします。
8	建設企業 G	・物価上昇については、協議とする形を希望します。 ・民間収益事業部分について、高熱水道の費用は市の負担を希望します。
9	建設企業 H	実際に適用可能な(手間のかからない)物価変動リスクの分担ルールを検討していただければと思います。
10	建設企業 I	計画されている工事時期には、建設資材価格の高騰、作業員不足が予想されます。余裕を持った予定価格の設定と、物価高騰が生じた際の対応の明記について、要望いたします。

■設問 7 本事業への関心（参加意向）について
貴社では、本事業への参加についてどの程度関心がありますか。



No.	企業名(匿名)	1. 非常に関心 がある	2. 関心がある	3. どちらとも いえない	4. 関心がない	無回答
1	代表企業 A	○				
4	建設企業 C		○			
5	建設企業 D		○			
6	建設企業 E		○			
7	建設企業 F		○			
8	建設企業 G		○			
9	建設企業 H		○			
10	建設企業 I			○		

No.	企業名(匿名)	回答	意見
1	代表企業 A	1. 非常に関心がある	現在スポーツ施設の PFI 事業へ積極的に参加をする方針です。
4	建設企業 C	2. 関心がある	官民のリスク分担が適正であるか、利益を確保できる事業内容となるか、また、コンソーシアム組成の可否を勘案して参画するか検討致します。
5	建設企業 D	2. 関心がある	出件条件に合致した企業とチームを組成することができればという条件付きの意向です。 なお、要求水準に見合った事業費の確保と、適正工期が確保されていることが必須と考えております。
6	建設企業 E	2. 関心がある	想定されている事業期間(施工期間)での繁忙さ、事業予算、設定工期等によりあらためて参画検討したいと思います。
7	建設企業 F	2. 関心がある	現状の資料では明確な判断はできませんが、施設種類として体育館施設案件には関心がございます。 今後、事業の内容が明確になりましたら、改めて内容を拝見し取り組み可能性を検討いたします。
8	建設企業 G	2. 関心がある	体育館の施工実績が多数あるため、前向きに検討したいと考えます。
9	建設企業 H	2. 関心がある	体育施設を運営するスポーツ運営企業と組むことができれば、積極的に検討したいと考えております。
10	建設企業 I	3. どちらともいえない	規模が小さいため、工事規模に関する弊社の取組み判断基準から外れる可能性がございます。

■設問 8 その他本事業へのご意見・ご要望等

No.	企業名(匿名)	意見
4	建設企業 C	全国に案件を抱える建設企業にとって、本事業と関係の無い現場での労災等の事故による指名停止は過度なリスクとなるため、欠格事由として、労災事故の指名停止は除いて頂きたく存じます。
8	建設企業 G	・現状の利用状況についてお示しいただければと思います。 ・運營業務のスポーツ教室で求められるレベル等についてご教示いただければと思います。



-  : 公共施設
-  : 宅地
-  : 駐車場
-  : 公園・緑地
-  : 畑など
-  : 店舗・その他

◆駐車場候補地＜現況写真（2016.10）＞

1	2	3	4	5
				
				
6	7	8	9	10
				
				

11



12



13



14



15



16



17



18



19



20



日野市立南平体育館建替基本計画策定業務報告書

平成 29 年 1 月発行

発行 日野市産業スポーツ部文化スポーツ課

住所 〒191-8686 東京都日野市神明 1-12-1

電話 042-585-1111（代表）042-514-8465（直通）

